

- 矩(く・中村/板垣) → 宗詹(宗胆そうたん・板垣/中村/源、国学者) C 2 5 4 7
- 矩(く・菊池/箕作) → 秋坪(しゅうへい・箕作みつくり、洋学者) Y 2 1 3 1
- 矩(く→かね・丹羽/徳川) → 準子(のりこ・徳川とくがわ、矩姫、丹波/歌) J 3 5 3 0
- 翮(く・大村) → 周斎(しゅうさい・大村おおむら、漢学者) H 2 1 4 2
- 衢(く;号) → 寂本(じやくほん;道号・達道、曹洞僧) W 2 1 2 0
- 具(ぐ・大鐘) → 義鳴(よしなり・大鐘おおかね、藩士/歌文) F 4 7 4 2
- 俣(ぐ→ひろし・前野) → 頤庵(いあん・前野まえの/藤塚、藩医) K 1 1 6 7
- 愚(ぐ・吉澤) → 愚(おろか・吉澤よしざわ/桂、国学者) E 1 4 2 5
- 愚庵(ぐあん・周及) → 愚中(ぐちゅう;道号・周及しゅうぎゅう、臨濟僧) C 1 7 4 6
- 愚庵(ぐあん・樋口) → 武(たけし・樋口ひぐち、藩士/儒/砲術) O 2 6 3 9
- 愚庵(ぐあん・森田) → 筋斎(せつさい・森田もりた、儒者/尊攘論) 2 4 1 8
- 愚菴(ぐあん・木舗/三枝) → 百年(ひやくねん・木ほく・三枝/木舗、庄屋/詩人) I 3 7 1 2
- 杭瀬川の翁(くいせがわのおきな) → 木因(ぼくいん・谷、俳人) 3 9 6 1
- 九一(くいち・武廣) → 遜(ゆずる・武廣たけひろ、奇兵隊員/日記) G 4 6 2 3
- 九一郎(くいちろう・勝田) → 鹿谷(ろっこく・勝田かつた、藩儒者/詩) C 5 2 1 5
- 九一郎(くいちろう・勝田) → 正履(せいり・勝田かつた、鹿谷男/藩儒) J 2 4 7 8
- 九一郎(くいちろう・沢井) → 若木(しもと・沢井さわい、歌人) N 2 1 2 3
- 玖一郎(九一郎くいちろう・松田) → 雪柯(せつか・松田、神職/儒/書家) K 2 4 7 7
- 駒一郎(くいちろう・枝吉) → 神陽(しんよう・枝吉えだよし、藩儒/勤王派) Q 2 2 0 2
- 九隠斎(くいんさい) → 百池(ひやくち・寺村、俳人) E 3 7 6 6
- 1700 空阿(くうあ・中田) 1678 - ? 俳人:去来門/京の嵯峨住、伝書、
1759百蘿(茂竹)「岡崎日記」に詳述、広瀬百蘿(春信)の師
- C1718 空阿(くうあ・別号;白蓮社/盤溪隱士、俗名;源義亮よしあき)?-? 江中期浄土僧、文筆/歌/紀行、
1752「国風随」、77鎌倉江ノ島紀行「佐賀美路乃記」、78「いそのかみ」81「月名考」著、
1793「雲上再営図」98「冠辞いそのかみ」著
- 1732 空阿(くうあ・法諱;如日/字;照空、丸山守喜男)1750-1812⁶³ 備中笠岡の人、
京の光天について出家、真言僧:春日寺智暉門/学如・光天門、
諸国遊歴;塩竈・平・水戸等に住、博覧強記/俳諧・歌を能くする、
1788江戸で成美と歌仙、1788「一夜流行」/「俳諧水滸伝」「俳諧ふくろ草紙」著、
「後樂園記」「松島紀行」「奥州行程記」「俳諧志穀じう」「遅月庵文集」著、
[空阿の別号] 遅月/遅月庵
- 空阿(くうあ;号/空阿弥陀仏) → 明遍(みょうへん;法諱、信西男/真言僧) G 4 1 6 8
- 空阿(くうあ;法名) → 宗邑(むねむら・峰岸みねざし、陪臣/国学) E 4 2 2 8
- 空蛙(くうあ・宮部) → 林平(りんぺい;通称・宮部、藩士/砲術) K 4 9 7 7
- 空庵(くうあん・松本) → 清(きよし・松本まつもと/源、医者/歌) V 1 6 2 8
- 嵯夷(紀内ぐうい・秋元) → 澹園(たんえん・秋元/秋本/鈴木、儒者/詩文) H 2 6 9 5
- 空印(くういん;法諱) → 心応(心王しんのう;道号・空印、曹洞僧) P 2 2 6 0
- C1719 空慧(くうえ;法諱) 1661 - 1746⁸⁶ 真宗大谷派僧;山城西方寺住職、宗乗・余乗に精通、
大谷派本願寺の教授;寮生指導、「宗門開關記」「真宗改悔辨」「真宗妨難記」「真宗秘訣鈔」
「親鸞聖人略伝」「親鸞聖人御系図」「浄土文類聚鈔管解」「安樂集扶論」外著多数
- 空慧(くうえ;字) → 慈妙(じみょう;法諱、真言律僧) B 2 1 9 0
- 空円(くうえん;法名) → 実胤(さねたね・正親町おおぎまち/藤原、権大納言) K 2 0 9 3
- 空円(くうえん;法名) → 公貫(きんつら・三条/正親町三条、日記) R 1 6 4 4
- 空煙(くうえん・阿部) → 忠秋(ただあき・阿部あべ、藩主/家訓書) P 2 6 0 6
- 空応(くうおう・町尻) → 説望(かねもち・町尻まちじり/藤原、廷臣/神道) V 1 5 7 2
- C1710 空我(くうが・高松たかまつ) ? - ? 播磨姫路の商人?/俳人;才麿門、

1692才麿「椎の葉」27句入、
[いづくかへ月に馴れたる芦の杖](椎の葉;発句29、
浪速から来たので藜かざの杖を芦の杖と洒落る/どこへ向かうか旅する老人、
才麿の脇句;すがる鳴く夜を先づ二夜ふたは三夜みよ;まず鹿の鳴く夜を2-3夜行脚)

1733 空芽(くうが) ? - ? 伊勢山田の俳人;蕉門、
1696長水編「桃舐集」98「続猿蓑」入、
[芥子け蒔くと畑はまで行かむ月見哉](続猿蓑;巻下、
芥子は八月名月頃に蒔く/畑仕事にかこつけ月見の風流心を隠すシャイな人)

空雅(くうが;字) → 日堯(にちぎょう;法諱・明静院、日蓮僧) B 3 3 3 9

空雅(くうが;字) → 日脱(にちだつ;法諱・一円院、日蓮僧) C 3 3 8 2

1701 空海(くうかい;法諱、俗名;佐伯さきき真魚まお、佐伯田公たきみ男) 774-835 62 日本真言宗の開祖、
讃岐屏風浦の生/788上京/大学明経科入学/793出家/804入唐留学生;惠果和尚門/806帰国、
810東大寺別当/16高野山金剛峰寺開、23東寺を鎮護国家真言道場/大僧正/28綜芸種智院設、
詩歌/能書;三筆の1、「三教指帰」「文鏡秘府論」「性靈集」「十喻詩」「吽字義」「十住心論問答」、
「篆隸万象名義」「麗氣記」「弘法大師詠歌」「弘法大師急就章」「弘法大師口訣集」外著多数、
勅撰3首;新勅撰(574)続千載(928)風雅(1788)、経国集8首入

[君見ずや君見ずや九州八嶋無量の人を・・誰か能く万年の春を保ち得たる

貴き人も賤しき人も惣べて死して去る 死して去つては灰塵となる

歌堂舞閣は野狐の里 夢の如く泡の如し 電影の賓ひん(性靈集)(九州は中国、八嶋は日本)

[空海の号] 号;遍照金剛、諡号;弘法大師、真雅(真言僧)の兄

空海(くうかい;法諱・寂室) → 寂室(じやくしつ;道号・堅光、曹洞僧/歌) V 2 1 9 8

空外(くうがい;字) → 成実(じょうじつ;法諱・空外、真言僧) J 2 2 4 6

寓絵堂(ぐうかいどう) → 華山(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学) 1 5 8 3

E1766 空覚(くうかく;法諱) ? - ? 鎌倉南北期;僧/法師、

歌;1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加(3首)、

[あま人の汐汲む秋の袖に猶月こそすまの浪はかけけれ](朝棟亭歌会;103)、

[数ならぬうき身なれども秋の夜の月に慰む心なりけり](同;105)

C1720 空覚(くうかく;法諱) ? - 1691 浄土宗西山派西谷流の僧、京の市原恵光寺再興、

1670「法然上人之年譜」、「円頓戒補助義弾劾」著

空覚(くうかく;法名) → 実教(さねのり・小倉おぐら、廷臣/歌人) D 2 0 4 3

空覚(くうかく;法名) → 鳥羽天皇(とばてんのう、歌人) O 3 1 6 8

空覚(くうかく;字) → 覚眼(かくげん;法諱・空覚、真言僧) J 1 5 7 4

空画(くうかく;号) → 仏猊(ぶつげい;法諱、天台僧/教育) D 3 8 3 0

空覚上人(くうかくしやうにん) → 了賢(りやうけん;法諱/了庵、真言僧) H 4 9 2 8

寓画斎(ぐうがさい) → 華山(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学) 1 5 8 3

寓窩子(ぐうかし) → 竹人(ちくじん・川口/辻、藩士/俳人) D 2 8 2 4

空観(くうかん;字) → 如実(にょじつ;法諱・空観、真言僧) F 3 3 9 3

空観(くうかん) → 北富舎(ほくふしゃ、名;通達/商家/書) D 3 9 8 7

空願(くうかん;法号) → 皆虚(かいきょ;号・鬼藤、真宗僧/俳人) 1 5 9 5

空閑人(くうかんじん) → 祇空(ぎくう・稲津、俳人) 1 6 9 4

空観房(くうかんぼう) → 成頼(しげより/なりより・藤原/葉室、平家作者?) D 2 1 3 9

空居(くうきよ) → 一叟(いっそう・並木、俳人) B 1 1 5 6

空経(くうきやう) → 浄嚴(じやうごん;法諱・覚彦、真言律僧) S 2 2 2 2

1734 空暁(くうぎやう;法諱・写本には定暁法師) ?-? 南北期?法師、歌人、1364成立「新拾遺」1342、

[うらむべき人目のひまもいく度か数ならぬ身に過しきつらん](新拾:十五恋1342)

B1724 空々(くうくう・宿屋やどや、名;慎、字;黙甫/通称;喜太郎) 1735-1811 77 田安家家臣、儒者、音曲家、
琴法;幸田親益門/江戸牛込で門弟教授、琴曲:「五雑組翼」著(未完)

空々庵(くうくうあん;号) → 智暉(ちき;法諱・大幻;字、真言僧) C 2 8 3 7

空々居士(くうくうこじ) → 師道(しどう・屋代/源/永邨、幕臣/書家) V 2 1 2 6

空々道人(くうくうどうじん) → 僧敏(そうびん;法諱・密成;字、天台僧) C 2 5 8 2

- 空華(くうげ;号) → 元鶴(げんかく;法諱・雪子;道号、黄檗僧) I 1 8 2 3
空華(くうげ・長島) → 寿阿弥(じゅあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5
空華(くうげ・雲蓮社) → 諦忍(たいにん;字・妙竜;法諱、浄土僧/真言律) C 2 6 0 4
空華庵(くうげあん) → 玄透(げんとう;道号・即中、曹洞宗中興/正法眼蔵開板) L 1 8 8 0
空華庵(くうげあん、空華子) → 忍鎧(にんがい;法諱・惠南、僧/香道家) G 3 3 2 0
空慶(くうけい;法名) → 持季(もちすえ・正親町/藤原、大納言/歌) B 4 4 4 2
空華居士(くうげこじ) → 完来(かんらい・大島、俳人) 1 5 5 5
空華山人(くうげさんじん) → 鳳原(ほうげん・杉本、俳人) F 3 9 0 9
空月(くうげつ;号) → 心海(しんかい;法諱、真言律僧/歌人) D 2 2 6 3
空華道人(くうげどうじん) → 周信(しゅうしん;法諱・義堂、臨濟僧/五山文学) 2 1 4 4
空華道人(くうげどうじん) → 雷洲(らいしゅう;道号・惟黙;法諱、曹洞僧) 4 8 5 6
空華廬(くうげろ) → 僧鎔(そうよう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 0 8
空眼(くうげん;字) → 学如(がくによ;法諱・空眼、真言僧) K 1 5 3 5
空現(くうげん;法諱) → 公賢(こうけん・こうげん;法諱、真言僧) I 1 9 5 1
空元(くうげん;法名) → 公賢(きんかた・洞院とういん、太政大臣/歌) 1 6 5 9
空言(くうげん;法名) → 言緒(ときお・山科やまなし、廷臣/歌人) 3 1 3 2
空玄(くうげん;法名) → 実俊(さねとし・西園寺/藤原、廷臣/歌) D 2 0 3 0
空原斎(くうげんさい) → 風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4
1735 寓言子(ぐうげんし) ? - ? 晰本、俳諧?、1698「初音草咄大鑑」著
寓言子(ぐうげんし;号) → 白翁(はくおう;道号・禅璵;法諱、臨濟僧) C 3 6 7 2
空原舎(くうげんしゃ) → 風水(ふうすい・日置へき/島、神職/俳人) 3 8 8 4
寓言堂(ぐうげんどう) → 三千風(みちかぜ・三井、俳人) 4 1 0 3
空広(くうこう;法諱) → 天海(てんかい;道号・空広、曹洞僧) D 3 0 2 0
藕潢(くうこう・林) → 復斎(ふくさい・林はやし、幕臣/儒者) B 3 8 5 4
C1701 空谷(くうこく・村山むらやま/初姓;飯塚、名;延長) 1836-6732 儒者;南条門、詩;雲濤門、「空谷遺稿」
空谷(くうこく;道号・明応) → 明応(みょうおう;法諱・空谷、臨濟僧/五山文学) G 4 1 1 9
空谷(くうこく) → 智叡(ちこく;法諱・法興、修験/真言) E 2 8 1 9
遇查庵(ぐうさあん;号) → 幻成(げんじょう;法諱、真宗僧) K 1 8 0 6
空斎(くうさい・伊勢) → 貞為(さだため・伊勢/平、故実家) I 2 0 4 8
空斎(くうさい・円城寺) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7
空斎(くうさい・山田) → 顕義(あきよし・山田やまだ、藩士/軍人/司法) I 1 0 6 9
B1725 空山(くうざん・加藤かとう、名;倫/利正、字;子明、別号;士峯) ?-? 江前期武蔵の儒者/詩、
武士出身/のち僧/隠士、中田主税(ちから)の師、1677-82(天和2)「富士百詠(藤百首詩)」著
空山(くうざん・立花) → 増弘(ますひろ・立花たちばな、領主/和学) Q 4 0 8 4
空山(くうざん) → 昭陽(しょうよう・亀井、儒者) B 2 2 8 5
空山(くうざん) → 慧敏(えいみん・惠正えしゅう;法諱、真宗僧) D 1 3 9 8
空山(くうざん) → 定衡(さだひら・矢部やべ/藤原、幕臣/歌) M 2 0 0 1
空山(くうざん;号) → 継政(つぐまさ・池田いけだ、藩主/歌人) 2 9 8 5
隅山(ぐうざん) → 収二郎(しゅうじろう・平井、儒/尊攘家) X 2 1 5 9
空山房(くうざんぼう) → 白酔(はくすい・田沢たざわ、俳人) D 3 6 4 2
B1726 空指(くうし) ? - ? 雑俳点者、1702瀝蛙「口三味線」入
空師(くうし) → 定真(じょうしん;法諱、真言僧/明恵門) K 2 2 0 0
寓子(ぐうし) → 竹人(ちくじん・川口、俳人) D 2 8 2 4
空式(くうしき;法諱) → 亮典(りょうてん;法諱・文性、真言僧/教育) J 4 9 0 5
空識(くうしき) → 実紀(さねえ・姉小路あねがこうじ/藤原、廷臣/歌人) D 2 0 4 5
空識(くうしき) → 昭乘(しょうじょう・松花堂、社僧/書家/茶人) T 2 2 3 4
空識(くうしき;字) → 聖融(しょうゆう;法諱、真言僧) L 2 2 7 4
空色軒一夢(くうしきげんいちむ) → 一夢(いちむ・空色軒、遊里研究) D 1 1 6 5
宮司眞守(ぐうじしんしゅ) → 養斎(ようさい・奈良なら/青山、藩士/儒者) 4 7 9 7
空室(くうしつ・秋元) → 安民(やすたみ・秋元/藤原、藩士/国学) B 4 5 9 5

- B1727 **空実**(くうじつ;法諱、太政大臣徳大寺実淳男) 1495-157682 興福寺喜多院の法相僧、
1536興福寺権別当、大僧都、1563別当/探題/僧正/68辞退、父実淳より古伝授を受、
連歌;1564-74;紹巴らと百韻7度;永禄7年3月15日何人百韻/元亀2年3月10日何人百韻など
- C1722 **空寂**(くうじやく;法諱・入阿;号)?-? 鎌倉中期浄土僧:九品寺流長西門、生駒大聖竹林寺住、
甲斐で布教;諸行本願義を主唱、「善導観経疏記」「浄土往生論註解鈔」著
- C1723 **空寂**(くうじやく;法諱・円宗えんじゅう;道号)?-? 鎌倉後期越前曹洞僧:義雲の侍者、越前宝慶寺2世、
「義雲和尚語録」編
空寂(くうじやく;法名) → 資宣(すけのぶ・日野/藤原、廷臣/詩歌) C 2 3 7 1
- C1724 **遇所**(ぐうしょ・益田ますだ/初姓:山口、名;肅、益田勤斎きんさいの養嗣) 1797-186064 江戸篆刻家、
書;長橋東原門、篆刻:勤斎門/勤斎没後に継嗣;篆刻業、1857/9幕府で官印を刻す、
「遇所印譜」著、中井敬所・山本有所の師、
[遇所の字/別号]字;士敬、別号;東嶺/浄碧居
寓所(ぐうしょ・坂上) → 忠介(ちゅうすけ・坂上さかのうえ、藩儒/詩) G 2 8 4 8
空助(くうじよ;初法諱) → 永助親王(えいじよしのう、門跡/歌人) 1 3 3 6
空性(くうじょう;法名) → 実兼(さねかね・西園寺/藤原、太政大臣/歌) 2 0 3 7
空性(くうじょう;法諱・了源) → 了源(りょうげん;字・空性、真宗僧) H 4 9 3 4
空性(くうじょう・竜雲) → 竜雲(りゅううん・空性、真言学僧) C 4 9 8 0
空乗(くうじょう;法名) → 通顕(みちあき・中院なかのいん/源、内大臣/歌) B 4 1 0 3
空性法親王(くうじょうほつしんのう) → 随庵(ずいあん、詩歌) 2 3 2 4
空心(くうしん;字) → 契沖(けいちゅう;法諱・空心、真言僧/国学者) 1 8 0 6
空深(くうしん;字) → 玄性(げんじょう;法諱・空深、真言僧) J 1 8 9 4
- 1736 **空翠**(くうすい・大口屋おおぐちや八兵衛、初号:金翠きんすい)?-1763 江戸蔵前の札差/十八大通の1、
俳人:祇空門、四時観、1733祇徳ら共編「四時観」竟宴歌仙に参加、34「俳諧川鼠」編、
1761心祇「三部集」・成美「浅草はうご」入
- C1725 **空翠**(くうすい・野村のむら、名;円平えんぺい) 1784-186582 加賀金沢の酒造業/代々藩士十数家の日傭頭、
国学:本居宣長・篤胤門、詩;大窪詩仏・頼山陽門、書画;谷聞晁門、謡曲/弹琴/歌/茶道、
1852「野村円平詩稿」「梅花百詠」/勤王家;1858「空翠雑話」著(;藩の尊攘論を促す)、
1863「空翠楼詩鈔」、「空翠楼詩稿」「七家詩存」「宋四大家帖」「宝生流謡曲本刊誤」著、
[空翠の通称/別号]通称;次右衛門/次郎右衛門/次左衛門、別号;栖霞せいか、屋号;八田屋
空水(くうすい・鈴木) → 養斎(ようさい・鈴木すざき、儒者) 4 7 9 3
空翠(くうすい・新納) → 時升(ときます・新納にいり、藩士/儒者) K 3 1 0 6
- B1729 **空盛**(くうせい、下田屋) ? - ? 安桃期;和泉堺の天神社南坊の社僧/連歌作者、
宗柳より堺古伝授を受く、1600「慶長五年二月晦日宗柳祐心等百韻」
- C1726 **空誓**(くうせい;法諱・諡号;願海院) 1603-92長寿90 江前期江戸築地の真宗本願寺派妙延寺2世、
紀州の性応寺了尊門/1669黄檗僧鉄眼道光の真宗批判に対抗;知空を招聘し真宗宗義顕揚、
1650「正信偈私見聞」65「本願寺聖人伝絵探証記」71「高僧和讃註解」75「浄土真宗私問答」著、
1675「浄土真宗私問答」/81「正信偈私註解」「開疑鈔」、「浄土和讃註解」「説法事林伝」著
- B1728 **空性**(くうせい) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」255(1句)、
[髪おほへ岸のひたひのこぶ柳](犬子集;巻一255/岸の額のように突出た所を覆う)
空静(くうせい) → 公蔭(きんかげ・正親町おおぎまち、廷臣/歌) D 1 6 8 5
空石(くうせき) → 昭陽(しょうよう・亀井、南冥男/儒/詩人) B 2 2 8 5
- C1713 **空船**(くうせん;号、別号;葦葉いよう)?-? 江前期;大和葛城下田村の住僧/俳人;貞門、
1658梅盛「鸚鵡集」1659「捨子集」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入、
[西方を目当てに数珠がのたまたまも念仏は楽の種がしま也](夷曲集;釈教955、
西方浄土を願ひ数珠の玉を繰り念仏すると極楽往生/種子島は鉄砲・玉に弾丸を掛る)
- D1773 **空善**(くうぜん;法諱) ? - 1450 室町期浄土僧;知恩院20世、
1431焼失;知恩院再興勸進に奔走、「知恩院本堂勸進状」著
- C1727 **空善**(くうぜん;法諱・号;法専坊)?-? 戦国期1492-1528頃播磨真宗僧:兼寿[蓮如]門、
播磨延末の法専坊住/摂津柱本の法光寺住僧、山科で蓮如の看護、のち光兼[実如]に出仕、
「空善日記」「空善日記」著/「蓮如上人御一代聞書」編

- 空然(くうぜん/くうねん) → 犀柯(さいか・松本、医/俳人) 2 0 6 6
 空禅(くうぜん;法名) → 政友(まさとも・住友すみとも、商家/涅槃僧) E 4 0 6 6
 空蟬坊(くうぜんぼう・本田) → 春雄(はるお・本田ほんだ、和学者) K 3 6 3 9
 C1702 空桑(くうそう・毛利もうり、名; 俊/字; 慎甫しんすけ/通称; 到、太玄男) 1797-1884 88 豊後高田村常行儒者、
 儒; 1813帆足万里門/万里十哲の1、1823亀井元鳳門、25豊後に知新館開塾/34熊本藩の俵米、
 1860熊本成美館設立; 文武教場、尊攘活動、大楽源太郎らと交友/71大楽を匿い処罰、
 1826「披雲録」「養志」/39「昼錦囊」/44「照玄」「遊鶴城山記」/50「喞覚々録ぎょうかくかくろく」著
 耦叟(くうそう・浦野) → 神村(しんそん・浦野/源、藩士/儒者) P 2 2 3 3
 空草庵(くうそうあん) → 舎羅(しやら・榎並、俳人) G 2 1 5 5
 B1730 空蔵主(くうぞうす;号) 1395 - ? 1458存 有職古実家: 1458「公武大躰略記」著
 1737 空存(くうそん・釈) ? - ? 1672前没 大坂天満川崎町の臨濟宗九昌院花島坊の僧、
 俳人; 重頼門/雑俳点者、1636重頼「毛吹草」57燕石「牛飼」73「哥仙大坂俳諧師」入、
 狂歌; 1666行風「古今夷曲集」入、[我わが身や心の月の影法師](大坂俳諧師;一左)、
 [蠟燭らふそくのしんきりきりと来ぬ人の合図あひ待つ間まに夜は更けにけり]、
 (夷曲集; 恋393/待夜の蠟燭/恋人の合図に上質の蠟の特産地会津に掛る)
 空存(くうそん・天台僧) → 日春(にっしゅん;法諱、日蓮僧) E 3 3 1 1
 空体[諦]房(くうたいぼう) → 鏗也(けいあ、真言僧/歌人) I 3 6 5 4
 空達(くうたつ、一蓮精舎) → 快存(かいぞん、時宗僧・遊行50世) I 1 5 9 1
 空達房(くうたつぼう、空達上人) → 定真(じょうしん;法諱、真言僧/明恵門) K 2 2 0 0
 D1774 空潭(くうたん;法諱) ? - ? 江中期1716-36頃江戸寛永寺住心院の天台僧、
 1726「谷天台会法則」、「東叡山寛永寺円頓院年中行事記」著
 空潭是心(くうたんぜしん;号) → 就房(なりふさ・杉岡、史家) I 3 2 0 9
 空中庵(くうちゅうあん) → 光悦(こうえつ・本阿弥、鑑定/書/茶人) 1 9 0 5
 空中斎(くうちゅうさい) → 光甫(こうほ・本阿弥、鑑定/陶芸) L 1 9 1 5
 隅東(ぐとう・日下部) → 勝卓(かつしか・かつたか・日下部くさかべ、幕臣/国学) N 1 5 3 7
 C1728 空道(くうどう、和尚) ? - ? 伊丹臨濟最禪寺僧/俳人、1690鬼貫「俳諧大悟物狂」入;
 [(私の俳諧観は)庭前ていぜんに白く咲たる椿哉](大悟物狂)
 C1703 空洞(くうどう・桑原くわばら、名; 守雌、正真男) 1673-1744 72 京の儒者; 合田晴軒門、1720剃髪/禪・老荘、
 書家、売茶翁月海元昭と親交、「亀毛録」、「空洞詩文集」「空洞法語」「空洞筆法要言」著、
 「三教合論」「方外閑人集鈔」「空洞書法」「花頂帖」「書体沿革」「篆隸字源」「和漢草字辨」著、
 [空洞の字/別号]字; 為谿、別号; 方外閑人
 C1729 空洞(くうどう・石阪/石坂いざか、船曳五七郎男/石坂桑亀の養子) 1814-99 86 備前岡山の医者、
 医: 父門/石阪典礼・小森桃塙門、岡山藩医; 医学教授/侍医、長崎で蘭学修学、電気医療器製作、
 1877肝臓ジストマ発見、画; 岸岱門、のち東京住、
 1859「西洋算籌用法略解」、「救荒本草小品」、「児島志」「理学少補」外著多数
 [空洞(;号)の名/字/通称]名; 秋朗(しゅうろう、字; 天津、通称; 堅操・堅荘
 空堂(くうどう) → 日近(にちこん・遠成院、日蓮僧) B 3 3 9 7
 C1704 藕塘(ぐとう・志毛じげ、鶴殿正則の長男) 1797-1845 49 江戸の生、1805(9歳)松平家出仕、
 儒者/詩; 松下一斎門、1821事に座し改姓; 志毛じげ、昌平黌修学; 菊池五山・佐藤一斎門、
 江戸駒込で子弟教育、
 1836「興到詩」41「百東坡」編、「藕塘詩鈔」「戲言瑣録」著、
 [藕塘(;号)の名/字/通称/別号]名; 正応、字; 子健、通称; 秀二郎、
 別号; 霞海/芙蓉亭ふきよてい、法号; 源廓院
 藕塘(ぐとう・椿) → 仲輔(なかすけ・椿つばき、国学/歌) D 3 2 8 7
 偶堂(ぐとう・向山) → 誠斎(せいさい・向山むこうやま、幕臣/歌人) B 2 4 6 2
 空洞山人(くうどうさんじん) → 哲夫(てつお・赤松、医者/蘭学) C 3 0 1 5
 空鈍(くうどん・長谷川/小田切) → 一雲(いちうん・小田切おだぎり、剣術家) F 1 1 9 9
 空二(くうに・屋代) → 師道(しどう・屋代/源/永邨、幕臣/書家) V 2 1 2 6
 空如(くうに;号) → 如道(にょどう;法諱・空如;号、真宗僧) G 3 3 0 7
 1738 空仁(空人くうにん、俗名; 大中臣おおなかとみ清長、大中臣定長男) ?-? 平安後期の僧/1139頃既に出家、

- 法輪寺住僧/法師、歌人;歌林苑会衆、西行・西住と交流、
1160清輔家歌合/79治承三十六人歌合参加、玄玉・御裳濯(6首)・雲葉集入集、
勅撰5首;千載(877/1119/1143/1195)新後撰(1291)、
[秋風の憂き人よりもつらきかな恋せよとは吹かざらめども](千載;恋877)
[空人(空仁)の通称]少輔入道しょうのにゅうどう/少輔別当入道/神祇少副入道、光長の父
- 空然(くうねん;法名・正蓮社)→ 知俊(ちしゆん;法諱、浄土僧) E 2 8 3 5
空然(くうねん) → 犀柯(さいか・松本、医/俳人) 2 0 6 6
- C1730 空莫(くうばく;法諱・称;専宗) 1546-? 越後加茂の長福寺真言僧;鹿島竜蔵院長法印門、
1606「悉曇秘章」著
- 空破居士(くうはこじ) → 椎陰(すいいん・山口やまぐち/山本、俳人) 2 3 2 6
- 1761 空風(くうふう) ? - ? 江前期俳人;1691「若みどり」入、
[乳ちをかめど子の齒の生ゆる嬉しさよ](若みどり/痛さ忘れる母心)
- 藕風居(くうふうきょ) → 蓮坡(れんぱ・今村いまむら、藩士/詩人) B 5 1 3 1
- C1731 空弁(くうべん;法諱) ? - ? 江前期真言僧;1687相州の大山寺八大坊住持、
「真言略要文集」著
- 藕峯(くうほう;号) → 敬光(けいこう;法諱・顕道;字、天台僧) F 1 8 5 7
空摩居士(くうまこじ) → 蓼太(りょうた・大島、俳人) 4 9 2 0
空門子(くうもんし) → 雲堂(うんどう・加藤、貫風子) B 1 2 5 8
空門子(くうもんし) → 義端(ぎたん;法諱、真宗仏光寺派僧/漢学) L 1 6 1 8
- 1739 空也(弘也くうや・こや;沙彌名、法諱;光勝、醍醐天皇皇子?/常康親王男?) 903-972/70 923-31頃出家、
尾張国分寺住;念仏浄土教/念仏聖ひりとして諸国遊行;道路・架橋・井戸掘削等の社会事業、
938上京/48天台座主延昌より受戒;光勝名(常に空也と自称)、西光寺(六波羅密寺)開、
「大般若経」書写/「空也上人和讃」「空也僧鉢扣歌」「六座念仏式」著、為憲「空也上人誄い」入、
保胤「日本往生極楽記」入、歌;勅撰3首;拾遺1344/千載1201/新勅撰575、
[一度ひとたびも南無阿弥陀仏と言ふ人の蓮はちすの上にのぼらぬはなし](拾遺集:二十1344)
[空也(;)沙彌名)の通称]市上人/市聖いちのひり/阿弥陀聖(;)常に阿弥陀号を称え市中を廻る)
- 空有軒(くうゆうけん) → 虚中(きょちゆう・空有軒、俳人) H 1 6 4 6
空誉(くうよ;号) → 義柳(ぎりゅう;法諱・空誉、浄土僧) Q 1 6 5 3
空誉(くうよ・騰蓮社) → 義海(ぎかい;法諱・沖黙、浄土僧) J 1 6 7 9
寓庸(ぐうよう;号) → 翠巖(すいがん;道号・承堅;法諱、臨濟僧) 2 3 3 7
空羅(くうら・松本) → 願言(ねげん・松本、樺柯男/医者/俳人) C 1 9 4 6
空羅(くうら・鈴木) → 太老(たいろう・鈴木すずき、俳人) C 2 6 4 0
空理(くうり;法号) → 宇多天皇(うだてんのう、歌人) 1 2 6 8
空理(くうり;法号) → 通雅(みちまさ・花山院、太政大臣/歌) C 4 1 5 2
- B1731 空礫(くうれき) ? - ? 京の俳人;烏丸三条下ル住、
1687言水「京日記」歌仙入、89「誹諧前後園」/90言水「新撰都曲」2句入/92助叟「新始」入、
[夏鴨も立たぬか芦の下涼み](都曲;126)
- 愚益(ぐえき・福庵) → 梅隣(ばいりん・平元、医/詩歌/俳) C 3 6 2 6
虞淵(ぐえん;号) → 超然(ちょうねん;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 8 6 3
愚園(ぐえん・松元) → 泰温(やすよし・松元まつもと、儒者/侍読) G 4 5 7 5
九淵斎(くえんさい) → 冥々(めいめい・佐々木/塩田、俳人) 4 3 3 8
- C1732 愚翁(ぐおう・宮本みやもと、中村徳水男) 1839-1903/65 安藝広島の心学者;父門/藩校で修学/武術、
1856父没/心学研究に専念;矢口来応門、61広島勸心舎の前講/62宮本正次郎徳陰の養子、
広島藩勘定所員;山県郡の鉄山勤務、1863-64京詰/心学;柴田鳩翁門、67藩主に心学道話、
「思保宇志」、「愚翁道話」著、
[愚翁の字/通称/別号]字;弘道、通称;亥三二、別号;(初号)知水、法号;真理院
- 愚翁(ぐおう・松井) → 可楽(からく・松井、藩士/詩歌/紀行) H 1 5 5 4
愚翁(ぐおう・豊浦) → 元貞(もとさだ・豊浦とよら、医者/歌人) C 4 4 5 0
久遠院(くおんいん) → 日淵(にちえん;法諱/初諱日雄、日蓮僧) 3 3 7 2
久遠院(くおんいん) → 日騰(にっとう;法諱・便妙、日蓮僧) F 3 3 4 9

- 久遠寿院(くおんじゅいん) → 公海(こうかい;法諱、天台僧) 1982
 久遠寿院准三宮(くおんじゅいんじゅんさんぐう) → 公弁法親王(こうべんほっしんのう、公海門/天台座主) B1991
 久遠成院(くおんじょういん) → 日親(にっしん;法諱、日蓮僧) E3338
 久遠阿闍梨(くおんのじやり) → 日量(にちりょう;法諱・本寿院、日蓮僧) D3366
 玖珂(くか・朝枝) → 玖珂(きゅうか・朝枝、儒者) G1637
 矩佳(くか・内藤) → 矩佳(のりとも・内藤、幕臣) F3526
 久娥(くが・井上) → 政子(まさこ・井上いのうえ/菅、商家妻/歌) N4035
 具海(ぐかい;初道号) → 宝巖(ほうがん;道号・興隆;法諱、曹洞僧/古典) 3933
 愚海(ぐかい;法諱) → 泰亮(たいりょう;道号・愚海、曹洞僧) L2621
 愚海(ぐかい;号) → 光性(こうしょう;法諱、真宗大谷派本願寺17世) J1976
 1740 駒角(くかく、京極きょうごく、名;高住たかすみ、丹後田辺藩主高直男) 1660-1730? 但馬豊岡藩2代藩主、
 1714隠居/剃髮;甲斐入道、正室;東園基賢女、諡号;云奴/盲月、
 京の俳人(:駒角)江戸住;1687言水「京日記」/89「誹諧前後園」/90「新撰都曲」4句入、
 1791江水「元禄百人一句」/98調和「面々硯」入/1698調和「洗朱あらいしゅ」に亡父追善の歌仙、
 [年々とししや日の数々に日のひとつ](都曲;元旦1/元旦も数ある日の一つにすぎない)、
 ☆俳人駒角を東園基賢とする説あり? → 基賢(もとかた・東園ひがしぞの、権大納言) C4432
 B1732 駒岳(くがく・西川) ? - ? 江中期儒者/詩;伊藤東涯[1670-1736]門、
 1754草廬「金蘭詩集」入
 駒岳(くがく・新井) → 道英(みちひで・新井あらい、国学/歌人) L4111
 駒岳(くがく・佐瀬) → 主計(かすえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M1509
 具覚(ぐかく;字) → 月明(がつみょう;法諱・具覚、日蓮僧) N1590
 駒岳樵者(くがくしやうしゃ) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C3949
 駒嶽仙(くがくせん) → 正照(まさてる・高木たかぎ、俳人) E4025
 駒岳楼(くがくろう) → 伯先(はくせん・中村/吉川、医者/俳人) D3654
 久我前右大臣(くがさきのうだいじん → こが-) → 通博(みちひろ・久我こが/源、太政大臣/歌) C4136
 久我太政大臣(くがだいじょうだいじん → こが-) → 雅実(まさかね・久我/源、歌) C4060
 久我内大臣(くがないだいじん → こが-) → 雅通(まさみち・源/久我源、歌人) 4020
 矩貫(くかん・前田) → 矩貫(のりつら・前田、幕臣) F3516
 1741 弘願(くがん;法諱) ? - ? 鎌倉期真宗僧;「法念上人絵伝」所持、親鸞の孫弟子
 具簡(ぐかん;法名) → 貞宗(さだむね・大友/平、守護/歌人) C2052
 愚勧住信(ぐかんおうしん) → 住信(じゅうしん;法諱、浄土僧) H2171
 具起(ぐき・岩倉) → 具起(ともおき・岩倉/久我/源、廷臣/歌/連歌) P3125
 1742 釘武(くぎたけ・檜皮ひはだの、家根屋小左衛門)?-? 江中期江戸市ヶ谷住/狂歌作者:四方連、
 徳和歌後万載集;6首入/1786菅江「天明むつまし月」校合、
 [青柳のみどりの髪をすきおろす櫛は銀むね三日月のかげ](後万載;58、
 銀むねは銀装飾の櫛の弧の部分/柳の緑と三日月の光・黒髪と銀の櫛の組合せ)
 1743 矩久(くきゅう・坂崎さかざき、別号;秋香亭)?-? 大阪の俳人、来山門?、
 1703「青すだれ」04「蕪狩」編、
 1706(宝永3)「誹諧湯盤ゆたらし」編(大坂瀬戸物屋亀屋版/笠附・笠段々・前句附集)
 矩久(くきゅう・松下) → 矩久(のりひさ・松下、神職/日記) F3550
 狗丸(くきゅう → くく) → 源八(げんぱち・勝井かつい、歌舞伎作者) C1893
 愚休(ぐきゅう) → 宣明(のぶはる・伏原、明経博士) C3587
 愚狂(ぐきょう) → 惟朝(これとも・梅園/土師/菅原、神職/国学) F1998
 C1733 愚極(ぐきよく;道号・礼才れいさい;法諱) 1363-1452長寿90 臨濟僧;平川礼浚門;嗣法/南禅寺145世、
 東福149世、書画、1434「天満大自在天神宝号記」著、
 1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌]参加(詩)、
 [鶯枝織柳線織織 日暖桜花雪圧檐えん 二月門庭春富貴 詩歌宴罷半鉤簾]、
 (匠作亭詩歌;3/桜下嫩どん柳/対するは雅永の歌)、
 [愚極礼才の号] 曹溪、風月主人
 狗丸(くく、俳名) → 源八(げんぱち・勝井、歌舞伎作者) C1893

- 九々庵(くくあん) → 閑叟(かんそう・九々庵、俳人) R 1 5 2 4
- 1744 句空(くくう・松堂、柳陰軒[庵]/鶴や) 1648?-? 加賀金沢の商人/俳人;芭蕉門、1688剃髪;
金沢卯辰山法住坊金剛寺に隠棲、1704「干綱ほしあみ」、「北の山」「柞原はほそばら」「草庵集」編、
1691北枝「卯辰集」20句序、猿蓑;1句/続猿蓑;1句/西の雲に入集、
[梅が香や分け入る里は牛の角](猿蓑;巻四/春)
- 具空(ぐくう;法号) → 公阿(こうあ;字・具空ぐくう、浄土僧) H 1 9 1 5
- 句空庵(くくうあん) → 雪袋(せったい・後藤、俳人) L 2 4 2 0
- 九九園(くくえん・小川) → 布淑(のぶよし・小川、歌人) C 3 5 3 4
- 九々斎(くくさい・三井) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7
- 栩々斎(くくさい) → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7
- 狗々山(くくさん、狗々山人) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4
- 傀儡あこ(くぐつのあこ) → あこ(あこ・傀儡、歌人) 1 0 9 2
- B1733 傀儡侍従(くぐつじじゅう) ? - ? 女流歌人、新続古今980(堪覚かんかく法師へ返歌)
[あづま路に君が心はとまれども我も都の方をながめむ](新続古今:十羈旅980)
- 傀儡摩(くぐつなびく) → 靡(なびく・傀儡、歌人) G 3 2 8 3
- D1771 傀儡筆子(くぐつふでこ) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;544、
[うき草の根もはも今は絶えにけり池の氷のつみ深くして](才蔵集;十三544/疎遠の仲、
本歌;古今小野小町;わびぬれば世をうき草の根を絶えてさそふ水あらばいなむとぞ思ふ)
- 九々鱗(くくりん・青木) → 木米(もくべい・青木あおき、陶工) B 4 4 1 0
- 矩慶(くけい・石塚) → 竜麿(たつまる・石塚、楨舎、国学/歌人) 2 6 3 8
- C1734 愚溪(ぐけい;道号・等厚とうこう;法諱) 1624-75⁵² 江前期臨濟僧;相国寺99世、「愚溪和尚語録」著
- 1745 具慶(ぐけい;法名・住吉すまよし、名;広澄/広純、如慶男) 1631-1705⁷⁵ 京の僧;1674妙法院で剃髪得度、
堯如親王門/法橋、絵師;父門/住吉派、1683幕府絵師/91奥医師並法眼、「洛中洛外図巻」画、
「徒然草画帖」「慈眼大師縁起絵巻」「都鄙図巻」「平家物語図」「宇治拾遺物語絵巻」外画多数、
[具慶の通称/法号]通称;内記、法号;円竜院
- C1735 愚溪(ぐけい・大田おおた、名;如晦、錦城5男) 1802-35³⁴ 儒者;家学嗣/詩、下野で客死、「鮮味集」著
[愚溪の字/通称]字;季明、通称;金剛五郎
- 愚卿(ぐけい) → 徳馨(とくけい・平栗ひらぐり、歌・俳人) K 3 1 6 0
- 愚卿(ぐけい・石井) → 碎石(さいせき・石井いし、藩士/記録) G 2 0 8 5
- 愚溪(ぐけい;号、本願寺13世) → 光従(こうじゅう;法諱・宣如真宗大谷派僧) J 1 9 5 4
- 愚溪(ぐけい・上田) → 陸舟(りくしゅう・上田うねだ、藩士/儒者) 4 9 7 5
- 愚溪(ぐけい・山本) → 章夫(しょうぶ・山本、本草家/写生画) L 2 2 4 6
- 具慶(ぐけい/ともよし・柏崎) → 永以(えい・柏崎かしわざき、国学者) B 1 3 8 9
- B1734 癩軒(くけん・星野ほしの、名;賁/字;文剛) 1783-1845⁶³ 越後柏崎の儒者;江戸で古賀精里門、
1814伊勢神戸藩主本多忠升に出仕/致仕;江戸開塾/帰郷し開塾、
詩:1823半斎「声応集」入、25「星野賁文稿」、「星野癩軒文稿」「周易雑説」「詠帰堂集」著、
[癩軒の通称/別号]通称;菊三郎、別号;鵜水(ういすい)詠帰堂主人
- 矩賢(くけん・亀井) → 矩賢(のりかた・亀井、藩主/文武振興) E 3 5 3 8
- 弘賢(くけん;法諱) → 弘賢(こうけん・くけん;法諱、真言僧/歌) 1 9 9 9
- C1736 眞軒(くけん・富田とみた、名;元真/玄真、別号;静斎、玄勝男) 1624-87⁶⁴ 摂津の儒者、
1665(寛文5)備前岡山藩主池田光政に招聘され侍講、1669学校創立後に経史を講義、
詩;1682(天和2)朝鮮通信使と備前牛窓で唱和;「牛窓詩」、「東海道紀行」著
- 具頭(ぐけん・中院) → 具頭(ともあき・中院なかのいん/源、廷臣/歌) P 3 1 0 4
- 具兼(ぐけん・源) → 具兼(ともかね・源みなもと、廷臣/歌人) X 3 1 3 7
- C1708 愚言(ぐげん) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」2句・「若みどり」入、
[我が息を殺さずいつか寝足るほど](若みどり/前句;君に逢ふ夜は鐘も湯になれ)、
(忍ぶ逢瀬でなく晴れて共寝をしてみたい)
- 具言(ぐげん・源/堀川) → 具言(ともとき・源/堀川、廷臣/歌人) P 3 1 9 1
- 具元(ぐげん/とももと・柏崎) → 永以(えい・柏崎かしわざき、国学者) B 1 3 8 9

- 枸杞庵(くこあん・松永) → 乙人(おつじん・松永まつなが、俳人/浄瑠璃) D 1 4 1 9
 枸杞庵(くこあん) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3
 矩広(くこう・松前) → 矩広(のりひろ・松前まつまえ、藩主/歌) F 3 5 6 2
 愚公(ぐこう;道号) → 魯洲(ろしゅう;法諱・愚公、臨濟僧) B 5 2 6 6
 愚公(ぐこう・林) → 真人(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌) R 4 0 9 0
 愚候(ぐこう・甲良) → 林石(りんせき・甲良こうら、俳人) K 4 9 5 5
 俱行(具行ぐこう・北畠) → 俱行(具行ともゆき・北畠、朝臣/歌人) Q 3 1 7 7
 枸杞園(くこえん) → 陶斎(とうさい・趙ちよう/深見/高良、書家) E 3 1 2 0
 C1737 **愚谷**(ぐこ・吉田よしだ、名;尚典/字;子新) 1764-1832 69 水戸藩士/儒者;立原翠軒門/1794彰考館入、
 1831致仕、「仁菴脉訣」「玉柳」「常陸名所考」「飛耳長目」「欣遇舎紺珠」著、令世のりよ[活堂]の父、
 [愚谷の通称/別号]通称;本節/本助、別号;仁庵/謙斎
 愚谷(ぐこ;号) → 癡空(ちくう;法諱、天台僧/法華玄義) C 2 8 5 9
 愚谷(ぐこ・伊沢) → 予(たのし・伊沢いざわ、儒詩/歌/教育) V 2 6 4 2
 駒谷散人(くこくさんじん) → 昭武(あきたけ・榎島、国学/軍記) C 1 0 5 3
 駒谷仙人(くこくせんじん) → 覚峰(かくほう;法諱、真言僧/国学) K 1 5 4 6
 1702 **救済**(ぐさい・きゆうせい;法諱、一字名;侍) 1284?-1374-8? 91-95歳 天台僧/連歌師;善阿門、
 1317頃北野千句/39土岐頼遠家連歌/55文和千句(巻頭発句;侍)/56-70紫野千句等に参加、
 二条良基を後援;応安新式を制定/56菟玖波集撰(127句入)、宗砌と「百番連歌合」、
 「連歌手爾葉口伝」著、大原極楽寺に閑居、門人;良基・周阿・永運・素阿ら、
 [名は高く声はうへなし郭公ほととぎす](文和千句;巻頭発句)
 [あふちさく野はむらさきの梢かな](紫野千句;第一何路百韻発句)
 [救済の通称] 侍従房/侍従/侍公
 具躋(ぐさい・源) → 順(したごう・源みなもと、廷臣/詩人) 2 1 2 6
 愚斎(ぐさい) → 知之(ともゆき・堀田、歌/俳人) Q 3 1 8 1
 愚斎(ぐさい・市浦) → 毅斎(きさい・市浦いちら、儒者) I 1 6 5 1
 D1772 **丸左衛門**(くざえもん・久須見くすみ)?-? 江戸前期京の書肆、1648「碁経」編、「碁伝記」「寿某記」著
 C1738 **丸左衛門**(くざえもん・梶村かじむら)?-? 久留米藩士、島原乱出陣、1862「島原心得集実録」著
 丸左衛門(くざえもん・矢島/坂) → 時存(ときもり・坂さか、藩士/儒者) K 3 1 2 1
 丸左衛門(くざえもん・曾禰/柳) → 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3
 丸左衛門(くざえもん・原) → 元寅(もとゆき・原はら、藩士/詩人) D 4 4 7 1
 丸左衛門(くざえもん・原) → 元慶(もとよし・原、元寅男/藩士/詩人) L 4 4 0 8
 丸左衛門(くざえもん・山本、書肆) → 吟雪(ぎんせつ、富川房信、草双紙) E 1 6 2 1
 丸左衛門(くざえもん・正本屋助) → 一鳳軒(いっぽうけん・西沢、歌舞伎作者) 1 1 2 6
 丸左衛門(くざえもん・宇佐美/曾禰) → 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3
 丸左衛門(くざえもん・大和田) → 気求(ききゅう・大和田、書肆/国学) 1 6 9 0
 丸左衛門(くざえもん・暁鶏堂/正本屋/丸屋) → 吟雪(ぎんせつ・富川とみかわ、書肆/草双紙) E 1 6 2 1
 E1718 **草臣**(くさおみ・幸田こうだ、) 1802-1863 61 石見大田の国学者/歌;近藤芳樹・千種有功門、
 文信あやのぶの兄、
 [草臣(;名)の字/通称/号]字;順臣、通称;勝次郎/三四郎、号;憐蛙亭れんあてい
 艸臣(草臣くさおみ・児島) → 葦原(いげん・児島、攘夷運動/詩歌) 1 1 8 2
 草垣内(くさかいと) → 茂濟(しげまさ・殿村とのむら、米穀商/歌人) C 2 1 9 8
 草香江水際(くさかえすいさい) → 国臣(くにおみ・平野/大中臣、勤王/歌) 1 7 0 6
 草蔭屋(くさかげのや) → 静野(しずの・荒井、国学者/教育) U 2 1 0 5
 草香嬢(くさかのいらつめ) → 草嬢(くさのいらつめ、万葉歌人) 1 7 4 6
 1703 **草壁皇子**(くさかべのみこ、日並皇子尊ひなみしのみこのみこと、天武天皇皇子) 662-689 早世 28 母;持統天皇、
 文武・元正天皇の父、万葉集;110、挽歌群あり;柿本人麻呂と皇子の宮の舎人達
 [大名児おほなごを彼方をちかた野辺に刈る草かやの束の間あひだも我忘れめや]
 (万葉;二110/石川女郎に贈る歌)
 1704 **草壁皇子宫舎人**(くさかべのみこのみやのとねり)?-? 万葉二期、挽歌23首171-193(13首)、
 [高光る我が日の皇子みこの万代よろづよに国知らさまし島の宮はも](万葉171、

島の宮は草壁皇子の宮殿)

- C1739 **草浪**(くさなみ・聴風軒ちやうふうけん、姓;金井かない、名;寛)?-? 和泉堺の狂歌作者:鶴廼屋乎左丸門、江戸住、六樹園石川雅望に従い五側判者、1827「狂歌三才図会」30「狂歌歳時記」34「狂歌覓玉集」44「狂歌浪華名所集」編、1849「多摩迦都馬たまかつま」著、「狂歌三国志」「波奈知登利」編、[聴風軒草浪の別号] 夏の屋/夏野草浪
- 1746 **草嬢**(くさのいらつめ・くさのおとめ・かやおとめ・草香嬢)?-? 万葉歌人、卷四512、村娘・娼婦説などあり [秋の田の穂田ほだの刈りばかか寄り合はばそこもか人の我わを言ことなさむ] (刈りばかは稲刈りの各人個人分担当・ノルマ/寄合っただけ私達を噂するだろうか)
- D1788 **草野子**(くさのこ・深見ふかみ)? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[今さらにたはむれにくく成りにけり心みんとてとはぬ日かずの]、(大江戸倭歌;恋1511/試恋)
- 草ノ種丸(くさのたねまる) → 泰彦(やすひこ・草刈くさかり、藩士/歌人) C 4 5 7 0
草の屋(草舎くさのや) → 泰彦(やすひこ・草刈くさかり、藩士/歌人) C 4 5 7 0
草の屋(くさのや) → 憲成(のりなり・臼井うすい、藩士/歌人) H 3 5 4 9
草の屋(くさのや) → 牧太(まさた・宮原みやはら、神職/歌人) T 4 0 0 3
草之舎(くさのや) → 眞咲(まさき・芳賀はが、藩士/国学/神職) R 4 0 5 9
草廼屋(くさのや) → 利房(としふさ・狩野かのう、神職/国学者) U 3 1 6 9
- C1709 **草春**(くさはる・高向たかむこ)? - ? 平安期官人/歌人、拾遺集;七物名389 [神奈備の三室の岸や崩らん龍田の河の水のにごれる](拾遺集389、隠題;むろの木)
草間倫生(くさまりんせい) → 義右(よしすけ・熊谷くまがい/小林/西村、商家/藩支援) M 4 7 6 0
- C1740 **草丸**(くさまる・竹下たけした、銀右衛門男)1780-1836⁵⁷ 甲斐山梨郡春日居村加茂の農家、家督を弟に譲渡、俳人;早川漫々門、嵐外と親交、1805「南無秋の夜」14「画餅集」編/16「ひばりぶえ」20「白の七五三」27「見聞書付」著、1832「糠糶瓶」著、「藤瘤集」編、[草丸の通称/別号]通称;丈吉/長十郎、別号;里川/苔室
- 叢豊丸(くさむらとよまる) → 豊丸(初世とよまる・叢くさむら、絵師) R 3 1 6 1
叢豊丸(2世くさむらとよまる) → 豊丸(2世とよまる・叢くさむら、絵師) R 3 1 6 2
草屋師鯨(くさやのもろあじ) → 橋実副(たちばなのみぞえ、狂歌) G 2 6 1 5
駒山(くざん・山口/隈川くまがわ) → 春蔭(はるかげ・隈川/山口、歌人) G 3 6 1 0
- B1736 **虞山**(愚山ぐざん・加藤かとう、名;一純かずみ、加藤成昌男/一茂養嗣)1721-1793⁷³ 福岡藩士、博識;古典/地誌、1784藩命で「筑前続風土記附録」編纂、書籍の書写;藩庫に献上、歌/連歌/書、1781「太宰府天満宮連歌屋記事」著、「扶桑残玉集」編/「仙巢秘笈訓戒編」著、[虞山の通称/別号]通称;一太夫/三太夫/直次郎、別号;愚山/安々洞/仙巢、法号;如愚山
- 1747 **愚山**(ぐざん・松本まつもと、名;慎)1755-1834⁸⁰ 京の儒者;皆川淇園門、大阪で教授/経学・韻学、詩文、「愚山詩文稿」「愚山詩稿後集」「愚山文稿」、1785「五経図彙」1803「藻語箋」外著多数、[愚山の字/通称]字;君厚/幼憲、通称;才次郎
- C1705 **愚山**(ぐざん・木村きむら、名;敏)1803-1870⁶⁸ 越後の儒者;江戸で古賀侗庵・井部香山門、1818-30頃越後高田藩の儒臣/世子侍講、「西浜紀行」「明史稿訓点」著、[愚山の字/通称/別号]字;遜志、通称;左次郎、別号;拙修
- C1741 **愚山**(ぐざん・小松こまつ、名;弘毅、佐藤忠利男)1822-97⁷⁶ 伯父子松弘政の養子、秋田藩士、儒;藩校祭主磯野謙亨門/槍術;高橋久太門/兵法;藤井此面門、1853私塾碧梧堂を開、1863藩校明德館助教、戊辰戦出征、維新後誠敬塾開塾;明德学会設立、「小野小町貞女鑑」著、[愚山の字/通称/別号]字;任甫、通称;東吉/勇、別号;本覚
- D1768 **愚山**(ぐざん・佐々木ささき、名;溥ひろし、淡斎男)1823-96⁷⁴ 陸前牡鹿郡蛇田村の儒者;家学/父門、下野足利学校の都講、安中藩儒;藩校造士館で書を講ず、維新後は開塾、「日新録」「自省録」著、[愚山の字/別号]字;子淵、別号;十二峰小隠
愚山(ぐざん;号) → 光海(こうかい;法諱、真宗東本願寺16世)H 1 9 8 4

- 愚山(ぐざん・増山) → 正賢(まさかた・増山ましやま、藩主/書画) B 4 0 9 0
 愚山(ぐざん・脇) → 蘭室(らんしつ・脇わき/脇屋、儒者/詩) 4 8 1 0
 愚山人(ぐざんじん・滝沢) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7
 狗次(くじ・植松) → 有園(ありぞの・植松うえまつ、国学/神職/歌) H 1 0 0 9
 具氏(ぐし・中院/源) → 具氏(ともじ・中院なかのいん/源、廷臣/歌) P 3 1 1 9
 具氏(ぐし・中院/源) → 具氏(ともじ・中院/源、南朝廷臣/歌) P 3 1 2 0
 具視(ぐし・堀河/岩倉) → 具視(ともみ・岩倉/堀河、廷臣/公武合体) Q 3 1 6 2
- B1737 愚侍(ぐじ・小野おの/初姓;高須、名;正賀/通称;久兵衛)?-1675 三河吉田の人/商家小野家の養嗣、
 家業を継嗣;吉田藩御用達、俳人;梅盛門、仮名草子執筆:1662「ねごと草」著、63「落穂集」入
 久次衛門(くじえもん・石川) → 桃蹊斎(とうけいさい・石川、国学/儒者) D 3 1 1 3
 具志川王子(ぐしかわおうじ) → 朝敷(ちようふ・今帰仁なきじん、琉球王子) N 2 8 0 9
 具志頭親方(ぐしちやんうえかた) → 温(おん・蔡さい、琉球三司官/農政家) C 1 4 2 4
 櫛廬舎(くしのや) → 重老(しげおい・島しま、神職/国学/歌人) B 2 1 9 4
 久次兵衛(くじへえ・津田屋) → 望樹(もちき・満藤まんと、歌人) L 4 4 4 3
 愚舎(ぐしゃ) → 唐立(からたち・江南亭、戯作/狂歌) P 1 5 6 6
 俱舎光巖(ぐしゃこうげん) → 乗体(じょうたい;法諱・光巖、真言僧) K 2 2 7 3
 孔雀楼主人(くじゃくろうしゅじん) → 儋叟(たんそう・清田せいだ、儒者) I 2 6 4 9
 孔雀老人(くじゃくろうじん) → 義故(よしもと・山崎やまざき、藩士/書家) H 4 7 6 9
 俱主(ぐしゅ・北島) → 内孝(うちり・北島きたじま、歌人/書家) E 1 2 6 5
- 1748 矩州(くしゅう・椎本いのもと、本姓;那須なす/仁木/伊東、)1704/8-8077/73 岸和田生/大阪で与力、
 俳人;才麿・のち芳室門;椎本を継承;大坂俳壇の有力者/1762事に連座し重追放、
 のち近江大津住;義仲寺無名庵の看房となる、
 1741「衷些集」47「清逸集」49「四日桃」51「椎の若葉」63「停雲集」77「桐の影」編、72其雪影入
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、
 [七夕のうたがひはるる汐干かな](几董「其雪影」248)
 [矩州(;号)の通称/別号]通称;勘三郎、
 別号;桐麿(;初号)/五彩堂/停雲居/巨洲(きょしゅう)/春草舎/椎本3世、
 一時;石川松華を名乗る
 羨江楼せんこうろう巨洲は子孫? → 巨洲(きょしゅう・伊東、大津俳人) P 1 6 6 4
 久重(くじゅう・西村) → 市郎右衛門(いちろうえもん・西村、書肆/俳/戯作) B 1 1 3 3
 久重(くじゅう/ひさしげ・山田) → 大円(だいえん・山田やまだ、蘭医者) J 2 6 2 8
 愚洲(ぐしゅう・中野) → 順台(じゅんたい・中野なかの、医者) L 2 1 4 6
 具集(ぐしゅう・岩倉) → 具集(ともあい・岩倉いわくら、廷臣/歌人) U 3 1 1 7
 九十九(くじゅうく・加藤) → 重春(しげはる・加藤/藤原、神道家) S 2 1 3 1
 九十九(くじゅうく・百瀬) → 政武(まさたけ・百瀬ももせ、薬商/歌人) T 4 0 1 8
 九十九峰軒(くじゅうくほうけん) → 春濤(しゅんとう・森もり、詩人) K 2 1 3 2
 九十軒(くじゅうけん) → 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B 1 8 2 7
- E1705 九十老(くじゅうろう・岩谷いわたに/いわや、孝兵衛7男)1808-9588 母;もん、石見安濃郡川合村の農業;豪農、
 幼少時は小作農に預けられ苦勞/読書き;医師土江三圭門/実用学を習得、
 1824(17歳)父から自宅新築工事監督を一任され工事を完成/1833(天保4)家督を継嗣、
 川合村総年寄に就任/石見浜田・備後福山・因幡鳥取3藩の御用達、窮民の救済、
 養蚕技術習得伝播・用水路整備など公共事業推進/私塾解説;[石見尊徳]と称される、
 神道;金子有功・金子有郷ありさと・佐伯利麿/国学;大国隆正門、
 [九十老(;隠退後の称)の名/別通称]幼名:宮二郎、名;敬疇、別通称;善九郎/善右衛門
 九十郎(くじゅうろう・関) → 正玄(まさはる・関せき/藤原、幕臣) G 4 0 3 7
 九十郎(くじゅうろう・松平) → 信庸(のぶつね・松平、藩主/学問奨励) C 3 5 1 5
 九十郎(くじゅうろう・伊勢) → 貞益(さだます・伊勢いせ/平、故実家) J 2 0 7 4
 九十郎(くじゅうろう・井上) → 正継(まさつぐ・井上、幕臣/砲術家) D 4 0 8 9
 九十郎(くじゅうろう・横井) → 時英(ときひで・横井よこい、藩士/俳人) J 3 1 8 8
 九十郎(くじゅうろう・亀田) → 敦(あつし・亀田、商家/儒/詩) E 1 0 6 5

九十郎(くじゅうろう・山田)→	嬖堂(かくどう・山田、儒者/詩)	H 1 5 3 5
九十郎(くじゅうろう・三宅)→	觀瀾(かんらん・三宅みやけ、儒者)	1 5 5 6
九十郎(くじゅうろう・岡本)→	宣頭(のぶあき・岡本おかもと、商家/歌人)	H 3 5 8 3
九十郎(くじゅうろう・国谷)→	金馬(きんば・国谷、俳人)	R 1 6 6 4
九十郎(くじゅうろう・野田)→	知彰(ともあき・野田のだ、藩士/天文家)	P 3 1 1 2
九十郎(くじゅうろう・本間)→	光泰(みつやす・本間、商家/神職/国学)	K 4 1 4 7
九十郎(くじゅうろう・矢野)→	昭徳(あきのり・矢野やの、藩士/国学者)	I 1 0 5 9
驅豎斎(くじゅうさい)	→ 凉庭(りょうてい・新宮しんぐう、蘭医)	I 4 9 9 9
具俊(ぐしゅん・惟宗)	→ 具俊(ともとし・惟宗これむね、医者/本草)	P 3 1 9 3
愚春(ぐしゅん・安達/高梨)→	一具(いちぐ・高梨、浄土僧/俳人)	B 1 1 1 8
矩勝(くじょう・村田)	→ 矩勝(のりかつ・村田むらた/源、幕臣/歌)	G 3 5 7 0
九条(くじょう・藤原)	→ 知家(ともいえ・六条/藤原、廷臣/歌人)	3 1 5 9
勝利(くじょう・所)	→ 勝利(かつとし・所ところ/源、藩士/歌人)	V 1 5 1 3
愚性庵(ぐしやうあん)	→ 可柳(かりゅう・愚性庵、河東節)	G 1 5 0 1

1749 九条院(くじょういん:女院号、名;呈子ていし、法名:清浄観、藤原伊通女)1131-7646 母;藤原顕隆女、関白藤原忠通の養女/近衛天皇中宮;1150入内/55出家/56皇后/58皇太后/68院号、歌;新古今771、

[あやめ草ひきたがへたる袂たもには昔をこふるねぞかゝりける](新古今集;哀傷771)

(近衛院没後出家し五月五日に義姉皇嘉門院に贈る歌/ねは根と泣く音が掛る)

久成院(くじょういん)	→ 日相(にっそう;法諱・是心、日蓮僧)	E 3 3 8 6
九条右大臣(くじょううだいじん)	→ 師輔(もろすけ・藤原、歌人)	4 4 3 3
九条前摂政右大臣(くじょうさきのせつしょううだいじん:続拾遺)→	忠家(ただいえ・九条、歌人)	E 2 6 8 3
九条左大臣(くじょうさだいじん)	→ 道良(みちよし・二条/藤原、歌人)	C 4 1 8 3
九条左大臣女(くじょうさだいじんのむすめ)→	道良女(みちよしのむすめ・二条、歌人)	C 4 1 8 9
九条左大臣女(くじょうさだいじんのむすめ)→	道良女(みちよしのむすめ・二条、歌人)	C 4 1 8 9
九条三位(くじょうさんみ)	→ 顕家(あきいえ・藤原・六条、歌人)	1 0 4 2
九条三位(くじょうさんみ)	→ 光長(みつなが・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	E 4 1 1 5
九条禅閣(くじょうぜんかく)	→ 植通(たねみち・九条/藤原、関白/古典)	2 6 4 5
九疊仙史(くじょうせんし)	→ 竹田(ちくでん・田能村、儒/絵師/詩人)	D 2 8 5 4
九条大相国(くじょうだいしょうこく)→	伊通(これみち・藤原、太政大臣)	1 9 5 1
九条太政大臣(くじょうだいしょうだいじん)→	信長(のぶなが・藤原、歌人)	C 3 5 5 2
九条殿(くじょうどの)	→ 師輔(もろすけ・藤原、右大臣/故実/歌)	4 4 3 3
久照尼(くじょうに)	→ 久照尼(きやうしょうに、尼僧/歌人)	T 1 6 2 6
九条尼(くじょうに)	→ 俊成女(としなりのむすめ・藤原、建春門院中納言)	3 1 4 8
九条民部卿(くじょうのみんぶきやう)→	顕頼(あきより・葉室/藤原、廷臣/歌)	1 0 8 9

E1730 鯨丸(くじらまる・建部たけべ、旧姓;木村)1727-8559 筑前福岡の生/国学;江戸の建部綾足門、建部に改姓;綾足の後継を自任

釧(くしろ/せん・矢田部)	→ 弘岡(ひろおか・矢田部やたべ、神職/国学)	I 3 7 3 6
矩二郎(くじろう・箕作)	→ 秋坪(しゅうへい・箕作みつくり/菊池、洋学者)	Y 2 1 3 1
具親(ぐしん・源)	→ 具親(ともちか・源みなもと、廷臣/歌人)	P 3 1 7 5
具信(ぐしん・秦)	→ 具信(ともぶ・秦はた、歌人)	X 3 1 0 9
愚心(ぐしん・明蓮社)	→ 祐天(ゆうてん;法諱・顕誉、浄土僧)	D 4 6 4 6
虞臣(ぐしん・松室)	→ 松峽(しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説)	S 2 2 1 1
虞臣(ぐしん・宮永)	→ 大倉(たいそう・宮永、漢学者)	K 2 6 5 5
虞臣(ぐしん・桂川/森島)→	中良(ちゅうりやう・森島/桂川、蘭学/戯作)	2 8 1 9

E1710 葛(くず・加藤かとう、旧姓;清原)1740-1760早世21 江戸生/幕臣加藤美樹(宇万伎)の妻、歌人

C1706 駒水(くすい・松田まつた、名;善奇、延清男)1757-1816or3060/74 弘前藩士/儒医;山崎蘭洲門、1791中小姓、人別調方;東西浜の地凶戸籍作成/1794表書院番、藩校創設参画;96藩校稽古館経学学頭、「寛政律」編纂、1799免職、1803藩政改革を企画し捕縛;士籍剥奪、

「地球万国考」「津軽地名考」「兵論」「問者筆談」「駒水筆談」著、

[駒水の字/通称]字;正卿、通称;常蔵

- C1742 **愚醉**(ぐずい) ? - ? 近江俳人:1691江水「元禄百人一句」目録入
愚水(ぐずい) → 常如(じょうにょ;号・光晴;法諱/東本願寺15世、俳人) B 2 2 0 8
楠吉(くすきち・安田) → 千穎(ちかひ・安田やすだ、国学者/歌人) N 2 8 7 1
葛石(くずいし・後藤) → 葛名(くずな・後藤ごとう、国学者/歌人) E 1 7 1 6
楠右衛門(くすえもん・黒須) → 教久(のりひさ・黒須くろす/大竹、藩士/歌) I 3 5 3 2
葛懸(くずかけ・岡部) → 岡部葛懸(おかべのくずかけ、狂歌) D 1 4 5 0
- B1738 **薬子**(くすこ・藤原ふじわら、種継女、縄主の妻)?-810 平安前期;平城天皇に寵愛される、帝位を企画、810薬子乱で自殺
- 1750 **葛子**(くずこ・吉野よしのの・吉の)?- ? 山道高彦(山口彦三郎)の妻;江戸小日向水道端天神下に住、狂歌小石川連:智恵内子ちえのない門、1785「徳和歌後万載集」5首/87「狂歌才蔵集」入;
[地を走る声をからしの初鰹売りも残らぬ足のはやさよ](後万載;二151/鰹走地)
夫 → 高彦(たかひこ・山道やまみち、狂歌) D 2 6 5 2
葛子(くずこ→さきこ・松平) → 葛子(さきこ・松平まつだいら、藩主ぬ人/歌) N 2 0 2 2
葛粉(くずこ・石川) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学者/歌人) 4 7 3 5
楠左衛門(くすざえもん・土方) → 久元(ひさもと・土方ひじかた、藩士/政治家) K 3 7 7 5
楠二郎(くすじろう・志賀) → 筋庵(せつあん・志賀しが、藩儒) K 2 4 6 8
- C1743 **葛亮**(くずすけ・坂上さかのうえ)? - ? 平安前期歌人、保命親王の帯刀、904頃「帯刀陣歌合」参加、
[露結ぶ秋は来にけりむべこそはうちとけぬねに虫の鳴きけれ](帯刀歌合;萩左)
楠蔵(くすぞう・吉田) → 正準(まさとし・吉田、藩士/国学者/歌) E 4 0 4 8
楠蔵(くすぞう・藤田) → 広足(ひろたり・藤田ひじた、藩士、儒・国学者) K 3 7 8 6
楠蔵(くすぞう・野田) → 千蔵(ちもと・野田のだ/岩神/波多/秦、国学者) N 2 8 2 8
葛民(くずたみ・渡辺) → 右琴(ゆうきん・渡辺わたなべ、俳人/詩人) B 4 6 2 9
久寿大郎(くすたろう・宮後) → 朝喬(ともたか・宮後みやじり/度会、神職/歌) P 3 1 6 6
葛長者(くずちやうじや) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7
- E1716 **葛名**(くずな・後藤ごとう) ? - ? 文政1818-30頃没 伊勢桑名の歌人;鴨祐為(1740-1801)門、国学者・歌;富樫弘蔭(1793-1873)門、
[葛名(;名)の別名/通称]別名;葛石、通称;仙助/専助/助左衛門
葛根(くずね・高須) → 葛根(つねね・高須、商家/国学者/歌人) B 2 9 1 8
- B1739 **久寿根兼満**(くすねかねみつ、佐立さて和二郎/和十郎)?-? 讃岐高松藩士/江戸小石川藩邸住、狂歌:四方連、1785後万載3首/87才蔵集入、小川町住(大高仁助)と同僚、
[ただのりを短冊なりに焼かれしはむかしながらの山ざくら炭](後万載集;十一雑752、本歌;忠度「さざなみや志賀の都はあれにしを昔ながらの山桜かな」[千載集]、忠度/ただ海苔・山桜/桜炭の掛詞)
葛根堅室(くすねけんしつ:号) → 春平(はるひら・岡部/松田、国学者/歌) G 3 6 7 6
楠の上人(くすのしょうにん) → 紫笛(しきき・如雲舎、黄檗僧/狂歌) F 2 1 2 1
楠之進(くすのしん・宮下) → 良文(よしみ・宮下みやした、国学者/歌) P 4 7 4 4
楠之助(くすのすけ・井面) → 守典(もりみち・井面いのも/荒木田、神職) J 4 4 1 7
葛葉山人正二(くずのはさんじんしょうじ) → 金治(初世きんじ・篠田しのだ、歌舞伎作者/戯作) E 1 6 0 8
くすのもと → 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学者/神職) H 3 3 3 3
楠屋(くすのや) → 菊男(きくお・荒巻あらまき、商家/俳人) K 1 6 0 4
樟屋(くすのや) → 基広(もとひろ・並河/並川/平、歌人) E 4 4 1 4
葛の屋(くすのや) → 三春(みはる・水野みずの、神職/歌人) E 4 1 5 3
葛の屋(くすのや) → 直格(なおただ・堀、藩主/文芸) B 3 2 5 7
葛の舎(くすのや) → 元綱(もとつな・三輪田みわた、国学者/神職) D 4 4 1 4
- C1744 **葛原勾当**(くすはらこうとう、姓;矢田やだ/名;重美しげよし、重知長男)1812-8271 備後安那郡八尋村の生、庄屋の生/3歳で痘で失明、1820(9歳)琴を学習;上京し松野勾当門/以後帰郷上洛を重ねる、1831久我家(座頭支配)から苗字[葛原]を許可、1832(22歳)勾当の位を授与、

生田流箏曲の名手、「葛原勾当日記」著、

[葛原勾当の通称/号]通称;琴之一/美之一よしのいち、号;一泉、幼名;柳三

- E1751 **偉彦**(くすひこ・松木まつき、武彦男)1844-191774 伊勢度会郡神職;伊勢外宮禰宜松木品彦ただひこの養子、1845(弘化2)品彦没;2歳で家督嗣;外宮禰宜/書画・篆刻を嗜む、時彦の父、「五峰印譜」著、[偉彦(;名)の字/号]字;子温、号;香雲/五峰/松年

☆[松木外宮禰宜家]匡彦-盛彦(養子)-満彦
└ 直彦-智彦-卓彦-言彦-算彦-品彦(養)-**偉彦**(養)
└ 親彦-条彦-意彦-宅彦-恒彦-武彦-**偉彦**↑

葛古(くずふる) → 葛古(かっこ・俳人) C 1 5 4 3

楠丸(くすまる・橋村) → 正衛(まさえ・橋村/度会、神職/書) B 4 0 3 5

- 1731 **久須麻呂**(くすまろ・藤原ふじわら;朝臣、仲麻呂2男)?-764射殺 奈良期廷臣;758従五下/美濃守/大和守、左右京尹/762参議兼丹波守、764父の謀反に父命で中宮院の馱鈴と印璽奪う時射殺される、万葉四期歌人;卷四791・792(家持786-790との贈答/久須麻呂20歳以前)、[奥山の岩陰に生ふる菅の根のねもころ我も相思はざらめや](万葉:791/謎めいた歌)

屑麿(くすまろ・田中) → 屑麿(せつまる・田中たなか、歌人) N 2 4 8 8

楠実(くすみ・宮下) → 良文(よしぶみ・宮下みやした、国学/歌) P 4 7 4 4

楠弥太(くすやた・吉田) → 正準(まさとし・吉田、藩士/国学者/歌) E 4 0 4 8

- E1733 **葛良**(くずよし・珠城たまき、通称;元吉/彦兵衛)1790-184152 越後新潟の松平越中守家家臣、国学;平田篤胤門

駒寸(くすん・深沢) → 宗定(むねさだ・深沢ふかざわ、国学者/狂歌) E 4 2 1 9

矩正(くせい・前田) → 矩正(のりまさ・前田、藩士/記録) F 3 5 7 7

矩清(くせい・岡) → 矩清(のりきよ・岡おか/曾根、歌人) H 3 5 7 9

具世(ぐせい→ともよ・堀川) → 具世(ともよ・堀川、廷臣/連歌) Q 3 1 8 9

弘誓(ぐせい) → 弘誓(こうせい/ぐせい、浄土僧) G 1 9 8 5

弘誓院大納言(ぐせいいんだいなごん) → 教家(のりいえ・九条、和漢学/詩) 3 5 1 8

句星庵(くせいあん) → 田鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6

- 1751 **駒石**(くせき・石作いづくり、名;貞/字;士幹、厚愷男)1740-9657 信州木曾福島の人/1757家督;山村家の家臣;近侍、儒・詩;1766伊勢遊学;南宮大湫門、68帰郷;当主山村蘇門に出仕、財政再建/木曾路往来の文人と交流、1778「翠山楼詩集」93「翠山楼詩鈔」、「論語口義」、「東遊草」「莫逆集」「江戸みやげ」「剣術心論」「勸学言志」「儒林便覧」「続日本名家詩選」著、[駒石の通称/別号]通称;貞一郎、別号;翠山楼

久世相国(くせしやうこく) → 具通(ともみち・久我こが、太政大臣/歌) Q 3 1 6 3

具撰院(ぐせついでん) → 日逕(にっけい・円光院、日蓮僧/連歌) D 3 3 8 6

愚拙農夫(ぐせつのおうふ) → 世傑(せいけつ・日下くさか/孔/森、儒/詩) B 2 4 1 7

久世入道前太政大臣(くせにゅうどうさきさきのだいいじょうだいじん) → 具通(ともみち・久我こが、歌人) Q 3 1 6 3

玖川(くせん;島田) → 泰夫(やすお・島田/横山、医者) B 4 5 0 4

狗禅(ぐぜん、俳人・画家) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師/諸芸) 3 9 1 3

- 1752 **俱占**(ぐせん・別号;哺竹庵)?- ? 江中期備中足守の連衆俳人:孟遠門、1720「目団扇もくうちわ」共編(之建・干候と)

具選(ぐせん・岩倉) → 具選(ともぶ・岩倉/源/柳原、廷臣/詩歌) Q 3 1 2 1

愚船(ぐせん) → 光遍(こうへん;法諱・乗如じょうにょ、真宗東本願寺19世) L 1 9 1 0

- C1745 **愚禅**(ぐぜん;道号・実智[実智じつち];法諱、俗姓;宇野)1635-171076 豊前小倉の黄檗僧;1649薙髮/長崎江戸行脚、小倉福聚寺法雲明洞に参禅/1684嗣法/1701福聚寺3世/退院後竜華院住、「愚禅和尚語録」著

愚禅(ぐぜん;法諱・無学) → 無学(むがく;道号・愚禅、曹洞僧) 4 2 3 2

愚然(ぐぜん・森もり) → 友益(ともます・森、医者) Q 3 1 6 0

- 1753 **くそ**(久曾/屎くそ・源、源作女みなもとのつくるのむすめ、安倍清行女説あり)?-? 平安期女流歌人、古今集卷十九雑躰歌1054、

[よそながら我が身に糸のよるといへばただいはりに過ぐすばじゃりなり]
(古今1054;いとという男との関係をうわさされて詠んだ歌)

愚叟(ぐそう・土岐) → 朝旨(ともね・土岐/深津、幕臣/文筆) Q 3 1 7 0

- 愚叟(ぐそ・尾崎) → 宍夫(しお・尾崎おさき、国学者/歌人) N 2 1 7 2
 具足房僧都(ぐそくぼうのそうず) → 実因(じついん; 法諱、天台僧/歌人) E 2 1 7 5
 具体(ぐたい・大菅) → 南坡(なんば・大菅/岩泉、漢学者/藩儒) J 3 2 3 6
 百濟(くだら・兼康かねやす) → 百濟(ひやくさい、兼康元愷、詩) E 3 7 4 9
- B1740 **功垂**(くだる・相川あいかわ、通称; 深水、号; 櫟亭) ?-? 会津藩士/藩老田中家の臣、
 歌人; 沢田名垂門/桂園派、1836「幣の寄瀬」/50「佐賀野のくさ」著
 苦談楼(くだんろう) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0
 矩知(くち・山崎) → 矩知(のりとも・かねとも?・山崎やまさき、歌人) G 3 5 8 5
 久知為(くちい・大原) → 大原久知為(おおはらくちい、狂歌) B 1 4 7 4
 嘴天狗百癡(くちばしてんぐひやくち) → 柳浪(りゅうろう・馬田、医/戯作) F 4 9 8 8
- 1754 **口比売**(くちひめ) ? - ? 記紀歌謡作者、国依媛、仁徳天皇の寵愛
- C1746 **愚中**(ぐちゅう; 道号・周及しゅうぎゅう; 法諱) 1323-1409⁸⁷ 美濃土岐の臨濟僧; 夢窓疎石門、1341-51入元、
 1353南禅寺書記/65丹波天寧寺住/97安芸仏通寺開山、天寧寺で没/禅師号、「卍余かんよ集」、
 「愚中和尚語録」「愚中周及法語」1393「稟明集」著/1402「十牛訣」編、「仏徳禅師御詠」著、
 「愚中周及の初道号/号」初道号; 愚庵、号; 岳松子、諡号; 仏徳大通禅師
- B1741 **愚中**(ぐちゅう; 法諱・黠外かつがい; 道号、俗姓田尻) 1679-1737⁵⁹ 肥後飽田の曹洞僧;
 1690(12歳)出家; 損翁宗益門; 法嗣、越前竜沢寺/因幡景福寺/京の安養寺住持、
 「六祖壇經辨疑」著
 矩直(くちよく・加藤) → 円斎(えんさい・加藤/賀嶋、儒者: 経学) E 1 3 7 2
 愚直翁(ぐちよくおう) → 赤城(せきじょう・井田いだ/長尾、儒者) K 2 4 1 9
 愚直堂(ぐちよくどう・梅園) → 惟朝(これとも・梅園/土師/菅原、神職/国学) F 1 9 9 8
 俱通(ぐつう・天方) → 俱通(ともみち・天方あまた、幕臣/歌人) X 3 1 4 5
 屈頭(くつけん・稻生) → 恒軒(こうけん・稻生いのう、医者/漢学) I 1 9 5 3
- C1747 **屈斎**(くつさい・三木みき/水野、名; 権) ?-? 秋田藩士/江戸詰; 下谷三味線堀住、文人; 寺門静軒門、
 博学/詩人/戯作、1843「疏印旛湖策」、「芸林司会録」著、滑稽本「出放題初編」著、
 「屈斎の字/通称/別号」字; 子謀/仲興/中興、通称; 周蔵/周造/水野屈斎、
 別号; 俟知己斎しちさい/秤堂ひょうどう/善謔主人ぜんぎやくしゅじん
 堀宰(くつさい) → 具世(ともよ・堀河/堀川、廷臣/連歌) Q 3 1 8 9
 屈斎(くつさい・佐藤) → 寛雄(ひろお・佐藤さとう、神職/地誌家) F 3 7 5 9
 屈松園(くつしょうえん) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
 窟上人(くつしょうにん) → 円空(えんくう; 法諱、修験僧/仏師) / E 1 3 5 9
- C1748 **愚底**(ぐてい; 法諱・法名; 真蓮社勢誉善公) 1444-1516⁷³ 京の浄土僧; 常陸飯沼弘経寺了暁門、
 三河遊歴/1475岡崎大樹寺を創建、1504知恩23世/1510大樹寺の寺院機構整備/方式制定、
 「三部一覽集」「手印請決清濁」「方法蔵」著
- C1749 **愚亭**(ぐてい・江村えむら、名; 惊乗そうへい/乗、字; 孔均、北海男) 1744-70^{早世27} 京儒者; 家学; 父門、
 書法/文章を能くする、1767-82「北海先生詩鈔」編、「愚亭遺稿」
 愚亭(ぐてい) → 万里(ぼんり・帆足ほあし、儒者/教育者) I 3 6 6 4
 具定(ぐてい・堀河) → 具定(ともさだ・堀河/源、廷臣/歌人) P 3 1 4 3
- C1750 **久手堅親雲上**(くでけんべんしん) ?-? 沖縄; 琉歌組踊「大川敵討」作
 矩典(くてん・松平) → 斉典(なりつね・松平まつだいら、藩主/紀行) H 3 2 6 5
 具典(ぐてん・所) → 具典(ともすけ・所ところ/源、藩士/歌人) V 3 1 8 6
 具通(ぐつう・久我) → 具通(ともみち・久我がが、太政大臣/歌人) Q 3 1 6 3
- C1721 **苦桃**(くとう) ? - ? 江前期俳人; 1685風瀑「一樓賦」入
- C1751 **矩道**(くどう・村山むらやま、字; 伯道、通称徳兵衛、屋号; 玉屋) 1803-67⁶⁵ 伊勢鈴鹿関町旅籠玉屋主人、
 儒; 猪飼敬所門、「羽黒山紀行」/1857「名義所見」著
 矩道(くどう・布施) → 松翁(しょうおう・布施ふせ、商家/心学者) S 2 2 0 2
 矩道(くどう・山川) → 青山(せいざん・山川やまかわ、藩士/儒詩) I 2 4 4 7
 矩道(くどう・伴) → 仙路(せんろ・伴、藩士/俳人) N 2 4 3 9
 懼堂(くどう・山寺) → 常山(じょうざん・山寺、藩士/儒/兵学) S 2 2 6 2
 愚島(ぐとう・号) → 光隣(こうりん; 法諱・芳郷[卿]; 道号、臨濟僧) C 1 9 0 7

- C1752 **愚堂**(ぐどう;道号・東寔とうしよく;法諱、郷士伊藤紀内男)1577-1661⁸⁵ 美濃山県郡伊自良村出身;
1589出家(13歳);瑞雲寺宗呈門/95諸国行脚/臨濟;姫路南景宗岳・駿河説心宗宣門、
;下野興禅寺物外宗播門/1611庸山景庸に嗣法/14美濃瑞巖寺住寺/1628京妙心寺住持、
杵築養徳寺・伊勢中山寺・江戸正灯庵を開山/山科華山寺に退院、没後1662国師号勅賜、
「宝鑑録」「愚堂和尚語録」「宝鑑愚堂国師いろは歌」「宗門正燈録」著、
[愚堂東寔の諡号] 大円宝鑑国師
- B1743 **愚道**(ぐどう;法諱) ? - ? 京の極仏光寺僧/俳人;
1633重頼「犬子集」8句・「誹仙三十六人集」1667重以「誹諧百人一首」入、
[礼義とて飾藁かざりわらにも袴はまかな](犬子集;一3/元日、
飾藁;正月に玄関・床の間に飾る藁の作り物)
- C1753 **愚童**(ぐどう・長谷川はせがわ、名;安郷)1747-? 陸中盛岡の文筆家;幼時より好学/読書家、
1764(18歳)「恩繹抄」編
- C1754 **愚堂**(ぐどう・小森こもり、名;宏/字;孟博)1804-62⁵⁹ 京の医者、歌人、
「気海観瀾紀聞」「解剖刀法」「医笈」「医笈熱論」「元理発蒙」「撰生要方」「視学精説」著、
「泰西熱病論改」訳/「薔薇園医笈熱病篇」訳、
[愚堂の通称/別号]通称;宗二、別号;春坡/薔薇園しょうびえん/練丹室
- 愚道(ぐどう;法諱) → 竜哲(りゅうてつ;法諱、摂津の僧) L 4 9 3 2
 愚堂(ぐどう・鳥飼/大塚) → 毅斎(きさい・大塚おつか、藩士/儒者) I 1 6 5 4
 愚洞(ぐどう・西向庵) → 春帳(しゅんちやう・西向庵、読本作者) K 2 1 2 9
 愚同(ぐどう;号) → 道残(どうざん;法諱、浄土僧) E 3 1 6 9
 供道斎(ぐどうさい) → 宗範(むねのり/そうはん、辻つじ、茶道家/歌) D 4 2 9 9
 駆痘主人(くどうしゅじん) → 立斎(りつさい・桑田くわた、医者/種痘実施) B 4 9 9 7
 求道房(ぐどうぼう;号) → 恵尋(えじん;法諱、天台/浄土僧) E 1 3 0 0
- B1744 **功德**(くどく;法諱、備中びっちゅう)?-? 高野山の僧?/狂詩作者;1815雅仏「毒玉集」入
- 愚禿(ぐとく;号) → 親鸞(しんらん;法諱、浄土真宗祖) 2 2 3 0
 虞徳(ぐとく・田中) → 雪麿(ゆきまろ・墨川亭、藩士/絵師/戯作) 4 6 1 1
 功德院(ぐとくいん;号) → 日通(にっつう、日蓮僧) F 3 3 2 5
 功德院(ぐとくいん;号) → 海恵(かいえ;法諱、真言僧) 1 5 8 8
 功德阿闍梨(ぐとくいんのあじかり) → 皇円(こうえん;法諱、天台叡山僧) 1 9 7 6
 功德雲院(ぐとくうんいん;号) → 円通(えんつう;法諱、真宗高田派僧) F 1 3 2 3
 功德靈瑞(ぐどくのれいずい) → 靈瑞(れいずい;法諱、真言僧) B 5 1 4 3
 愚得坊(ぐとくぼう) → 鼠腹(そぶく;号、俳人) E 2 5 3 0
 功德林院(ぐとくりんいん) → 慈観(じかん;法諱、天台僧/大僧正) P 2 1 9 5
 くどり → 猿左(えんさ・戸谷とや、俳人) B 1 3 7 4
 愚鈍(ぐどん・神立) → 岷雪(みんせつ・河村かわむら、絵師) G 4 1 8 3
 愚鈍(ぐどん・木村) → 礼斎(れいさい・木村きむら、医者/探検) 5 1 2 9
 愚鈍駄菅雄(ぐどんだすがお) → 菅雄(須賀雄すがお・服部、国学/歌) B 2 3 6 1
- 1755 **宮内**(くない) ? - ? 平安前期;醍醐皇后(延喜皇太后)穩子の女房、
歌人;956坊城右大臣師輔殿歌合参加、拾遺集22、
[松の上うへに鳴く鶯の声をこそ初ねの日とはいふべかりけれ](拾遺;春22、
女童の頃に醍醐天皇の前で前の五葉に鶯が鳴いたので正月初子の日に詠む)
[色に出でてまだ見えぬまはおぼつかないまやまゆみの紅葉するとき]、
(師輔歌合;まゆみ右/左は橘仲遠)
- ☆ → 960天徳内裏歌合参加の「宮内蔵人」と同一?
- C1755 **宮内**(くない) ? - ? 平安中期女房/歌;1038源師房歌合参
- B1745 **宮内**(くない・北条) ? - ? 薩摩節浄瑠璃作者;「浄雲の曲」(月岑げつしん「声曲類纂」説)
- C1756 **宮内**(くない・伊勢島) ? - 1657? 伊勢浄瑠璃太夫、1644上京;四条河原興行、
1647「石橋山七きおち」「かばの御ざうし」著
- 宮内(くない・堀田) → 一之(かずゆき・堀田ほった、幕臣/和学者) V 1 5 6 5
 宮内(くない・天野) → 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8

宮内(くない・毛利)	→	広漢(ひろくに・毛利もうり、藩士/儒家)	F 3 7 7 9
宮内(くない・跡部)	→	良隆(よしたか・跡部あとべ、幕臣/歌人)	D 4 7 9 5
宮内(くない・跡部)	→	良顕(よしあきら・跡部、幕臣/神道/歌)	C 4 7 0 4
宮内(くない・森)	→	盛州(もりくに・森もり/源、幕臣/歌人)	I 4 4 7 4
宮内(くない・土屋)	→	縄直(ただなお・土屋つちや/源、幕臣/歌)	U 2 6 0 6
宮内(くない・寺田)	→	鈍金(どんぜん・自然軒、武士/狂歌)	S 3 1 3 6
宮内(くない・九鬼)	→	隆幸(たかゆき・九鬼くき、文筆)	N 2 6 6 0
宮内(くない・益田)	→	広堯(ひろあき・益田ますだ/繁沢、家老)	L 3 7 0 0
宮内(くない・堀田)	→	正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家)	D 4 0 1 8
宮内(くない・皆川)	→	広達(ひろみち・皆川みながわ、幕臣/馬術)	H 3 7 2 4
宮内(くない・岡田/堀)	→	利庸(としつね・堀ほり、幕臣/歌人)	M 3 1 9 3
宮内(くない・豊竹)	→	肥前掾(ひぜんのじょう・豊竹、浄瑠璃太夫/座本)	C 3 7 5 2
宮内(くない・黒沢)	→	長尚(ながひさ・黒沢、藩士/地誌)	F 3 2 4 5
宮内(くない・藺田)	→	守富(もりとみ・藺田/荒木田、神職/歌)	F 4 4 9 8
宮内(くない・間部/西田)	→	詮房(あきふさ・間部まなべ、藩主/日記)	D 1 0 8 5
宮内(くない・木下)	→	台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励)	R 1 6 0 2
宮内(くない・川井)	→	久敬(ひさたか・川井かわい、幕臣/家老)	L 2 7 6 8
宮内(くない・菅沼)	→	吉次(よしつぐ・菅沼すがぬま、藩士/歌人)	N 4 7 4 5
宮内(くない・井村)	→	木菘(ぼくおう・井村、俳人)	C 3 9 9 3
宮内(くない・南部)	→	宗寿(そうじゅ・南部なんぶ、医者/儒者)	H 2 5 7 2
宮内(九内くない・沢村)	→	琴所(きんしよ・沢村/沢、儒者/兵学)	E 1 6 1 4
宮内(くない・室田)	→	謙(ゆずる・室田むろた/泉せん、医者/国学)	G 4 6 9 6
宮内(くない・桜田)	→	古秀(こしゅう・八田はつた、絵師)	M 1 9 7 5
宮内(くない・進藤)	→	千尋(ちひろ・進藤/藤原、坊官/国学/歌)	F 2 8 2 6
宮内(くない・市川)	→	新蔵(しんぞう・大滝おおたき、藩士/奉行)	P 2 2 2 3
宮内(くない・大野)	→	玄鶴(げんかく・大野おおの、医者/地誌)	I 1 8 2 7
宮内(くない・村山)	→	長教(ながのり・村山むらやま、藩士/国学/歌)	P 3 2 0 4
宮内(くない・後閑)	→	義行(よしゆき・後閑ごかん/源、藩士/歌人)	M 4 7 8 7
宮内(くない・神白)	→	朝興(ともおき・神白こうじろ、神職/歌人)	V 3 1 2 0
宮内(くない・下平)	→	倫訓(ともりのり・下平しもひら、神職/国学)	V 3 1 4 0
宮内(くない・高木)	→	延繁(のぶしげ・高木たかぎ、神職)	I 3 5 9 3
宮内(くない・高杉)	→	友敏(ともひさ・高杉たかすぎ/源、藩士/歌)	V 3 1 6 1
宮内(くない・益)	→	元功(もとのり・益ます、神道/国学)	L 4 4 3 2
宮内(くない・新庄)	→	直賢(なおかた・新庄しんじょう、幕臣/国学)	N 3 2 4 0
宮内(くない・福岡)	→	孝茂(たかしげ・福岡ふくおか、藩老/和漢学)	Z 2 6 2 8
久内(くない・伊藤)	→	友嵩(ともたか・伊藤いとう、藩士/老中)	U 3 1 0 9
九内(くない・和泉屋/和田)	→	正主(まさぬし・和田わだ/橋、商家/国学)	L 4 0 8 7

- 1705 **宮内卿**(くないきょう・後鳥羽院、源師光女)1185?-1204?早世20? 母:後白河院安芸/兄;源具親ともちか、歌人;1200頃後鳥羽院女房/後鳥羽歌壇で活躍、1200正治後度百首/1201-2影供歌合参加、12002千五百番歌合参加、12004. 11. 10春日社歌合参加が最終事跡、秋風集・雲葉集(9首)・閑月集・女房三十六歌合入集、勅撰43首;新古(15首4/76/128/129以下)新勅(908/1001)続古(3首)新後撰(928)以下[うすこき野辺のみどりの若草に跡までみゆる雪のむら消](新古今;一春76)
父 → 師光(もろみつ・源、歌人) H 4 4 9 7
- C1757 **宮内卿**(くないきょう・承明門院しょうめいもんいん)?-? 鎌倉前期;後鳥羽天皇妃源在子[1257没]の女房、連歌:菟玖波1592入;右京大夫[うきょうのだいふ・承明門院]の項を参照
- 1756 **宮内卿**(くないきょう・後嵯峨院、藤原[飛鳥井]兼教女)?-? 鎌倉期;後嵯峨院[1220-72]の女房/歌人、1268白川殿五首歌合参加(散佚):続拾遺354、[時雨ゆく雲のよそなるもみぢ葉も夕日に染むるかづらきの山](続拾遺集;五秋354/詞書;文永五年九月十三夜白川殿五首歌合に 暮山紅葉)

- E1762 **宮内卿**(くないきょう・西華門院せいかもんいん)?-? 鎌倉南北期;女房歌人、
西華せいか門院(源基子/1269-1355/後二条天皇母)に出仕、1345刊[藤葉とうよう集]入、
[つれなさをうらみ尽してことのはもなくなくなげく身の契かな](藤葉;恋616)
- 宮内卿(くないきょう) → 日台(にちだい;法諱・鏡円、日蓮僧) C 3 3 7 8
 宮内卿(くないきょう) → 有賢(ありがた・源、楽家) B 1 0 6 5
 宮内卿(くないきょう・狩野) → 探幽(たんゆう・狩野、絵師) I 2 6 6 1
 宮内卿(くないきょう・賀茂) → 元久(もとひさ・賀茂かも、神職/連歌) D 4 4 9 7
 宮内卿入道(くないきょうにゅうどう) → 忠守((ただもり・丹波、廷臣;医/歌) F 2 6 9 4
 宮内卿阿闍梨(くないきょうのあじり) → 日行(にちぎょう;法諱、日蓮僧) B 3 3 3 2
 宮内卿内侍(くないきょうのないし) → 卿内侍(きょうのないし・姉小路濟子/歌) C 1 6 8 2
 宮内卿律師(くないきょうのりっし) → 道謙(どうけん、俗姓;土岐、僧/歌人) D 3 1 5 2
 宮内少輔(くないしょう/-せふ) → 貞綱(さだつな・塩屋えんや/佐々木/源、武将/連歌) I 2 0 5 9
 宮内少輔(くないしょう/-せふ) → 元親(もとちか・長宗[曾]我部、武将/藩主/南学) D 4 4 0 0
 宮内少輔(くないしょう/-せふ) → 国貞(くにさだ・比志島ひじま、藩家老) E 1 7 4 5
 宮内少輔(くないしょう/-せふ) → 清円(きよのぶ・佐分さぶり/眞清田まつみだ、神職/国学) Q 1 6 1 0
 宮内少輔(くないしょう/-せふ) → 叙胤(のぶたね・齋藤さいとう、廷臣/歌人) I 3 5 5 8
 宮内少輔(くないしょう/-せふ) → 好高(よしたか・芝崎しばさき/平、神職/国学) N 4 7 3 3
 宮内少輔(くないしょう/-せふ) → 昌興(まさおき・志貴しき、神職) B 4 0 4 4
 宮内少輔(くないしょう/-せふ) → 久与(ひさとも・永岡ながおか/平、神職) K 3 7 4 2
 宮内少輔(くないしょう/-せふ) → 長延(ながのぶ・中川ながわ/藤原、廷臣/歌) F 3 2 1 9
 宮内少輔光風(くないしょうこうふう) → 都の錦(みやこのにしき、浮世草子作者) 4 1 3 9
 宮内少丞(くないしょうじょう) → 行忠(ゆきただ・青木あおき/宗岡、官人/歌) G 4 6 4 4
 宮内少丞(くないしょうじょう) → 行敬(ゆきもり・青木あおき/宗岡、歌人) G 4 6 4 5
 宮内少丞(くないしょうじょう) → 信成(のぶなり・長谷ながたに、廷臣/歌人) J 3 5 4 1
 宮内大輔(くないたいふ・長宗我部) → 盛親(もりちか・長宗[曾]我部ちようそかべ、武将/城主) F 4 4 7 1
 宮内大輔(くないたいふ・芝崎) → 好寛(よしひろ・芝崎しばさき、好高男/神職/国学) N 4 7 3 2
- E1752 **国**(くに・松平まつだいら、高田藩主松平光長女) 1636-71自殺36 母;登佐(毛利秀就女)、祖母;高田殿、
歌人;照高院宮門興意こうい親王門・道晃親王門/京の廷臣達からも歌の達人と称される、
松平綱賢妹、1655(明暦元)越前福井藩主松平光通(てるみち/みちみつ)と結婚;正室、女兒2人出産;
息女;布世(鍋島綱茂の室)・市(早世)、男児なく側室の子の権蔵(直堅)が嗣子の予定、
国姫の祖母高田殿(勝姫/徳川秀忠女)は激怒し権蔵を認めず国姫の男児後継を強要;
光通から起請文を取る;夫婦仲が急速に悪化;男児を生めない国姫は1671(寛文11)自殺、
権蔵は叔父越前大野藩主松平直良に逃亡(のち糸魚川藩主)、
1674光通も精神的に病み自殺;福井藩の跡目争い・減封の原因となる、
歌;了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]4首入、松平綱賢の妹/
[一むらの煙ばかりに住む人のありと知らるゝ雪の山里](若むらさき;99遠村雪)、
[ひととせをあだに暮して昨日今日惜しむや何の心なるらむ](同;105/歳暮)、
[夕暮の秋にはたへぬ山ながらうき世にかへる心ともなし](同;193山家心)
[青葉のみ数そふ山の遅桜花はしげみのうちに隠れて]、
(松平春嶽[古今百人一首]入;45)
- [国(;名)の通称/法号]通称;国姫くにひめ/国女、法号;清池院せいちいん殿法譽性龍大禅定尼
夫 → 光通(てるみち/みちみつ・松平まつだいら、藩主) F 3 0 0 1
- C1758 **邦**(くに・東条とうじょう) ? - ? 江後期信濃の文筆家/如禅道人と交流、
1817「印法正伝譜附如禅道人略伝」著
- E1741 **くに**(くに・糠沢ぬかさわ) ? - 1833 陸奥安達郡の農家/歌人、糠沢清篤きよあつと同族?
邦(くに・久松/松平) → 邦子(くに・久松ひさまつ、藩主夫人/歌) D 1 7 8 3
くに(・野呂瀬) → 暁月(ぎょうげつ・野呂瀬のりせ、国学/歌人) B 1 6 1 0
- 1716 **国章**(くにあき/くにのり・藤原ふじわら、元名男/母;藤原扶幹女) 919-98567 平安前期廷臣;兵衛佐、
大宰大貳/皇后宮権大夫、歌人;拾遺集4首;544/558/1068/1285、文範ふみりの弟
- 1757 **国顕**(くにあき・津守つもり・法名:寂信、国助[1242-99没]男)?-? 鎌倉期神職/廷臣;河内守、

- 歌;続千載798(;寂信名)/新後撰983[読人しらず、津守集では国頭]、津守集入
- C1759 **国昭**(くにあき・津守つむり、称;宗川夢翁、国博男)1441-? 1488存 室町期神職/廷臣;1447左京大夫、1463従四下、1447「住吉大神宮祝詞」編
- E1706 **邦全**(くにあき・大村おむら、矢田部盛肥4男)1773-1829⁵⁷ 伊豆三島の商家/大村商全の養子、歌人;1801加藤景範門、京住;白木屋経営、妻;那波しう(脩しゅう・歌人)、恒全つねあきの父、[邦全(;名)の通称]通称;彦太郎、屋号;白木屋、法名;蘭披道郁居士
- B1746 **国明**(初世くにあき・歌川うたがわ、幕府御徒士平沢辰之助男)?-? 幕末期絵師;3世歌川豊国門、風俗画/芝居絵、1851「松園白妙譚」/52-63「稻妻形怪鼠標子」55春水「北雪美談時代加賀見」、1860「御堂前仇討」、「梅ヶ香草紙」「新田足利楠公録」、弟が2世国明を嗣、[歌川国明(;号)の別号]一鳳斎
- C1760 **国頭**(くにあき・歌川うたがわ) ? - ? 江後期1818-30頃絵師、1864「辻占独判断」画
- E1728 **邦頭**(くにあき・田村たむら、宗頭2男)1814-1840²⁷ 母;おかね(田村村資女/宣寿院)、江戸藩邸の生、1828(文政10)父没;陸奥一関藩7代藩主、従五下・左京大夫、1829元服、連年凶作;藩財政悪化、和算;千葉胤秀門、正室;鏗(楷/堀親喜女)/継室;由(松平信行女)、実子なく弟頭允(邦行/宗頭4男)が家督嗣、[邦頭(;名)の通称]深美(幼名)/左京大夫
- D1795 **国明**(くにあき・赤松あかまつ)1824-1902⁷⁹ ? 伊予宇和島の文人
[国明(;名)の通称/号]通称;寛助、号;晩翠
- 国章(くにあき・岸) → 岱(たい・岸きし、岸岱、絵師) 2 6 0 0
国章(くにあき・樋口) → 邦古(くにひさ・樋口ひぐち、国学/文筆家) D 1 7 1 2
邦秋(くにあき・片山) → 周東(しゅうとう・片山かたやま、藩士/俳人) Y 2 1 0 8
- 1717 **国頭**(国頭くにあきら・杉浦すぎうら、渡辺周頭[竹庵]男)1678-1740⁶³ 1683(6歳)叔父杉浦忠義の養嗣;遠江の浜松諏訪神社の大祝職、社殿修復願のため屢々江戸へ出る;1703国学;荷田春満門、春満の姪雅子(真崎)と結婚、春満の指導で東海三国(駿河遠江三河)の国学の祖となる、和歌会を開催;歌道振興、甘露寺・神立社・竜禅寺・臨江寺等の雅遊を主宰、1734舎人親王一千年祭举行/尽敬会を結成、賀茂真淵・斎藤信幸の師、朋理[ともあきら/1710-33;24歳]の父/養嗣子;渡辺国満[くにまろ/1706-67;52歳]、1711「正徳随筆」13「引馬野草」「遠津淡海名所和歌集」編、27「竜禅寺歌詩会記」、1730「野あそび」編、31「和州紀行」33「遠江後葉誌」「山名紀行」、「諏訪拾遺摘要」外著多数、[国頭(;名)の幼名/通称/号]幼名;忠成、通称;大学/信濃守/飛騨守/修理亮、号;志水、神号;頭興靈神、妻; → 真崎(まさき・杉浦、政子/雅子、歌人/1690-1754) C 4 0 2 0
- C1761 **国明**(くにあきら・福島くしま、通称伝五郎、国豊男)?-? 江中期幕臣/家学;北条流軍学、兄国雄の養嗣、「御旗標並御船標」編
国瑞(くにあきら・くによし・桂川) → 甫周(ほしゅう・桂川/4世、幕府蘭医) E 3 9 2 2
- C1762 **国礼**(くにあや・津守つむり、通称;上野介、錦小路頼尚男)1773-1846⁷⁴ 津守国頼の養子;住吉社神主、1813従三位、22神主致仕、歌人;日野資枝・閑院宮美仁親王門、国基の父、「墨江64番歌合」「二十八番歌合」、「みやこの白なみ」著、幼名:常丸
国衛(くにえ・甲斐) → 重達(しげみち・甲斐かい、国学/歌/尊攘) N 2 1 9 0
- 1758 **国雄**(くにお・大平おおひら・近藤、国豊男)?-1508 室町期;土佐蓮池城主/細川氏被官、歌人、日次歌会開催
- C1763 **国雄**(くにお・栗田あわた) ? - ? 尾張熱田神宮社家、「熱田皇太神宮略縁記」
- C1764 **国雄**(くにお・橋たちばな、通称;酢屋平十郎[源十郎])?-? 江中期1751-89頃大阪の絵師;橋守国門、江戸堀五丁目に住/売名好まず落款少数、1780「蝦夷志略」83「絵本千里友」、1785「挹芳斎雑画」「毛詩品物図攷」「絵本梅の薨」著、[橋国雄の別号] 皎天斎こうてんさい/挹芳斎ゆうほうさい
- D1768 **国雄**(くにお・福島くしま、通称;左門/伝兵衛、国豊男)1733-? 1798存 幕臣/家学;北条流軍学、1749家督、98具足奉行、1795將軍に家伝書「土鑑用法」講義、のち弟国明くにあきらを養嗣子、1793「日本絵図城主記」、「旗幟図鑑」「貝太鼓賦」著
- C1765 **国雄**(国雄くにお・林はやし/山崎)1778or80-1839^{60or62} 水戸の武士;

江戸の甲府勤番支配八木補矩に出仕、山崎家の養子/浪人;四谷北伊賀町住、
狂歌;眞顔門;四方側判者(棹歌亭とうかてい眞楫まがし名)、国学;平田篤胤門、一橋・田安家家臣、
「万葉常盤蔭」「玉だすき」「婦母との蔭」、1810「鄙通辞」、「松葉集」「続松葉集」「三元論」著、
「言葉の綾緒」「仮名類語抄」「源注余意」「尚古類語抄」著、
「日本書紀写誤考」「読令私記」「鎮魂」、1821狂歌研究書「興歌きょうか考」、「興歌仮名拾要」著、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[なかなか人にあらずは紀の国の妹背の山にあらましものを](大江戸倭歌;恋1517)、
[囿雄(国雄)の通称/号]通称;穎之助いのすけ/東馬/主水/主税、
号;常盤居/常盤舎/松園/棹歌亭とうかてい眞楫/源眞楫みなものまがし/大船眞楫/山崎千右衛門
甕雄(みかお・国学者)の養父

- E1740 **国男**(くにお・成川なるかわ、眞棹まさお男) 1790-1843⁵⁴ 伊予道後の町医者;父門、国学・歌;父門、
妻;マキ、伊佐庭いさむら如矢ゆきやの父、
[かぎりなき春の例ために大ぬさのひくてあまたの姫小松かな](類題玉石集・上/春)、
[国男(;名)の通称/号]通称;寛之丞/春策、号;如水/和忍
- E1758 **国雄**(くにお・山口やまぐち、包房かねふさ男) 1807-1848⁴² 信濃飯田の呉服商の家、
国学者・歌人;植松茂岳門、
[国雄(;名)の初名/通称]初名;斎季、通称;五兵衛
- B1747 **国興**(くにおき・桂川かつらがわ、幼名小吉、国寧くにやす男) 1826-81⁵⁶ 桂川家7世/1846幕府医官、
1855-58ズーフ編の蘭日辞書「和蘭字彙」校訂刊行/61西洋医学所教授/68退隠、
[国興の字/通称/号]字;禎卿、通称;甫安/甫周、号;月池
- 1759 **国忍**(くにおし・玉作部たまつくりべ)?- ? 奈良期;755防人/上総国望陀郡まぐたのこおり上丁、万葉廿4351
- 1706 **国臣**(くにおみ・平野ひらの/大中臣おおなかとみ/小金丸こがねまる、平野能栄男) 1828-64^{獄死} 37 母;都甲周助女、
福岡の人、1841小金丸彦六養嗣/離縁復姓/長崎諸用聞次定役、国学;青柳種春/坂田諸遠門、
1858脱藩/勤皇:西郷隆盛と交流、生野代官所襲撃・挙兵;投獄され斬首刑、
「尽忠録」「囿圀消光録」「捻紙歌集」「平野国臣歌集」著、維宣「歎涕和歌集」三編に家集入、
「平野国臣建言書」「平野三策」「囿圀消光録」、1862「培覆論」63「回天管見策」「制蛮礎策」、
[国臣の別名/通称/号]別名;種臣/種徳/種言、通称;巳之吉/乙吉/又吉/雄/雄助/源蔵/次郎、
号;月廼舎/友月庵/独醒軒/柏舎、変名;胎岳院雲外/草香江水際/都甲楯彦/佐々木将監
- C1766 **国香**(くにか・平、高望王男)?- 935^{殺害} 平安中期武将、常陸大掾、甥将門に殺害;承平乱
- B1748 **国香**(くにか・中村なかむら、名;貞治/定治) 1709-69⁶¹ 上総夷隅郡長者町の儒者;宇佐美瀧水しんすい門、
経学を教育、1748滑稽本「酒賦」(のち「片仮名世酔記」)、「いろは節用集大成」編、
郷土史;1761「房総志料」66「金ケさく紀行」、「房総遊覧志」「房総考古録」「南流部志抄」、
[国香の字/通称/別号]字;子蘭、通称;勝治郎/善右衛門、別号;蕙洲
- 国香(くにか・杉浦) → 国満(くしまる・杉浦さざうら、神職/国学) 1 7 2 2
国香(くにか・西) → 逸史(いっし・西にし・藩士/系譜制作) J 1 1 5 7
- C1767 **国景**(くにかげ・歌川うたがわ、別号;英斎/一英斎/一桜斎)?-? 江後期絵師;初世歌川豊国門、大阪住、
1828「女今川操文庫」29-30「本朝悪狐伝」32「新撰七夕狂歌集」40「敵討雨夜傘」
- C1768 **国景**(くにかげ・錦葩楼きんぱろう)?- ? 江後期大阪絵師、1833「春情濡小袖」
歌川国景と同一? → 国景(くにかげ・歌川英斎) C 1 7 6 7
- 1760 **国量**(くにかず・津守つもし、国夏男) 1338-1402⁶⁵ 母;下郷しもと元政女、神職;1353住吉53代神主、
1398従三位撰津守、歌人、新千載・新後拾遺集の連署、永和百首入集、
1365正平廿年点取三百首和歌(於住吉行宮/南朝)参加(左京太夫名)、
勅撰12首;新千(3首443/772/1267)新後拾(7首226/602/733以下)新続古(2首1703/1775)、
新葉6首(77/305/500/601以下)、兄弟;国貴くにたか・国実くにざね・量夏かずなつ、
[やく塩の煙はあれどおしてゐるや難波にはるる月の影かな](新千載;秋443)
- C1769 **国員**(くにかず・歌川うたがわ、別号;一珠斎)?-? 江後期1848-68頃絵師;3世歌川豊国(国貞)門、
1848-68「吾妻しらべ」、「美人傾城いろは短歌」「当世武勇伝」「中世楼入浴図」画、
「誰袖とめきかほる」「手妻はや合点」「浪花名所百景」画
国数(くにかず・土岐) → 道喜(どうき:法名、土岐、廷臣/歌人) C 3 1 5 4
- 1718 **国堅**(国方・国賢くにたか・小野おの)?-? 経師/739写経司官人、

万葉三期/歌844(730年旅人梅花宴参加)、

[妹が家へに雪かも降ると見るまでにここだも紛まがふ梅の花かも](万葉;五844)

- 1761 **国賢**(くにかた・清原きよはら/通称;船[舟]橋、枝賢男)1544-161471 戦国江前期廷臣;1601大蔵卿、
従三位、1607出家、儒/国学/神道、1599後陽成天皇慶長勅版「日本書紀神代卷」跋文、
1599「神代最要集」校訂、「日本書紀神代合解」編、
「日本書紀目録」「深窓秘抄」「女房衣類鈔」著、
[国賢の法号] 法号;春松院、 息;秀賢ひでかた[舟橋ふなばし家の祖]
- E1738 **国器**(くにかた・中西なかし、)1758-181053 近江彦根の儒者・詩歌;竜りゅう公美きんえ門、
歌;[彦根歌人伝・亀]入、
[国器(;名)の字/通称]字;延宝、通称;与五郎
- E1746 **邦勝**(くにかつ・平岡ひらおか/本姓;源、)1799-185153 江戸の生?/国学;平田篤胤門、出羽山形藩士、
[邦勝(;名)の通称] 佐助/継兵衛
- 1762 **国廉**(くにかど/くにかみ・津守、国量男)1361-139838 神職;住吉社権神主、歌人、
1397-8「津守和歌集」撰?、新後拾遺925(読人しらず;津守集では国廉作)、
[古郷の人知るらめやかくばかり旅寝露けきをののしの原]、
(新後拾;羈旅925/読人しらず)
- 1763 **国兼**(くにかね/くにかぬ・津守、国助男?)?-? 神職;近江守、笙・和琴、
歌;新後撰1138(読人しらず;津守集では国兼作)、
[よひよひにかよひし道ぞたえにけるうき身を中の関守にして]、
(新後撰;恋1138/読人しらず)
- B1783 **国包**(初世くにかね・本郷ほんごう、藤原)1592-166473 仙台伊達家の刀匠、
大坂陣に伊達政宗に従軍;御治御用、槍穂先20穂を打つ/仙台若林住、
参禅;雲居うんご門(法名;用恵仁沢)
- B1749 **国兼**(くにかね・歌川うたがわ、別号;一豊斎)-?-? 江後期絵師;初世歌川豊国門、役者絵/合巻挿画、
一九「金草鞋・17編」画、1827「寛能上人御法画解」29「忠臣合鏡」「安達織作廻国伝」画
国包(13世くにかね・本郷)→ 栄助(えいすけ・本郷ほんごう、刀匠) D 1 3 0 6
- C1770 **国清**(くにきよ・畠山はたけやま、家国男/本姓源)-?-1362/64? 武将/左近将監/阿波守/和泉・紀伊守護、
足利家臣、1353関東執事;各地転戦、61足利基氏に背き弟義深と鎌倉出奔;伊豆籠城、
1362出家;足利軍に降服/基氏に許されず南朝へ向かうも失敗;
南都を転々として大和・山城辺で弟と窮死、歌;新千載792(道誓法師名)、
[旅衣はるばるきてもへだてぬは都にかよふこころなりけり](新千載;八羈旅792)、
[国清の通称/法名]通称;阿波次郎、法名;道誓どうせい
- C1771 **国清**(くにきよ・源?) ? - ? 室町期廷臣/歌人;1407内裏九十番歌合参(;3首)
- C1772 **国清**(初世くにきよ・歌川うたがわ、姓;江守/名;安蔵)-?-? 江後期絵師;初世歌川豊国門、幕臣、茶番狂言、
八丈島へ流罪、1811「小夜嵐峯之落栗」「和歌緑照天之松」、「八丈島画記」画、
[国清の別号] 一楽斎/松魚/松魚楼
- C1773 **郡廉**(くにきよ・神山こうやま、別名;郡風/君風、清風男)1829-190981歳 神山左平清名の養子、
土佐藩士;吉田東洋に認められ大目付、勤王派、武芸/和漢学/書画、
1867「神山郡廉雑記」、「神山郡廉日記」著、
[郡廉(;名)の通称]通称;左多衛
- B1735 **久瀨子**(くに・渡邊わたなべ、渡邊源次郎女)-?-?早世30歳未満 江中期歌人、父は幕臣で御広舗番頭、
1798刊石野広通「霞関集」入、
[咲きて見るほどこそなけれ秋の日のうつる垣根の露の朝顔](霞関;秋417、
この句詠後程なく没)
- 1764 **邦子**(くに・日尾ひお、号;花月園、旧姓;石井)1815-8571 1828出羽庄内藩主酒井家の侍女;
江戸藩邸奥向に出仕、歌/書;日尾荊山門/1841荊山(直麻呂)の継室、
1859夫没後に継女日尾直なほ(直子)と竹陰女塾を開塾、家集「竹の下風」、
1857「貞婦染女そめじよ行状」著、「花月園漫筆」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[木枯やさそひ来ぬらん池水によその紅葉の散り浮ぶなり](大江戸倭歌;冬1098)
- D1796 **久仁子**(くに・荒巻あらまき、)-?- 1875 筑後久留米藩士荒巻方昌(かたまき、1792-1872)の妻、

歌人;夫と共に西田直養なおい門

- D1783 **邦子**(くに・久松ひさまつ、松山12代藩主松平勝善女)1843-1904⁶² 母;雅子(鍾/和光院)、
歌人;日尾邦子門、松山14代藩主松平定昭の室、歌;井手直棹編[花の雫]に461首入、
「雅子日記」著;1864(元治元)江戸から松山に帰り翌65(慶応元)江戸に戻る歌日記、
[初秋の風をいづこに折りこめてならず扇の涼しかるらむ]
[邦子(;)名)の別名/法号]別名;邦、法号;貞恭院
国子(くに・松平) → 国(くに・松平まつだいら、藩主室/歌人) E 1 7 5 2
国子(くに・徳川/鍋島) → 直正室(なおよまのしつ・鍋島、文筆家) C 3 2 4 9
国五郎(2世くにごろう・浅尾) → 仁左衛門(7世にざえもん・片岡、歌舞伎役者) 3 3 1 6
- B1797 **国定**(くにさだ、若槻わかづき) ? - ? 管領細川高国の家臣/歌人、1536三条西実隆「再昌草」入
E1745 **国貞**(くにさだ・比志島ひしじま、国真男)1550-1620⁷¹ 薩摩鹿兒島藩士;市来地頭、和学者、
1578(天正6)大友軍の日向侵攻に高城へ加勢/1582(天正10)弟彦八郎と肥前有馬へ使者、
1586(天正14)岩屋城戦に八代に随従、1588(天正16)島津義久初上洛に随従、
1596(慶長元)義久の家老/1600日向高岡地頭、1610(慶長15)島津家久の江戸参勤に随従、
1620(元和6)没;28家久の命で源舜庵が建立;[忠義の老臣]とされる、比志島国隆の父、
[国貞(;)名)通称]通称;紀伊守/彦四郎/宮内少輔、法名;堯安源舜居士
- 1729 **国貞**(初世くにさだ・歌川うたがわ、姓;角田すみだ、角田庄兵衛男)1786-1864⁷⁹ 浮世絵;初世歌川豊国門、
合巻挿絵;1815-31種彦「正本製しょうほんじて」画(特に第五編に「歌川国貞難波土産なわのいづと」)
1829-42「偽紫田舎源氏」挿画;源氏絵の新分野創始、1840-笑顔「児雷也豪傑譚」画、
1845-8草双紙2世十返舎一九「紫菜浅草土産むらさきのりあさくさみやげ」挿画(2世豊国名)、
1847-49吐蚊(3世如臯)「青砥劇譚あおとかぶきものがたり」画、48-54「朝顔物語」49-「白縫物語」外多数、
絵本;1827「夏の富士」1830頃「劇場一観頭微鏡」「三都俳優水滸伝だいかいがぶきすいでん」外多数、
錦絵;「北国五色墨」「当世三十二相」「今様三十二相」「江戸名所百人美人」外多数、
[初世国貞(;)号)の通称/別号]通称;庄蔵/肖造、
別号;3世豊国[自称は2世]、英一蝶はなぶさいたい、五渡亭/一雄斎/月波楼/琴雷舎、
国貞舎豊国/一陽斎/北梅戸/香蝶楼/富眺庵/富望山人/雛獅豊国/桃樹園、
不器用又平/喜翁、 法号;豊国院貞匠画僊居士
- B1750 **国貞**(2世くにさだ・歌川うたがわ、角田すみだ、通称;政吉/清太郎)1823-80⁵⁸ 武州南葛飾大島村農家出身、
絵師;初世国貞(3世豊国)門;1852入婿(角田姓)、美人画・役者絵/合巻挿画、
1840-「児雷也豪傑譚」(初世と画)/48「犬の草紙」/59「川中島烈戦功記」「壽金大帳」、
1860「仮名手本忠臣蔵」/62「青砥稿花紅彩」「東海道四谷怪談」/63「春色墨田川」外多数、
[2世国貞の別号] 3世歌川国政、4世歌川豊国、梅蝶楼/一寿斎/一陽斎/宝来舎、法号;三香院
国定(くにさだ・木下) → 台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励) R 1 6 0 2
国楨(くにさだ・山田) → 兵左衛門(へいざえもん・山田、藩士/儒) 2 7 3 6
邦貞(くにさだ・多久) → 元良(もとよし・多久たく、医者/国学) K 4 4 3 5
- C1774 **国郷**(くにさと・歌川うたがわ、通称;政次郎)?-1858 江戸本所堅川の菓子屋/絵師・3世歌川豊国門、
1843-53「教訓乳母草紙」/47-62「琴声美人録」/50-56「庭訓武蔵燈」55「東海道天日嘯」外多数、
[国郷の別号] 一曜斎/立川/立川斎
- C1775 **邦孚**(くにさね・中西ななし、字;子彦、敷邦男)1808-69^{62歳} 幕臣天文方;父門/算学・医・書、
1867下総堀江に退隠、「遠鏡図説」編/「航海曆歩法」校訂、
[邦孚の通称/号]通称;平太郎/金吾、号;観水
- 1719 **国信**(くにさね・源みなもと、号;坊城中納言、顕房男)1069-1111⁴³ 母;藤原良任女、廷臣;
1098参議、99従三位/1102権中納言/03正二位;堀河天皇近臣/11(天永2)病で出家;没、
歌;堀河院歌壇の主要歌人、1100「源宰相中将国信家歌合」主催、
1102堀河院艶書合せうぶみあわせ/堀河百首参加、万葉集次点学者、
「恋昔百首和歌」「源中納言懐旧百首」著、雅実まさね/顕仲の弟、
顕国・国教・雅国・信時・俊国・国範・信智・従二位信子(基実母)・従三位俊子(基房母)の父、
後葉集(1首)・続詞花集・万代集・秋風集・雲葉集・夫木抄入集、菟玖波;1句入、
勅撰37首;金葉(4首163/304/344/444)詞花(262)千(5首)新古(5首)新勅(8首)以下、
[七夕に貸せる衣の露けさに飽かぬけしきを空にしるかな](金葉;秋163)

- 1765 **国実**(くにざね・津守つり、国夏男)?-1352 鎌倉末期神職;1328住吉権神主/正五下左近将監、歌人:勅撰2首;風雅1556、新後拾遺748、兄弟;国量くにかず・国貴くにたか・量夏かずなり
- E1726 **邦実**(くにざね・進藤しんどう、重矩しげのり男)1681-1713³³ 出羽飽海郡吹浦大物忌神社の神官、国学、蔵岡大物忌神社と紛争;1704(宝永元)評定所の嶺境裁断;蔵岡を鳥海山表口別当とされる、1707邦実は吹浦を一宮とするため庄内藩に訴願;寺社奉行より公義御裁許破りの罪で出羽一国追放、[邦実(;名)の通称]曾大夫
- 1766 **国信女**(くにざねのむすめ・源、名;信子)?-1178 平安後期;藤原忠通の室、基実(六条摂政)の母、九条兼実日記「玉葉」8/22に記事入
国三郎(くにさぶろう・三宅)→ 重武(しげたけ・三宅みやけ/竹尾、神職) R 2 1 3 2
邦三郎(くにさぶろう・岡崎)→ 敬喜(たかよし・岡崎おかざき、代官/歌人) W 2 6 2 7
- 1767 **国成**(くにしげ/くになり・藤原ふじわら、則友男)?-? 母;伊予守藤原景舒女、平安中後期廷臣;因幡・美濃・丹波・美作守、蔵人/式部権大輔/正四上、詩歌、1032大井川の歌会の序者/50後冷泉天皇に冬至の賀の表、1051侍臣詩合参加、中右記部類紙背詩集・和漢兼作・新撰朗詠・本朝統文粹入、新統古772(権中納言経家作とあるが後冷泉院根合には式部大輔国成作とある)
- C1776 **国繁**(くにしげ・横瀬よせ/由良、横瀬貞国男/本姓小野)?-1488? 上野新田庄の武将/領主新田氏家臣、執事/新田家純の命により金山城築城防衛/晩年は新田庄内由良に隠居、連歌:兼載と千句、新菟句波3句入、1472以前に心敬・宗祇等「何木百韻」参加の宗悦と同一説あり、[国繁の通称/法名]通称;新六郎/雅楽介たのすけ/信濃守、法名;宗悦、業繁なりしげの父
参照 → 宗悦(そうえつ、室町期越中の連歌師) G 2 5 2 6
- C1777 **国重**(初世くにしげ・歌川うたがわ、通称;源蔵)1777-1835⁵⁹ 絵師;初世歌川豊国門、1817改号;国重、1817(文化14)「福德三助妬心話」画
[国重の初号] 歌川喜舞
- C1778 **国重**(3世くにしげ・歌川、姓;山本)?-? 江後期絵師;3世豊国門?、風俗画/開化画、1852「茶番今様風流」49-50「東海道五十三次柳樽」画
- B1789 **国繁**(初世くにしげ・歌川うたがわ)?-? 江後期絵師;3世豊国[国貞]門、1814鳥作「春廿三夜待」画
- E1756 **邦維**(くにしげ・宮西みやにし/本姓;藤原、宇治部)1838-? 江後期江戸の神職;日枝神社(山王社)禰宜、神道・国学;平田鍊胤門/国学・歌;井上頼国門/神道・国学;樹下じゅげ資秀門、宮西家は肥後国阿蘇神社の西住の一族/のち江戸日枝神社の代々禰宜、[邦維(;名)の初名/字/通称]初名;邦恵、字;拝豪、通称;頼母、惟助の父
- C1779 **邦成**(くにしげ・伊達だて、別名;鞆負/慶邦、岩出川領主義監男)1841-1904⁶⁴ 伊達邦実の養嗣子、家督;陸前互理領主、戊辰戦後宗家仙台藩の帰順に尽力/北海道移民開拓;伊達村建設、歌;「雪百首」「万延二年正月より十二月迄屋形様より被仰付歌出詠」著、[邦成の通称/号]通称;藤五郎/安房、号;培達園主人
国重(くにしげ・長崎/梅丸斎/滝川)→ 重春(しげはる・柳斎/梅丸斎/滝川・烽山/山口、絵師) C 2 1 8 6
- 1768 **国島**(くにしま・息長真人おきながのまひと)?-? 755常陸部領防人使さきもりがことりづかい大目さかん、進歌27首/万葉廿邦子(くにじよ・日尾) → 邦子(くにこ・日尾ひお、花月園、歌人) 1 7 6 4
国女(くにじよ・松平) → 国(くに・松平まつだいら、藩主室/歌人) E 1 7 5 2
国次郎(くにじろう・山田) → 国綱(2世くにつな・歌川、2世国輝/絵師) B 1 7 5 6
邦次郎(くにじろう・稲葉) → 幾通(ちかみち・稲葉いなば、藩主/日記) B 2 8 8 7
- C1711 **国輔**(くにすけ・源、基国男)?-? 平安期廷臣;中務丞/従五下、頼資よりすけの孫、歌人;1096権大納言家忠家歌合参加;9番左雪
[をしほやま雪ふりつみてすみがまのけぶりばかりぞしるしみえける](家忠歌合)
- B1751 **邦輔**(くにすけ・藤原、成方男/敦頼甥)?-? 平安後期廷臣;皇后宮権大進/正五下、歌;1170住吉社歌合講師、72広田社歌合参、成輔しげすけの父
- 1707 **国助**(くにすけ・津守つり、幼名亀鶴、国平男)1242-99⁵⁸ 母;大友親秀女、神職/廷臣;亀山院上北面、1285住吉社49代神主/90撰津守/正四下、笛筆策・歌;1263住吉社歌合/玉津島社歌合参加、1292蔵島社頭和歌参加、「松葉集」撰(散佚)、「井蛙抄」に逸話)、閑月集/続門葉集入集、

勅撰80首;続拾遺(4首232/673/871/1335)新後撰(17首)玉葉(242)続千(21首)以下、
兄弟;棟国/宣平、国冬・国道・日野俊光室・藤原為世室(二条為躬母)の父
[今よりのつゆをば露と荻の葉に涙かつちる秋風ぞ吹く](続拾遺;秋232、
入道二品親王の家に五十首歌詠み侍る)

- B1752 邦祐(くにすけ・鴨かも、河合社禰宜祐棟男)?-? 鎌倉末期神職;安房守/五位、
歌人;1325月並歌合「飛月集」参、新千載1667
[聞くことをいとひてもまたなれにけり六十の春のうぐひすの声](新千載;十六1667)、
[いつまでも心ひとつに頼むらんあふも命もしらぬかぎりを](飛月集;詠三首24)
- B1753 九二助(くにすけ・奈河ながわ)? - ? 1789-1818頃大阪歌舞伎作者;初世奈河七五三助門、
浄瑠璃狂言の復演や改作物を手掛ける、1786京の都万太夫座付、1797「敵討千手護太刀」、
1801「梅楓浪花妓」04「一陽扇勝鬨」06「いろは歌誉桜花」17「朝桜隅田川八景」外多数
- E1721 国輔(くにすけ・櫻さくら、初名;徳操/通称;原はら三郎)1843-67自刃25 武蔵入間郡の豪農の生、
儒者;日尾荊山・塩谷岩陰門、勤王志士;尊攘運動/鹿児島藩江戸藩邸で浪士隊参謀、
藩邸が幕府軍に焼討;帰郷中に川越藩兵に包囲され自刃
国介(くにすけ・伊藤) → 弘風(ひろかぜ・伊藤いとう、国学者) F 3 7 7 0
国助(くにすけ・宇井) → 可道(よしみち・宇井うい、庄屋/歌/民俗学) L 4 7 7 0
国祐(くにすけ・松浦/橋) → 星洲(せいしゅう・松浦まつうら、星占家) B 2 4 9 9
- 1709 邦輔親王(くにすけしんのう・法号;後安養院、貞敦親王男)1513-6351 母;藤香子(三条実香女)、
1533二品/式部卿、伏見宮七代、歌人;「瑤玉集」に詠草、1539「筑後国高良法楽30首」参、
「邦輔親王御詠」「邦輔親王御詠草」「伏見宮家百首和歌」「後安養院御歌」、1560「日言抄」
- 1769 国助女(くにすけのむすめ・津守つもり、日野俊光室)?-? 鎌倉期歌人、母;中原資行女、津守集入、続現葉入、
勅撰6首;新後撰816/続千載248/668/1239続後拾遺1149新千載146
[むむれ木のさてやくちなむ名取河あらはれぬべき瀬瀬は過ぎにき](新後撰;恋816)
- 1770 国助女(くにすけのむすめ・津守つもり、藤原為世室)?-? 鎌倉期歌人、為躬母、俊光室と混同されやすい
国廉(くにすけ) → 国廉(くにかど・津守、神職/歌人) 1 7 6 2
国蔵(くにぞう・水) → 道篤(みちあつ・水もとり、歌人) I 4 1 0 0
- C1780 邦隆(くにたか・土佐とさ、隆親男or経隆)?-? 鎌倉期絵師;豊前守/画所預/従五下、
「法然上人行状画図」著
- 1771 国貴(くにたか・津守つもり、法名;宗純、国夏男)1340-140061 南北期神職;1353住吉社権神主、
従五上左近将監、歌:13-65南朝内裏三百六十首に参加、「新後拾遺集」撰集連署、津守集入、
新後拾3首540/589/1111、新葉2首600/1216、 兄弟;国量(くにかず・国実(くにざね・量夏(かずなつ、
[今朝はなほまだ霜がれと見ゆるまで初雪うすき浅茅生の庭](新後拾;冬540)
- C1781 国隆(くにたか・福島くしま、初姓;遠山/北条、初名;信景のぶかげ)1633-8654 実父は水戸藩士、
北条流軍学;北条氏長[正房]門、氏長の養子;北条家所縁の福島くしまを称す、
1657江戸明暦大火後幕命で氏長と江戸図作成、70幕臣;小普請/77大番、
1685貝・太鼓の作法を貝太鼓役に相伝;以後福島くしま家は北条流軍学で仕える、
1653「土鑑別法」57「土鑑用法直解」、「足軽百箇条」「易城全書」「武功三百箇条」著、
[国隆の通称/法名]通称;伝兵衛、法名;紹勝、法号;国英院
- B1764 国隆(くにたか・朝岡/浅岡あさおか/本姓;藤原、通称;鍋之助/新七郎)1692-176473 幕臣;
1709部屋住、1727(享保12)家督継嗣;300表/御小姓組番、歌;広通「霞関集」入、
[長き夜もこの頃しるき手枕に聞きならせとや荻をぎのうはかぜ](霞関;秋384/夜荻)
- C1782 邦孝(くにたか・新井あらい、通称;源太郎/法号;勇哲、明卿男)1720-7556 幕臣、故実家、
1762家督;63大番、1762致仕、
「皆具邦貞問答」「新伊問答」「襯鞆履背(しんせんしょうはい)問答」「本朝軍器考翼」著
- E1700 邦孝(邦孝(くにたか・池上いけがみ、)1786-185570 信濃高遠の商家、町年寄、国学者
[邦孝(;)名]の通称/号]通称;本右衛門、号;竜水/対山亭
- E1761 邦孝(くにたか・和田わだ、)1809- 184466 遠江周智郡の酒造業、国学者/歌人、
国学;内山真竜門/歌;栗田土満門、
[邦孝(;)名]の通称/号]通称;佐太夫、号;大嶺/鯉昇
- C1783 国孝(くにたか・歌川うたがわ、通称;喜之助)?-? 江末期1854-68頃絵師;3世歌川豊国門、

1862-67「蘇防染桜模様」63「梅春霞引始」「百姓往来注釈」著、
1863「伊達関戯場取組」65「口上茶番指南車」著、
[国孝の別号] 一玉斎/一柳斎/柳蝶斎

- E1735 **邦敬**(くにたか/くによし・土屋つちや、)1831-1878 48 美濃武儀郡上之保村の農業;庄屋/郡中惣代、
農業改良、国学/歌、
[邦敬(;)名)の通称/号]通称;米三郎/兵十郎、号;有隣/双山/苔石
邦孚(くにたか・伊達) → 蕙園(けいえん・伊達、儒者/詩人) F 1 8 3 1
邦高(くにたか・翠釜亭) → 翠釜亭(すいふてい、絵師) 2 3 8 4
- 1772 **邦高親王**(くにたかしのう、初名;邦康、法名;惠空/法号;安養院、貞常親王男)1456-1532 77 伏見宮5代、
母;庭田重有女、二品式部卿;1516出家、歌;雅親門、三条西実隆と親交、家集「邦高親王集」、
1487宗祇の伊勢物語講義を聴く、1503三六番歌合参加、「瑤玉集」に詠草、
「安養院御詠」「邦高親王懐紙御詠草」「邦高親王三十首和歌」、「真如堂縁起」書、
「伏見宮家五十首和歌」、連歌;百韻多数/新菟19句、
[鷺のみる川辺の白洲末遠み入日をおくる水の涼しさ](三十六番歌合;水辺納涼18番右)
- B1790 **国滝**(くにたき・歌川) ? - ? 絵師;2世国貞門、1844-81「雪梅芳譚犬の草紙」国綱と画
- D1793 **邦彪**(くにたけ・阿保あほ、/中川)1834-95 62 飛騨大野郡高山の国学者;富田礼彦門、絵師;南画、
「四時山水」「幽禽枯木」画、
[邦彪(;)名)の通称/号]通称;林助、号;春林(画号)/旭園/按山/小国/帰鳥園
- C1784 **邦武**(くにたけ・久米くめ、幼名;泰次郎、邦郷男)1839-1931 長寿 93歳 佐賀藩士/藩校修学;
大隈重信と同僚、昌平黌に修学、史家、維新後岩倉具視の欧米視察随行、
「書画落款式」編/「特命全権大使米欧回覧実記」編、
[邦武の通称/号]通称;丈一郎、号;易堂、法号;宏文院
- 1773 **国忠**(くにただ・源みなもと、国房男?)?-? 平安後期廷臣;諸陵助/歌人、
金葉集Ⅱ655Ⅲ647(志賀島を見て;為助[・平]の句への付句)
[弓張の月のいるにもおどろかで](金葉655付句)
(為助「つれなく立てるしかの島かな」)
参照 → 為助(ためすけ・平?、官人/詩人) S 2 6 4 5
- E1724 **国忠**(くにただ・芝しば/本姓;源、初名;広主?)?-? 24 江後期;播磨飾磨郡広嶺神社祠官、
国学・歌学;藤井高尚(かなお(1764-1840)門
国忠(くにただ・佐久間) → 象山(しょうざん・佐久間さくま、藩士/兵学) S 2 2 5 4
- C1785 **邦忠親王**(くにただしのう・伏見宮、法号;円定明院、貞建親王男)1731-59 早世 29 母;秋子内親王;
実は家女;岡本氏、1742桜町天皇猶子/上野太守/1755(宝暦5)兵部卿/59一品、
「邦忠親王懐紙詠草」「邦忠親王御記」著、
「邦忠親王御詠草」「阿古丸(幼名)懐紙御詠草」著
- D1786 **邦達**(くにたつ・久保田くぼた)? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[うつそみの世の塵にしも交らねば月も山辺やすみよかるらん](大江戸倭歌;秋861)
- C1786 **国種**(くにたね・歌川うたがわ)? - ? 江後期絵師;3世歌川豊国[国貞]門、役者絵/人情本挿画、
1830年代「春色廓の鶯」、「当世操文庫」画
- C1787 **国民**(くにたみ・安富やすとみ、別名;均?)-1880 阿波の国学者・1865京の学習院講師、
嘉彰親王の侍読、「国史略訓蒙」「苔岑小稿」
- 1774 **国足**(くにたり・高橋) ? - ? 万葉集中人物、卷十七3926左注
邦足(くにたり・津軽) → 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1
- E1759 **国足**(くにたる・結城ゆうき、通称;平左衛門)1800-88 89 陸奥会津藩士、国学者/歌人;沢田名垂(なり門)、
戊辰戦争後;1874盛岡に斗南藩(会津松平藩の再興)成立;藩士として北海道に入植、
歌人;1855多田清興[当世百仙]入
- B1754 **国太郎**(初世くにたろう・沢村さわむら、屋号;三笠屋、俳名;其答きとう、長四郎男?)?-? 歌舞伎役者/俳人、
1773父追善俳書編、1782蕪村「花鳥篇」2句入、1805自笑「寿関寺小町」の芸(役者一滴入)、
[片袖は脱いでかたげよ山桜](花鳥篇;75其答/京花見では小袖を新調/破らぬよう担ぐ)
国太郎(くにたろう・渡辺) → 慎(しん・渡辺/尾形、和算・測量家) N 2 2 2 1

- 国太良(くにたろう・近藤) → 古遼(ふるみち・近藤こんどう、神職・国学) I 3 8 2 6
 邦太郎(くにたろう・細貝) → 栗園(りつえん・細貝ほそがい、国学者) B 4 9 6 1
 邦太郎(くにたろう・渡辺) → 隼雄(はやお・渡辺わたなべ、神職/国学者) K 3 6 9 9
 九日庵(くにちあん/ここのかあん) → 后雛丸(のちのひなまる、狂歌師) 3 5 6 5
- C1788 国親(くにちか・大中臣おおなかとみ、親経男)?-? 平安末期神職、連歌、菟玖波入
 D1787 邦親(くにちか・近藤こんどう/本姓;藤原)?-? 江後期;歌人、幕臣?、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [とはるべきすみかならねば日数へて積るまなる庭の白雪]、
 (大江戸倭歌;冬1273閑中雪)
- B1755 国周(くにちか・豊原とよはら、姓;荒川/大島、大島おしま九十男)1835-1900⁶⁶ 絵師;豊原周信門、
 江戸京橋住/羽子板の下絵、1848歌川豊国(3世)門/役者絵・合巻挿絵、狂歌、
 1857「義仲勇戦録」58「頼朝青雲録」、60「報讐信太森」、66有人「花暦封じ文」「白縫譚」画外多数、
 [豊原国周(;号)の通称/別号]通称;荒川八十八、
 別号;歌川国周/華蝶楼/花蝶楼/一鶯斎/豊春楼/一桃/一ぼゝ斎愚にちか
 国親(くにちか・藤原) → 国能(くによし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 1 7 3 4
- B1791 国次(くにつぐ・歌川うたがわ、姓;中川なかがわ、名;幸蔵)1800-61⁶² 江戸銀座の絵師;初世歌川豊国門、
 1812三孝「書習廓文章」/「娘節用」/「玉藻前雲井檜扇」/13「恋渡木曾棧」、
 [歌川国次の別号] 一応斎
- C1789 国綱(くにつな・宇都宮、幼名弥三郎、城主広綱男/本姓藤原)1568-1607⁴⁰ 母;佐竹義重女、
 下野の武将、宇都宮城主;家督/秀吉の臣;小田原攻戦功/1597検地の詐称発覚;配流、
 征韓の功、秀吉の死により流浪、1598「宇都宮高麗帰陣物語」著、
 [国綱の通称] 三郎左衛門
- E1755 邦綱(くにつな・水沢みずさわ、隆恵たかよし男)1791-1824³⁴ 備中倉敷の商家;井筒屋9代目、
 歌人;小川布淑のぶよし門、妻;並河美子、常太郎定穀さだよしの父
 [邦綱(;名)の通称/屋号]通称;伊左衛門(代々の称)、屋号;井筒屋
 [井筒屋] 殷満(7代)一隆恵たかよし一邦綱一定穀さだよし一定興一弘毅
- C1790 国維(くにつな・鮎沢あゆさわ、高橋諸往男、鮎沢正行の養子)1824-68⁴⁵ 常陸水戸藩士/弘道館舎長、
 勘定奉行、国事に奔走/安政大獄に連座/帰藩;弘道館で戦死、「再来記行」著、
 [国維の字/通称/号]字;廉夫、通称;重太郎/伊太夫、号;千魚/不愧ぶき
- C1791 国綱(初世くにつな・歌川うたがわ、別号;一蘭斎)?-? 江後期1854-68頃絵師;初世歌川豊国門合巻挿絵、
 1847-55「御賛美少年始」58-62「全盛玉菊譚」59「御狂言楽屋本説」60「花摘籠五十三駄」、
 1861「桜荘子后日物語」「伊達競阿国歌舞妓」、65「傀儡師筆の操」67「加賀見山故郷錦絵」
- B1756 国綱(2世くにつな・歌川うたがわ、姓;山田、通称;国次郎)1830-74⁴⁵ 幕末期絵師;3世歌川豊国門、
 開化絵、1844-81「雪梅芳譚犬の草紙」(国滝と画)/65「嫗山姥」65-66「水鏡山鳥奇譚」、
 1866「仮名手本忠臣蔵」「花御所九重日記」/67「当裏梅魁香達引」「東海道風景図会」、
 [2世歌川国綱の別号] 一雄斎/一曜斎/2世歌川国輝(くにてる)、法号;円垂道信士
- 1775 国経(くにつね・藤原ふじわら、号;八条、長良男/母;難波淵子)828-908⁸¹ 平安前期廷臣;882参議、
 894従三位/大宰帥として新羅侵攻防衛/権中納言;兵杖を賜/902大納言/903正三位、
 弟基経(叔父摂政良房の養嗣)に比し不遇、甥の時平に愛妻を奪われた(今昔物語)、
 歌;882日本紀竟宴和歌出詠2首/秋風集・夫木抄入、古今638、続古1247、
 弟妹;基経/高経/清経/高子(陽成天皇の母)、息;滋幹・忠幹
- E1717 邦経(くにつね・後藤ごとう、)1733-1809⁷⁷ 大和郡山藩士、国学者、
 [邦経(;名)の通称/号]通称;善兵衛、号;文雅
- E1731 国彝(くにつね・竜[龍]たつ、世華つぐあき男)1799-1835⁴⁷ 近江彦根藩儒;父を嗣、歌:[近江歌人伝・亀]入、
 [国彝(;名)の通称]通称;亥太郎、竜公美きんえ(草廬)の孫
 国経(くにつね、誤記・津守、続後撰・続拾・新千入歌人) → 経国(つねくに・津守) C 2 9 0 3
- C1792 国鶴(初世くにつる・歌川うたがわ、姓;和田/通称;安五郎)1807-78⁷² 江戸築地の絵師;2世豊国門、
 一時大阪住、幕末は横浜住/維新後東京で絵草紙屋経営、役者絵、「絵本美人大原女」、
 [初世歌川国鶴の別号] 2世歌川豊重とよしげ/一寿斎、法号;顕道芳鶴信士
- C1793 国華(くにてる・桂川かつらがわ、幼名;竹松/字;敦豪、邦教男)1697-1781⁸⁵ 母;中村宗硯知安女、

甲斐府中(甲府)生、桂川家2世/1735幕府奥医師/法眼、薬品製造、73致仕、
1752「仙鼎方」、「秘蔵錦繡方」著、
[国華の通称/号]通称;甫三/甫筑、号;元英/古林翁、法号;泰荀日新

- B1798 **国輝**(初世くにてゝ・歌川うたがわ、姓;太田/通称;金次郎)?-? 江後期絵師;初世歌川国貞門、
1806「江戸嬉笑」32-42金水「沉魚伝ちんぎょでん」画/38-41「梅の春」39-68「児雷也豪傑譚40-」、
1843-53「教訓乳母草紙」44-62「善悪道中記」51「浅間嶽面影草紙」55「容色仙代萩」外多数、
[初世国輝の別号] 歌川貞重/五蝶亭/新貞亭/独醉舎/一雄斎/雄斎/東花園
- C1794 **国光**(くにてゝ・歌川うたがわ) ? - ? 幕末期1851-67頃絵師;初世歌川国満くにもつ門、
柳下亭種員たねかずの合巻「仮名反古一休草紙」7・8編の画
- E1744 **邦照**(邦輝くにてゝ・服部はつとり、通称;清八郎) 1827-1900 74 薩摩鹿児島藩士、国学者、
1866(慶応2)坂本龍馬亀山社中のワイル・ウェブ号の五島遭難事件の立会に赴く、長崎住、
維新後;東京住
- C1795 **邦光**(くにてゝ・新田につた、初名;寛三郎、竹沢たけざわ斐章男) 1829-1902 74 阿波美馬郡脇町生/徳島藩士、
儒・国学・神道:神儒習合論/尊王を主唱、軍学/武芸、諸国遊歴後1848江戸藩邸住、
岩倉具視に招聘;有栖川宮熾仁親王に神典を進講/神祇官御用掛/1869致仕、
1873神儒習合の神道修成派結成、「説教扣本」「回天策用行録報国」著
邦光(くにてゝ・青木) → 青城(せいじょう・青木あおき、儒者) C 2 4 2 7
国輝(2世くにてゝ・歌川) → 国綱(2世くにつな・歌川、絵師) B 1 7 5 6
国光(くにてゝ・藤原) → 国光(くにもつ/くにてゝ・藤原、廷臣/歌人) D 1 7 2 2
国光(くにてゝ・歌川) → 国満(初世くにもつ・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 2 4
- 1776 **国任**(くにとう・津守つもし) ? - ? 鎌倉期神職/廷臣;五位蔵人、笙・和琴・歌、
1303成立「新後撰集」1192(読人しらず、津守集は国任作)、
[よしさらば恨みははてし数ならぬ身のとがにこそ思ひなすとも](新後撰;十六恋1192)
- 1777 **国時**(くにとき・北条ほうじょう/塩田、北条義政or時国男/本姓;平)?-1333 自害 武将;五位陸奥・駿河守、
鎌倉幕府引付頭人/新田義貞に敗北;北条高時と鎌倉東勝寺で自害、歌人;将軍家歌会参加、
玉葉;3首1322/1465/2463、
[あふとみるその面影の身にそはば夢路をのみやなほ頼むべき](玉葉;恋1322、
式部卿親王家にて詠)
- B1757 **国訓**(くにとき/くにり・桂川かつらがわ、幼名;小吉/字;栄修、国華くにてゝ男) 1730-83 54 江戸築の生、
桂川家3世、1760幕府奥医師/66法眼、蘭方外科医、書/詩歌を嗜む、
1762「秘笈仙鼎方」編/69「和蘭集玉」、「仙鼎方薬名語訳」「家方秘笈仙鼎方」著、
国瑞(くにあきら・甫周)・森島中良(森羅万象)の父、
[国訓の通称/号]通称;甫謙/甫三/甫筑、号;釣月/湖月楼
- C1796 **国俊**(くにとし・吉田よしだ、国房男/本姓藤原) 1308-? 1358 存 南北期廷臣;蔵人頭/右京大夫、
1343(康永2)参議/1348権中納言/従三位/50致仕/58出家、詩;1343五四番詩歌参(6首入)
- B1792 **国利**(くにとし・歌川) ? - ? 幕末期の絵師:
1844-81仙果「雪梅芳譚犬の草紙」画;3世豊国らと
国俊(くにとし・風雅入) → 国信(くにざね) 1 7 6 5
邦年(くにとし・大江) → 有邦(ありくに・大江おおえ、医者;種痘/歌) H 1 0 2 0
邦俊(くにとし・左右田) → 易重(やすしげ・左右田そりだ、兵法家) B 4 5 6 7
- B1793 **国富**(初世くにとみ・歌川うたがわ、別号;花川亭/歌川富信)?-? 江後期1818-30頃絵師;2世豊国門、
役者絵、1816「春色恋廻染分解」/30「庭訓塵劫記」画
- C1797 **国富**(2世くにとみ・歌川うたがわ、通称;磯吉)?-? 江後期江戸京橋の煙草商/絵師;3世歌川豊国門、
1860-65「春色恋廻染分解」画
- C1798 **国具**(くにとも・奥村おくむら、通称;三介/号;舒雲じゆん)?-? 江戸中期和泉堺の和算家、
1750「算法演段拾遺」著
- D1775 **国備**(くにとも・杉浦すぎうら) ? - ? 江中期神職;遠江浜松の諏訪神社神職、
歌;賀茂真淵門、本居大平「八十浦の玉」入、杉浦国頭くにあきらの一族、
[雁とともに立ちかへるともみ吉野の里にあひぬる春は忘れじ]、
(八十浦;上16/1758[宝暦8]真淵家宴)

- 国倫(くにとも・平賀) → 源内(げんない・平賀ひらが、儒/本草/戯作) 1 8 2 8
 国倫(くにとも・津島) → 恒之進(つねのしん・津島、本草学) C 2 9 9 7
 国友(くにとも・山本) → 重軌(じゅうき・山本、鉄砲鍛冶/俳人) H 2 1 0 5
- 1778 国豊(くにとも・津守つり、国秀男) 1399-1444 46 室町期神職; 1414住吉社56代神主/撰津守/従四下、
 歌: 新続古1781、後西集外歌仙入、 国博(くにひろ)の父、
 [さしのぼるかこの湊の夕塩に松原こして千鳥鳴くなり](新続古; 雑1781)
- C1799 国豊(くにとも・日野西ひのし、初名; 庸[康]光、広橋兼賢男) 1653-1710 58 左衛門権佐日野西光氏養子、
 光氏の実子説もある、江戸前期廷臣; 1704権中納言/06正二位、
 1675「叡山大会略次第」89「参議拝賀要記」/90-10「日野西国豊日記」著、
 [国豊の一字名] 一字名; 善/谷、 法号; 恭安院
- E1725 国豊(くにとも・芝山しばやま/本姓; 藤原、勸修寺経逸2男) 1781-1821 41 京の廷臣; 芝山持豊の養嗣子、
 非参議/正三位/宮内大輔、国学者/家学の歌道に精通
- B1763 国虎(初世くにとら・歌川うたがわ、姓; 前田、通称; 久米蔵/繁蔵) ?-? 安政1854-60頃没 江後期絵師;
 初世歌川豊国門、遠近法利用の風景画、書に通ず、
 1824「恋相撲四十八手」28「恋修行春廻曙」34「国性谷合戦」画、
 1836「取合三組盃」「花蔭賤之俳優」40「百人一首稚講積初編」、「絵本国性爺合戦」画、
 [初世国虎の別号] 一竜斎
- E1743 邦直(くになお・橋本はしもと、号; 東亭) 1770-1848 79 撰津武庫郡の歌人
- 1779 国直(初世くになお・歌川うたがわ、姓; 吉川きつかわ/通称; 鯛蔵) 1795?-1854 60 信濃生/江戸で浮世絵師、
 画: 189頃初世歌川豊国門、合巻・読本・人情本の挿絵; 三馬の作品の画、絵本、
 1809-13「浮世風呂」11-23「浮世床」14-48「人心視機関からくり」、18「伊勢名物通神風」、
 1821「傾城盛衰記」32「大山道中膝栗毛」37「狂歌正流英名集」45「滑稽水掛論」外画多数、
 [初世国直の別号] 浮世庵・柳烟楼・柳烟亭・柳煙舎・一楊斎・独酔舎・後素園・写楽斎・
 十洲国直
- D1700 邦直(くになお・加藤かとう、通称; 甚内) ?-? 江後期1844-54頃武州の歌人、1849「鶴百首」
- D1799 邦直(くになお・枝窪えだくぼ/本姓; 藤原、) 1828-95 68 武蔵入間郡の三輪神社祠官、
 国学; 平田鉄胤・井上頼国門、秩父郡我野村諏訪大神神主、
 [邦直(名)の別名/通称/号] 別名; 音繁/茲見いけん/元平、通称; 太郎麿、号; 賢木園/琵琶園
- 邦直(くになお・黒田) → 東園(とうえん・黒田、儒者/詩) B 3 1 5 1
 邦直(くになお・西尾) → 武陵(ぶりよう・西尾にしお、酒造業/俳人) E 3 8 6 1
 国仲(くになか・源) → 師光(もろみつ・源みなもと、廷臣/詩歌人) H 4 4 9 6
- 1780 国長(くになが・祝部はふりべ、資長男) ?-? 鎌倉期1278-88頃神職; 日吉社禰宜/正四下、
 歌人; 「日吉社千首歌」勸進、現葉集入、勅撰4首; 続拾遺1450/新後撰751・1253/新千1005
- 1781 邦長(くになが・源みなもと、兼康男) ?-? 鎌倉後期廷臣; 従四上右馬助、親長の弟、
 1304父より譲渡の古今集を藤原為家筆本で批校、歌人、和漢兼作・閑月続現葉集入集、
 1275家経「撰政家月十首歌合」参加(弟親長と)、
 勅撰18首; 新後撰(3首488/661/1499)玉(2145)続千(5首)続後拾(3首)風(2011)以下、
 [長月や月影きよし十日あまりくもらぬみよの秋のしるしに](月十首; 七番/十三夜晴)
- 1782 国永(くになが・北畠はたけやま、別名; 国範(くにのり)、親治男/本姓源) 1507-? 1584 存 戦国期伊勢の国司、
 歌: 家集「年代和歌抄」著
- D1701 国条(くになが・津守つり、国輝男) 1717-63 47 江中期神職; 住吉社神主/1763(宝暦13)従三位; 没、
 歌; 1762「住吉浅沢沼歌集」著
- D1702 国長(くになが・甘露寺かんろじ、篤長男/本姓藤原) 1771-1837 67 廷臣; 1805参議/14権大納言、
 故実家; 即位伝奏として天明大火で焼失の御所の故実資料を諸所から集積;
 1817仁孝天皇の即位に当る、1824従一位、
 「国長卿記」1801「賀茂奏事始記」03「踏歌節会申沙汰記」13「賀茂伝奏記」、
 「豊明節会備忘」「新嘗祭当日備忘」「四方拜元日節会雑記」外著多数
- D1703 国長(くになが・歌川うたがわ、通称; 梅干之助(ほのすけ) ?-1827 江後期江戸の絵師; 初世歌川豊国門、
 三田・新橋住、切組絵/挿画、遊芸/音曲、1801「句ひ囊」/06「敵討旭霜解」「睦月笑顔短歌」、
 1807「怪談梅草紙」「敵討奥州千貫橋」/09「反讎恋友猿」12「恋女房讎討雙六」外多数、

[国長の別号] 一雲齋、法号;清順

- D1704 **邦良親王**(くにながしんのう、後二条天皇皇子) 1300-26**早世**27 平安末鎌倉期、
妻は崇明門院祿子(後宇多天皇皇女/新千載集歌人)、家の女房に歌人新兵衛督あり、
邦省くになが親王・寿成門院じゅじょうもんいんの兄/瑯子内親王ちやうしなしいんのうと兄弟
- 1783 **邦永親王**(くにながしんのう、法号;得解脱院、貞致親王男) 1676-1726**51** 伏見宮14代、1683靈元天皇猶子、
1695中務卿、歌/楽曲/能書、「浜御殿詩歌」、「瑤玉和歌集」編、「六義園十二境並八景和歌」
邦良親王家新兵衛督(くにながしんのうけのしんひょうえのかみ・女房名)
→ 新兵衛督(しんひょうえのかみ、鎌期歌人) 2 2 7 3
- 1784 **国夏**(くになつ・津守つり、国冬男) 1289-1353**65** 母;津守有房女、鎌倉末期神職/後宇多院北面、
1328住吉社52代神主/29撰津守/52南朝後村上天皇住吉行幸で正三位、歌人、
続後拾遺集撰進連署、「古今和歌灌頂部」著、1350為世十三回忌和歌参加、
息子;国量くにかず・国貴くにかた・国実くにかね・量夏かずなつ、
勅撰30首;続千載(4首449/694/1061/1735)続拾(01/491/940)風(2首)新千(7首)以下、
新葉8首;185/244/350/429/801/964/1012/1315
[天つ風雲吹きとづなをとめ子が袖振る山の秋の月影](続千載;秋449)
- D1705 **郷成**(くになり・佐野さの、通称;清六/甚衛門) 1653-1720**68** 常陸水戸の国学者:1696彰考館入、
「塵土鈔」、1704「新補水城実録」、「不問語」「御系図大全」著、
「水府系纂総目録」「続日本王代一覧」編
国成(くになり・藤原) → 国成(くにしげ・藤原、詩人) 1 7 6 7
邦之丞(くにのじょう・成島) → 東岳(とうがく・成島なるしま、幕臣/儒者/歌) C 3 1 2 0
邦之助(くにのすけ・近藤) → 忠質(ただかた・松平まつだいら、幕臣/歌人) P 2 6 3 4
邦之助(くにのすけ・成島) → 東岳(とうがく・成島なるしま、幕臣/儒者/歌) C 3 1 2 0
邦之助(邦之輔/邦之丞くにのすけ・豊原) → 正安(まさやす・河本/川本、医者詩文) I 4 0 1 4
邦之助(くにのすけ・三宅) → 重武(しげたけ・三宅みやけ/竹尾、神職) R 2 1 3 2
国之助(くにのすけ・鳥居) → 忠孝(ただひら・鳥居とりい、藩主/歌) U 2 6 1 9
- D1706 **国信**(くにのぶ・武田たけだ、幼名;彦太郎、信繁男/本姓源) 1442-90**49** 武将/若狭・安芸の守護、
治部少輔/大膳大夫、1462京畿土一揆鎮圧のため兄信賢と出陣/応仁乱には東軍;武功、
1471家督相続/74出家、歌:正広・雅親・宗祇・兼載と親交、横川・希世らの五山僧と交流、
「鉤安養寺三十首」入、「翰林要録」、連歌;新菟玖波集11句入、
[国信の号] 功林/王華院、 信栄・信賢の弟、信親・元信の父
- B1758 **国信**(初世くにのぶ・歌川うたがわ、姓;金子)?-? 江戸湯島の絵師、幕臣;御小人目付、
絵師;初世歌川豊国門、1815「田舎講釈」16「大蛇之物語」画、31一九合巻「金草鞋」第21編画、
自画作草双紙、1816「女曾我兄弟鏡」18「錦島恋釣舟」22「浮世学者御伽噺」23「榎なごの二葉」、
1824「歌三味線東引船」28「風薫葛の裏葉」30「熊王昔物語」31「時雨傘菊の井小七」外多数、
[歌川国信の通称/別号]通称;弥四郎/惣太郎、
別号;一陽齋/一礼齋/陽岳舎/堰埭楼えんたいろう/志満山人/八方庵
- D1798 **邦信**(くにのぶ・大内おうち、通称;陸奥掾)?-? 江後期伊予松山の平田阿沼神社祠官、
歌人;飛鳥井雅光(1782-1851)門
国信(くにのぶ・源) → 国信(くにざね・源、歌人) 1 7 1 9
国宣(くにのぶ・広橋) → 貞光(さだみつ・広橋/藤原、廷臣/記録) J 2 0 8 0
邦信(くにのぶ・狩野) → 祐清(ゆうせい・狩野;中橋家14世、絵師) C 4 6 9 9
邦信(くにのぶ・鈴木) → 久亮(ひさすけ・鈴木すずき、商家/歌人) J 3 7 9 5
- 1785 **邦房親王**(くにのぶしんのう、法号;桂昌院、邦輔親王男:実は貞清親王男) 1566-1621**56** 兄貞康の養嗣子、
正親町天皇猶子/伏見宮九代、1575親王宣下/二品/中務卿/式部卿、歌人;「瑤玉集」に詠草、
「邦房親王御詠歌」「邦房親王御詠草」「邦房親王三十首和歌」、連歌;1614昌琢紹巴と百韻、
[いさめても犬より劣る人ならば見ざる聞かざる言はざるがよい](古今夷曲集入)
国信女(くにのぶのむすめ・源) → 国信女(くにざねのむすめ・源、歌人) D 1 7 6 9
- D1707 **国教**(くにのり・津守つり、国治男) 1662-1730**69** 江前中期神職;住吉社神主/1728従三位、
歌人:1683「住吉太神宮年中行事」
- B1759 **邦教**(くにのり・笹屋ささや) ? - ? 江後期日本橋の縫箔屋主人、

絵画研究;1800「浮世絵類考」編

- E1739 **国徳**(くにのり・檜原ならはら、)? - 1806 江中期;筑前小倉藩士;京留守居役、歌人;日野資枝付き(1737-1801)門、
[国徳(;)名)の初名/字/通称/号]初名;安本、字;有隣、通称;伸左衛門、号;博久斎
- E1711 **邦矩**(くにのり・川喜田かきた/旧姓;長谷川) 1794-1827³⁴ 伊勢津の商家の川喜田敏則の養子、
国学;本居春庭・富樫広蔭門、養嗣子;村木成章なりあき、
[邦矩(;)名)の通称] 平次郎/四郎兵衛(養父家の称)
- E1704 **邦教**(くにのり・市川いちかわ/本姓;藤原) 1808-85⁷⁸ 上総市原郡の飯香岡八幡神社祠官/歌人、
[邦教(;)名)の通称/号]通称;山城守/一学、号;伊静廼舎
- D1708 **国規**(くにのり・前田まゐだ、通称;孫六/式部、矩正男) 1817-71 金沢藩士、1836/67「前田式部系図帳」
- E1701 **邦則**(くにのり・池村いけむら、久兵衛邦行3男) 1835-1917⁸³ 京麴屋町御地下ル中白山町の染物業;
屋号伊勢屋、のち信濃飯田和久町に移住;染物の取次/官服の販売、
1862松尾多勢子の紹介で平田鉄胤門;国学を修学、帰郷し尊皇活動に尽力/京に没、
[邦則(;)名)の幼名/通称/号]幼名;幸次郎、通称;久兵衛、号;小菅/伊勢屋・伊勢久
国章(くにのり・藤原) → 国章(くにあき・藤原、平安期歌人) 1 7 1 6
国訓(くにのり・桂川) → 国訓(くにとき・桂川/3世、蘭医) B 1 7 5 7
国範(くにのり・北畠) → 国永(くになが・北畠はたけやま、歌人) 1 7 8 2
邦教(くにのり・片山) → 寸長(すんちよう・片山/菅原、藩士/俳人) D 2 3 5 5
- D1709 **国柱**(くにはしら・白尾しらお/本姓藤原、本田親昌男) 1762-1821⁶⁰ 鹿児島生/白尾国倫養嗣;薩摩藩士、
1792藩命で藩内諸陵巡見/1804藩命で「成形図説」編纂;記録奉行/物頭、国学;宣長に私淑、
国学・歌;塙保己一・村田春海門、漢学;伏原宣条門、「白尾国柱家集」/1792「神代山陵記」著、
「楠子伝辨議」著/1795「寛藩名勝記」1812「倭文麻環」15「庭作題言」/「西遊記聞庭作伝」著、
「日向古墳備考」「出水児請図説」「島津氏系譜」「襲峰一覧」「栗野磨欲踊」著、
[国柱の別号/通称/号]別号;親白/親麿、通称;助之進/斎蔵、号;鼓川/鼓泉/瑞楓(ずいふう)
九二八(くにはら・遅塚) → 速叟(そくそう・遅塚ちづか、藩儒) F 2 5 1 9
- E1734 **国治**(くにはる・津守つり、旧姓;三宅) 1639-77³⁹ 摂津住吉神社神職の津守家を嗣ぐ;津守家66代、
住吉大社宮司、歌人;中院通村門、住吉大社奉納歌現存、通称;亀今丸
邦治(くにはる) → 後二条天皇(ごにじょうてんのう、持明院統/歌) D 1 9 4 8
国春(くにはる・佐々木) → 中沢(ちゅうさく・佐々木、蘭医者) G 2 8 6 2
- E1754 **郷彦**(くにひこ・三浦みづら/本姓;源、) 1635?-1708^{74?} 近江彦根藩医、歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、
三上郷喜(くによし(藩医/歌人)の父、
[郷彦(;)名)の初名/通称]初名;白成、通称;甲斎/全庵
- D1710 **邑彦**(くにひこ・松木まつき、幼名;新太郎/通称;左門、常彦男/本姓;度会) 1709-44³⁶ 伊勢外宮神官、
正五下、1738「名護屋表御礼之次第」、「寛延遷宮日次」著
- D1778 **国彦**(くにひこ・澄川すみかわ) ? - ? 江後期石見三隅村の国学者;本居大平門、
大平撰「八十浦の玉」下巻入、
[うるはしき御歌思へばますますに尊きろかも高津の宮は](八十浦;977/古京)
- B1760 **園彦**(くにひこ・高橋たかはし) ? - ? 江後期国学;平田篤胤門、
1819篤胤「神字日文伝」校正
- D1711 **国彦**(くにひこ・酒井さかい、通称;甚五右衛門/号;藪冬庵(かんどうあん) 1792-1860⁶⁹ 秋田藩士/勘定奉行、
俳人;秋山御風門/大阪の松井三津人みつんど門、「大露集」著
- D1784 **邦彦**(くにひこ・小高おだか) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[咲くとても人にとはれぬ宿なれば花の頃さへしづけかりけり]、
(大江戸倭歌;春270/閑居花)
- E1720 **国彦**(くにひこ・佐藤さとう、) 1828 - 1911⁸⁴ 豊前宇佐郡に国学者、
[国彦(;)名)の初名/号]初名;則哲、号;足村
邦彦(くにひこ・梁田) → 蛻巖(ぜいがん・梁田やなど、儒者/詩) 2 4 0 6
邦彦(くにひこ・柴野) → 栗山(りつざん・柴野/柴、幕府儒官/異学の禁) 4 9 0 3
邦彦(くにひこ・岡田) → 南涯(なんがい・岡田、儒者/講説) I 3 2 6 7

- 邦彦(くにひこ・高橋) → 梅岳(ばいがく・海野うんの、絵師) 3 6 8 6
 邦彦(くにひこ・松井) → 蝸庵(かあん・松井まつい、儒者) H 1 5 1 1
 邦彦(くにひこ・上街) → 伯英(はくえい・上街うえまち、儒者/詩) C 3 6 6 4
 邦彦(くにひこ・青木) → 周弼(周祐しゅうすけ・青木あおき、蘭医) H 2 1 8 2
 邦彦(くにひこ・青木) → 研蔵(謙造けんぞう・青木、藩士/医者) K 1 8 7 3
 邦彦(くにひこ・原) → 良樹(よしき・原はら、国学者/歌人) O 4 7 6 5
 国彦(くにひこ・大神) → 磯夫(いそお・葦津あしづ/大神おおが、藩士) J 1 1 8 2
- 1786 国久(くにひさ・津守つり・国量男) 1358-9740 住吉権神主、1381新後拾遺集撰集連署執事、
 新後拾遺(3首358/631/1258)、新葉2首337/1155、
 [吹きわくる木このまもしるし秋風につれて出でぬる山の端の月](新後拾;秋358)
- D1712 邦古(くにひさ・樋口ひぐち、別名;国章/号;万山、又右衛門男)?-? 江後期名護屋文筆、好古よふるの弟、
 1772刊「女誠」
- D1713 国久(2世くにひさ・歌川うたがわ、姓;勝田、通称;久太郎、3世歌川豊国養子) 1832-9160 絵師;3世豊国門、
 1853-56「松浦船水棹婦言」56「義経功軍記」「八幡太郎智勇譚」/57「悪源太猛勇物語」、
 [2世歌川国久の別号]一陽斎/一雲斎/立蝶楼、法号;久豊院、妻;豊国女、豊宣・国峯の父
- D1714 国英(くにひで・歌川うたがわ、別号;一峰斎/一法斎)?-? 江後期1818-54頃絵師:豊国門、「夢見草」
- D1794 国秀(くにひで・角南すなみ、通称;泰之助) 1828-? 江後期;美作勝田郡飯岡村の歌人、
 歌;1858平賀元義の楯の舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- E1708 邦秀(くにひで・奥村おくむら/本姓;橋、帯刀男) 1835-190571 信濃飯田の国学者・歌人、
 岩崎長世・平田鉄胤・海上胤平門、樋口光信と交流/飯田近郷の尊皇派の中心、
 維新後;飯田郵便局長/郊戸神社祠官、飯田戸長、煎茶道;淇水号、
 [邦秀(;名)の別名/字/通称/号]別名;吉住、字;保太郎、通称;貢蔵/吉左衛門/収蔵、
 号;燕巢/淇水(;茶人号)
- 国英(くにひで・北小路) → 俊包(としかね・北小路きたのこうじ、廷臣/日記) M 3 1 2 9
 国秀(国秀くにひで→くにほ・生田) → 万(よろう・生田いくた、藩士/国学者) 4 7 4 2
 珍秀(珍秀くにひで・三善) → 珍秀(珍秀たかひで・三善、歌人) D 2 6 5 9
- 1787 国人(くにひと・馬史うまのふひと/馬毗登うまびと・765武生連たけふのむらじ)?-? 河内の伎人郷くれのさとの人、
 738頃少初位下(正倉院文書入)/764外従五下/765賜姓、
 756聖武光明后の河内離宮難波宮行幸のとき国人宅で宴、万葉四期歌人;4458
 [にほ鳥の息長川おきなながはは絶えぬとも君に語らむ言こと尽きめやも](万葉;廿4458)
- 1788 国人(くにひと・丹比真人たじひのみと/多治比)?-? 奈良期廷臣:736従五下/民部少輔/大宰少弐、
 755右大弁/撰津大夫/757遠江守/従四下、奈良暦の変に連座:伊豆配流、
 万葉四期歌;4首382(筑波山の長歌)/383/1557/4446
 [明日香川行き廻みる岡の秋萩は今日降る雨に散りか過ぎなむ](万葉:八1557豊浦寺)
- 1709 国人(くにひと・丹比部たじひべ)?- ? 奈良期;755防人/相模足下郡あしがらのしものこおり上丁、
 万葉廿4329
 [八十国やそくには難波に集ひ船飾り我がせむ日ろを見も人もがも](万葉防人歌4329)
 (出航準備の飾付けをする私の姿を故郷の人に見せたい)
- 邦仁(くにひと) → 後嵯峨天皇(ごさがてんのう、歌人) C 1 9 6 1
 邦寿(くにひさ・桐) → 友壽(ともよし・桐ゆずりは、神職/国学) W 3 1 8 9
 国姫(くにひめ・松平) → 国(くに・松平まつだいら、藩主室/歌人) E 1 7 5 2
- 1789 国平(くにひら・津守つり、経国男) 1208-8578 鎌倉期神職;1228住吉社47代神主/50撰津守/従四下、
 母;藤原範良女、筆策/和琴、歌;定家・隆祐と親交、1276住吉社三十五番歌合参加、雲葉集入、
 勅撰15首;続後撰(554)続古(225)続拾(2首)新後撰(3首)続千(3首)続後拾(589)以下、
 [我が君を松のちとせと祈るかな世々につもりの神のみやつこ](続後撰;554、
 本社にての詠)、
 国助/宣平のぶひら/棟国むねくにの父
- 1790 国博(くにひろ・津守つり、国豊男) 1421-44早世24 室町期神職;1428住吉社57代神主/33従四上、
 歌;賀茂本「津守集」編?、新続古今1645、国昭くにあきの父、
 [吹かぬまも日数うつろふ花なれば風より跡に散りやそふらん](新続古;雑1645)

- B1799 **国弘**(くにひろ・飯川いかわ、通称;山城守)?-? 室町幕臣;奉行申次、1536実隆:「再昌草」入
- D1715 **国広**(くにひろ・観世、本姓;檜垣本/似我じが、観世四郎太夫国忠男)?-1580?(70余歳) 能楽師;太鼓、観世大夫6世元広の女婿、大和猿楽観世座太鼓方の芸祖/室町末期太鼓技法の集成者、細川幽斎・織田信長の知遇を得、門弟への伝書多数、祖父は大和猿楽小鼓方の与五郎吉久、1569「似我与左衛門国広太鼓伝書」、「能秘伝書」「四座之役者目録」著、[国広の通称] 与五郎/与左衛門
- 国寛(くにひろ・大貫おおぬき)→ 杜哉(とさい・大貫、俳人) L 3 1 7 8
- 邦広夫人(くにひろふじん・松前)→ 梅好子(ばいこうし・松前まつまえ/土橋、藩主室/歌) K 3 6 8 2
- 1720 **国房**(くにふさ・藤原ふじわら、範光男)?-1084?(;勅撰作者部類) 平安後期廷臣;従五下石見守、1077(承保4)病で出家、歌人;藤原道雅八条山荘歌会参加・橘俊綱伏見邸歌会参加、1056頭中将顕房歌合参加、「和歌故実書」編纂(散佚)、袋草紙;八条山荘での[秋の野に]の詠歌が経衡に皮肉られ皆に笑われた逸話入、勅撰7首;後拾遺(5首408/660/722/782/1038)千載(1207)新古今(670)、後葉・続詞花集入、[いかばかり降る雪なれば息長鳥しながどり猪名なな柴山道まどふらん]、(後拾;冬408/息長鳥はかいつぶり;居並び泳ぐので[猪名]の枕詞)
- D1716 **国房**(初世くにふさ・歌川うたがわ、通称;鶴吉/多三郎)?-? 江後期1804-30頃絵師:初世歌川豊国門、役者絵/合巻挿画、1810「艶姿一對男」「艶姿娘島田」「相生百人一首姫鏡」/13「上絃筑紫勲」邦房親王(くにふさしんのう)→ 邦房親王(くにのぶしんのう、伏見宮9代) 1 7 8 5
- 1791 **国藤**(くにふじ・津守つむり、棟国男)?-? 鎌倉後期-南北期の神職;新陽明門院判官代、従五上/伊豆守、笙・歌、勅撰2首;続千載1875/続後拾遺1347、津守集入 [あらましに身をなぐさめてすぐせとや行末知らぬならひなるらん](続千;雑1875)
- 1721 **国冬**(くにふゆ・津守つむり、国助男)1270-132051 母;法印定忠女、神職;後宇多院上北面、1299住吉社50代神主/1312撰津守/従四上、国夏の父、猶子;国道、歌:新後撰・続千載集の撰集連署、1303嘉元百首/15為世[花十首寄書]/19文保百首参加、「国冬祈雨きり百首」「津守国冬朝臣和歌」著、津守集/藤葉入、勅撰56首:新後撰(5首314/362/606;隠名/822/893)玉(926)続千(10首)続後拾(7首)以下、[都より尋ねて聞けばをぐら山にしこそ秋と鹿も鳴くなれ]、(新後撰;秋314/百首歌;鹿/津守集31)、[文保百首歌の時、さきにけり生駒の山の桜花雲をいとひし人に見せばや](藤葉;春49)
- 邦古(くにふる・樋口) → 邦古(くにひさ・樋口ひぐち、国学/文筆家) D 1 7 1 2
- 国秀(くにひさ・生田) → 万(よろう・生田いた、藩士/国学/救民) 4 7 4 2
- B1762 **邦正**(くにまさ・源みなもと、重明親王男、通称;青侍従/青常)?-? 母;貞信公藤原忠平女、平安中期廷臣、従四下/侍従/左京大夫、顔色が青いので青常と称された(今昔物語・宇治拾遺入)、歌;拾遺集634、姉妹に徽子女王、[いかでかは知らせそむべき人知れず思ふ心の色に出でずは](拾遺;恋634、侍従のころ女に初めて贈る歌/表情に出なければあなたに打明けるきっかけがない)、(今昔物語に青侍従として登場する、侍従は緋色の袍を着る)
- 1792 **国政**(初世くにまさ・歌川うたがわ、姓;佐藤/通称;甚助/別号:一寿斎)1773-181038 岩代会津の紺屋業、江戸で絵師;初世歌川豊国門、浮世絵/役者絵・大首絵、のち役者似顔仮面制作販売、1797「廓通遊子」99「傾城買二筋道後篇廓の癖」「役者三十二相」1800「白狐通」画
- E1719 **国昌**(くにまさ・近藤こんどう、)1791-186878 讃岐鶴足郡の国学者、[国昌(;名)の通称/号]通称;勢平/信之助/伸之助、号;苔石
- B1794 **国政**(4世くにまさ・歌川うたがわ)?-? 浮世絵師、1844-81「雪梅芳譚犬の草紙」画
- D1718 **邦雅**(くにまさ・木藤きとう、号;南望亭)?-? 江後期武蔵入間郡坂戸の歌人: 国学・歌学;高井宣風(1743-1832)門、1864「南の窓」著
- E1712 **国均**(くにまさ・木下きのした、通称;初太郎、慶吉[国成]男)1804-8683 肥後玉名郡伊倉の惣庄屋、祖は左馬之介清国(同田貫どうたぬきの名鍛冶)、父は1803(享和3)苗字帯刀を許可;木下姓、国均は中富・南関・坂下手永の惣庄屋を務める/国学修学、長野藩平しゅんべいを郷学師に招聘、息女的那智に婿養子助之(儒者木下鞆村の弟)を迎え大規模な鉄炮の製作を開始、

助之と共に子弟教育に尽力、助之は1870唐津藩に招聘され藩政改革に尽力；家督嗣、
維新後に助之は政界に入りしのち農地改良事業、その子弥八郎も政府に奉職し農業政策、
国均の曾孫(弥八郎男)に劇作家木下順二がいる、
国均は「弥八郎日記」(1828－85[文政11-明治18])著、
助之は「助之日記」(1848-90[嘉永元-明治23])著

- E1713 **国雅**(くにまさ・北村きたむら、) 1832-1903 72 加賀鳳至郡の国学/歌人；千種有功門
[国雅(；名)の初名/字/通称/号]初名；裕、字；君綽、通称；愛三郎、号；省窩/三省窩
- D1797 **邦昌**(くにまさ・有馬ありま、通称；小膳) 1835-89 55 筑後久留米の国学者
邦正(くにまさ・深町) → 十蔵(じゅうぞう・深町ふかまち、藩士/槍術) X 2 1 9 2
国政(3世くにまさ・歌川) → 国貞(2世くにさだ・歌川・4世豊国/絵師) B 1 7 5 0
国升(くにます・歌川) → 貞升(初世さだます・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 3
- 1793 **国丸**(くにまる・歌川うたがわ、姓；前田、通称；文治) 1793-1829 37 江戸小田原町質屋の生？、
or武州川越の生？、浮世絵師；初世歌川豊国門、肉筆は美人画、合巻挿画、
1809「花鳥風月仇討話」挿画/13「愛敬紺屋娘」/15合巻「橘鳥囀かけすのさえずり」挿画、
1830「昔々歌舞妓物語」初日の挿画/外画多数、
[歌川国丸の別号] 一円斎/五彩楼/軽雲亭/彩霞楼/翻蝶庵、伊勢屋伊八？
国丸(くにまる・混沌軒) → 貞右(ていゆう・玉雲斎、雄崎/尼弥、商家/狂歌) 3 0 0 2
- 1722 **国満**(くにまる・杉浦すぎうら、初姓；渡辺、別名；立円) 1715-66 52 遠州浜松の国学者、
叔父浜松諏訪神社神主杉浦国頭の養嗣子、1740家督継嗣；諏訪神社大祝おほふり職、
国学；京の荷田春満門/帰郷後・賀茂真淵門、
「国満歌集」「国満日記」「日本紀劄記」「尽敬会講談」著、
[国満の通称/号]通称；国香/大学/阿波守、神号；和照靈神
- D1789 **邦満**(くにまる・江馬えま) ? - ? 江後期；歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かた糸のくるたびごとに一ふしの言葉のあやに思ひみだるる](大江戸倭歌；恋1625)
- B1795 **国麿**(初世くにまる・歌川うたがわ、姓；菊越/通称；菊太郎) ?-? 幕末期絵師；3世歌川豊国門、
のち4世豊国門、風俗画、1841春水「春色湊の花」画/47-55「忠義教誠赤松譚」画、
48-52「英雄五大力」52「笑寿集」53-61「佐野渡雪の八橋」画、「幾夜廻遊女」「湊の月」外多数、
[歌川国麿の別号] 歌川房広/一円斎/橘蝶楼/菊翁/松蝶楼/磨丸
国麿(くにまる・千家) → 尊澄(たかずみ・千家せんげ、神職/国学者) C 2 6 9 2
- 1794 **邦省親王**(くにみしんのう・号；花町宮、後二条天皇皇子) 1302-75 74 母；藤原棟親女、中御門経継に養育、
1321大宰帥/兵部卿/式部卿/弾正尹かみ、二条派歌人；二条派を後援、邦良くになが親王の弟、
寿成門院じゅじょうもんいん・瑤子内親王ちやうしなしいんのうと兄弟、歌；1330「北野宝前夏五十首」を召す、
「三百三十首」、藤葉とうよう集5首入、
勅撰38首；続千載(102/384/1158)続後拾遺(925/1175)風(3首)以下、
[かづらきやたかまのかすみたちこめてよそにもみえぬ花の色かな](続千；春下102)、
[須摩の浦やしほくむあまの袖にのみよなよなやどる月の影かな](藤葉；秋252)
邦省親王家少将(くにみしんのうけのしょうしょう) → 少将(しょうしょう・邦省親王家女房/歌人) N 2 1 6 6
- D1720 **国道**(くにちら・大伴おとも、継人男) 768-828 61 奈良期廷臣；武蔵守、785藤原種継暗殺に連座、
806赦免、「天台仏法流布吾国事」著、伴とも善男よしの父
- 1795 **国通**(くにちら・藤原ふじわら、法名；覚源、泰通男) 1176-1259 84 母；高倉院女房新中納言(藤原教長女)、
鎌倉期廷臣；1218参議/25権中納言/従二位、32出家、歌；1203影供歌合参加、新勅撰778
- 1796 **国道**(くにちら・津守つり、国助男) 1277-1328 52 兄国冬の猶子/神職；1320住吉社神主/22撰津守、
1325従四上/歌；新後撰・続千載・続後拾遺集の撰集連署、「藤川百首詠」、津守集/続現葉入、
勅撰24首；新後撰(972)玉(1935)続千(6首)続後拾(5首)新千(6首)新拾(1431)以下、藤葉入、
[いつはりを頼むにこそはなりもせめまたずといかが人にきかれん](新後撰；恋972)
- D1721 **邦教**(くにちら・桂川かつらがわ、初名；報教、森島正俊男) 1661-1747 87 医家桂川家の祖、
母；外島庄九郎女、大和山辺郡嘉幡の人/上京；蘭方外科；嵐山甫安門、
1673師に随従し平戸・長崎遊学、オランダ人の医者に修学/帰郷後師の命で桂川に改姓、
1696幕府寄合医師/奥医師/1734法眼、

「繕生室医話」編/「阿蘭陀一葉効能」著、国華くにてるの父、

[邦教の字/通称/号]字;友之、通称;甫筑/甫竹、号;興藪、法号;泰哲日賢

E1737 邦道(くにみち・富島とみしま、)1750-180556 備後尾道の商家;天満屋、歌人;澄月・慈延大愚門、
[邦道(;)名]の通称/号]通称;治兵衛(;)世襲名)、号;柏斎/範夢、屋号;天満屋

D1781 邦行(くにみち/くにゆき・田村たむら、宗頭むねあき4男)1820-5738歳 父;陸奥一関6代藩主、
母;側室慧明院(鈴木縫)、1835元服;改名;頭允、1840兄7代藩主邦頭没;家督嗣;改名行頭、
一関藩8代藩主、従五下/右京大夫、1841(天保12)再改名;邦行(;)みち、
藩校教成館再興/医学慎成館創設/西洋式軍隊・砲術を導入/農政改革実施、名君と称さる、
1842正妻の睦(大山藩主成瀬正寿女/永貞院)と結婚、息子通頭が継嗣、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、

[さらぬだに惜しみもあへず入る月の影なへだちそ峰のうき雲](大江戸倭歌;秋854)

[邦行(;)名]の幼名/別名/通称/号]幼名;棗之丞(いのじょう/-すけ、頭允あきちか(初名)/行頭みちあき、
通称;/右京大夫、号;桂庵

E1722 国道(くにみち・清水しみず、通称;文太)1838-191275 近江坂田郡の古物商、国学・歌;[鳩のうみ]入

B1766 邦道親王(くにみちしんのう、法号;後桂昌院、貞清親王男)1641-54夭逝14 伏見宮12代、兄邦尚親王の嗣、
1645後水尾天皇猶子、49親王宣下;三品/大宰帥、歌;瑤曲集に詠草/「邦道親王御詠草」著

D1722 国光(くにみつ/くにてる・藤原、在衡[892-970]男)?-? 平安前期廷臣:943対策及第/944式部丞、
950従五下右少弁/954従五上/権右中弁・大学頭兼任、957文章博士/959式部権大輔、
963従四下権左中弁/966近江介/968従四上近江守/正四下治部卿、
歌人:960(天徳4)内裏歌合/966(康保3)内裏前裁合参加、
按察御息所あざちのみやすどころ(按察更衣)・藤原博古はくこの兄弟姉妹、
[月影のいたらぬ庭もこよひこそさやけかりけり花の白露](前裁歌合10、
康保三年八月十五夜大盤所にての前裁歌合)

1797 国光(くにみつ・津守つむり、保[康]基男)?-? 平安後期神職、越中権守、1168外従五位下、
歌;津守集入、千載685、
[日をへつゝしげさはまさる思ひ草逢ふ言の葉のなどかなからむ](千載;恋685、
繁っているのに「逢ふ」という言の葉はなぜないのか)

D1723 国光(くにみつ・広橋、兼秀男/本姓藤原)1527or8-6842/41 戦国期廷臣;1547参議/54権大納言、
正二位、氏院別当/敷奏、贈内大臣、1549「天文十八年正月五日叙位簿」著

D1724 国満(初世くにみつ・歌川うたがわ、通称;熊蔵)?-? 江後期1801-30頃浮世絵師:初世歌川豊国門、
役者絵/美人画、1809「面鏡仇討志絵」/10「腕雕一心命」/「復讐今川状」/「男作三箇羅太鼓」、
1811「河州大森塚」12「七変人縁色糸」13「戻駕籠故郷錦絵」14「人面樹鼻の親玉」外多数、
[国満の別号](初号;)歌川国光くにてる、一翁斎

E1709 邦光(くにみつ・奥村おくむら/本姓;橘、邦秀男)1855-191864 信濃飯田の歌人;父門、
国学者・歌;平田鉄胤・海上胤平門、口與平・近藤貞三・桃沢茂春と交流/晩年;郊戸神社祠官
[邦秀(;)名]の通称/号]通称;保太郎/収蔵、号;天籟

邦光(くにみつ・新田) → 邦光(くにてる・新田、神道) C 1 7 9 5

邦光(くにみつ・世木) → 會北(そぼく・世木/秦、俳人) E 2 5 3 4

邦光(くにみつ・但馬/田結莊) → 千里(ちさと・田結莊たゆいのしょう/但馬、蘭学/砲術) B 2 8 9 6

邦光(くにみつ/くにてる・青木) → 青城(せいじょう・青木あおき、儒者) C 2 4 2 7

国光(くにみつ・歌川) → 国光(くにてる・歌川、絵師) C 1 7 9 4

1798 国村(くにむら・加茂かも・高橋、別号;秋香庵2世)?-? 江後期1804-18頃武州俳人:巢兆門、
1817「會波可理」編

国村(くにむら・伊達) → 重村(いげむら・伊達だて、藩主/歌人) D 2 1 1 2

1730 国用(くにもち・藤原ふじむら、国茂?、季方すえかた男)?- 988 平安中期廷臣;正五下陸奥守、
歌人;清原元輔・源重之・藤原実方と交流;各々の家集に入、
「仲文集」第二部入;本院侍従・藤原知光らと贈答歌;「国用集」の混入したものか、
勅撰1首;拾遺1226、娘も歌人 → 国用女(くにもちのむすめ・藤原) 1 7 9 9
[宮作る飛驒の匠たくみの手斧音とおのとほとほとしかるめをも見し哉](拾遺;雑恋1226、
平貞盛と結婚していた女の許に国用が密かに通っていた時に貞盛がやって来たので、

女は慌てて男を塗籠に隠し後ろの戸から逃がす、その翌朝国用が贈る歌、落語的滑稽さ、
ほとほとしは手斧の音トントンと大層危ない目を掛る)

邦茂王(くにもちおう・伏見宮)→ 惟実(これざね・安藤あんどう、詩歌人) O 1 9 3 6

- 1799 国用女(くにもちのむすめ・藤原ふじわら)?-? 平安中期歌人、陸奥守藤原国用女、
藤原知光ともみつと恋愛;拾遺915、
[影絶えておぼつかなさのます鏡見ずは我が身の憂さも知られじ](拾遺;恋915、
知光が自分の許を去ってのち愛の形見の鏡を返却し思い出を断ち切ろうとする歌)
- 1761 邦基(くにもと・藤原ふじわら、良世男)875-93258 平安前期廷臣;921(延喜21)参議/930中納言、
歌;921醍醐御時内裏菊合参加
[菊の花ちとせみまくのほしければをしみし夜のあるもしらず](内裏菊合)
- 1710 国基(国元くにもと・津守つり、神主の基辰or信国男)1023or26-110280or77 母;津守頼信女、
神職;1060(康平3)住吉社39代神主、69従五下/白河天皇と親密、箏の名手、歌道津守家の祖、
歌人;「津守国基集」、1063公基歌合参加、通宗気多宮歌合/1091宗通歌合/親子草子合参加、
津守歌集の筆頭、後葉集(1首249)・続詞花集7首入、連歌;菟玖波入、
勅撰20首;後拾遺(71/409/987)金葉(74/358/592)詞(177/375)新古(569)続古(1410)以下、
「薄墨にかく玉章と見ゆるかな霞める空に帰る雁がね」(後拾;春上71);
のち[薄墨の神主]と綽名される、
[国基の通称] 藤井戸の神主/薄墨の神主(;綽名) 、有基・景基の父
- D1725 国幹(くにもと・野上のがみ、字;允礼)1744-8542 備後玉浦生/安藝広島白鳥社神職、京の園基村に出仕、
詩歌、1770「敏鎌」、「大日本古義」著、
[国幹の通称/号]通称;雄風丸/蔵人、号;蔣江
- D1726 邦基(くにもと・紀き、号;驥園)?- ? 江後期;文政1818-30頃尾張の漢学者、
1826「班馬異同略」編(;宋の倪思「班馬異同」の略本)、
- D1727 国幹(くにもと・桂川かつらがわ、幼名達次郎、国寧くによす男)1839-9052 桂川家8世、国興くにおきの弟、
兄刊行の蘭日辞書「和蘭字彙」出版を支援/1867開成所の蘭学・化学教授方、63「元素通表」、
「化学入門」「化学紀事」「化学問答」著(化学の語を用いた最初)、1867「朗西文典字類」編、
[国幹の字/通称/号]字;和春、通称;甫策、号;淳斎
邦基(くにもと・中西) → 忠蔵(ちゅうざう・中西ながにし/長崎、出版/歌) L 2 8 7 0
- D1728 都盛(くにもり・河辺かわべ、号;十松、長都ながくに男/本姓大中臣)1793-184957 伊勢大宮司/神祇大副、
1849従三位、「河辺家系図」編纂を指示、能楽/茶道、「四姓使座次先例調書」著、長量の養父
- B1767 国盛(2世くにもり・歌川うたがわ)?- ? 幕末期1830-61頃絵師;3世歌川豊国門、
1845「縁取ばなし」、47-63馬琴合巻「女郎花五色石台」/39-61笑顔合巻「児雷也豪傑譚」画、
[2世歌川国盛の別号] 胡蝶庵/胡蝶園/一宝斎/一竜斎/一麗斎/春暁斎
- D1729 邦泰(くによす・高階たかしな、邦仲[?-1289]男)?-? 鎌倉後期廷臣;備後守、
歌;1300高階宗成「遺塵和歌集」入集
- D1730 国靖(くによす・鶴沼うぬま/旧姓;大内、鶴沼家の養子)1755-182470 出羽亀田藩士/のち家老、
儒詩;大館釣雪・藍田亀年門、帰郷;藩校長善館学頭/郡奉行/家老職に至る、「楽山詩集」、
亀田藩校長善館学頭を務めた大内弘道の弟、
[国靖(;名)の字/通称/号]字;子恭、通称;助四郎、号;楽山
- B1700 国安(初世くによす・歌川うたがわ、通称;安次郎)1794-183239 絵師;初世歌川豊国門、合巻読本の錦絵、
1810美人画「雪月花」/30「熱海温泉図彙」、挿画;1811「五人揃紋日台寄」/25-35「傾城水滸伝」、
1829-48「大内興隆十杉伝」/29-32「風俗金魚伝」30-35「三国志画伝」31-47「新編金瓶梅」外多、
[初世歌川国安の別号] 一鳳斎/西川安信
- D1731 国寧(くによす・桂川かつらがわ、幼名;小吉/字;清遠、国宝くにとみ男)1797-184448 桂川家6世、江戸築地生、
漢学;葛西因是門、蘭医;大槻玄沢・宇田川玄真・坪井信道門、1826シ-ボルトと会う、
バタビア芸術科学協会入会/幕府奥医師、1809「海上備要方外傷門」編、22「酷烈辣考」著、
1822「酷烈辨」「山猫図説」40「寓目録」、「人面瘡図説」「剖散撮要」著、
国興くにおき・国幹くにもとの父、
[国寧の通称/号]通称;甫安/甫賢、号;翠藍/桂嶼/真桂/梅街/月池/Wilhelmus-Botanicus
- D1732 国安(2世くによす・歌川うたがわ、別号;一鳳斎)?-? 江後期1830-44頃浮世絵師;初世歌川豊国門、

1858「千葉群記」画

- D1733 **国安**(くにやす・渋谷しづや、通称;三之丞)1825-89⁶⁵ 薩摩鹿兒島藩士/歌;八田知紀・香川景恒門、1856文雄「摘英集」入、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[舟寄せて誰か見るらんみちのくのまがきが島の白菊の花](大江戸倭;秋959/海辺菊)、
[うつせみの此世は旅にあるものを終のすみ家と思ひけるかな](同;雑2001/無常)
- D1779 **邦靖**(くにやす・内田うちだ) ? - ? 江後・明治期;歌人、
1858蜂屋光世編「大江戸倭歌集」入/1878近藤芳樹撰「十五番歌合」参加、
1884「国民須行」著、
[あら磯のいはほをあらふ沖つ波くだけで涼し夏の夜の月](大江戸倭歌;546磯夏月)
- 邦康(くにやす) → 邦高親王(くにたかしんのう、歌人/連歌) 1 7 7 2
国保(くにやす・源) → 師光(もろみつ・源みなもと、廷臣/詩人) H 4 4 9 6
- 1723 **国行**(くにゆき・藤原ふじわら、号;竹田大夫、有親男/竹田種理養子)?-? 平安後期廷臣;諸陵頭従五下、
歌人;陸奥下向の折白河関で能因に敬意を払い衣服を改め鬢を水で整えた逸話(袋草紙)、
勅撰6首;後拾遺(5首260/403/506/527/975)金葉(Ⅱ310)、
[白妙の衣の袖を霜かとして払へば月の光なりけり](後拾遺;秋260)
- E1749 **邦之**(くにゆき・前嶋まえじま、)1678-1745⁶⁸ 近江彦根藩士;筋奉行/300石、
歌人;[彦根歌人伝・亀]入、前嶋文香ふみか(弥次右衛門/1691-1753)の一族、
[邦之(;名)の字/通称]字;文山、通称;弥次右衛門
- E1736 **邦行**(くにゆき・出口でぐち、通称;佐左衛門)?-1844 美濃岐阜の歌人;冷泉為全ためたけ(為則男)門
- E1702 **邦行**(くにゆき・池村いけむら)1805?- ? 京麴屋町御地下ル中白山町の染物業、
屋号;伊勢屋、国学/歌人;香川景樹門?、邦則(くにのり)(1835-1917)の父
国行(くにゆき・八居やつい三郎/源)→ 善源(ぜんげん;法諱、僧/歌人) F 2 4 3 2
邦之(くにゆき・成島) → 東岳(とうがく・成島なるしま、幕臣/儒者/歌) C 3 1 2 0
邦行(くにゆき・島津) → 久光(ひさみつ・島津、領主/藩政実権) C 3 7 0 1
邦行(くにゆき・田村) → 邦行(くにみち・田村たむら、藩主/歌)
- D1734 **国能**(くによし・藤原ふじわら、初名;国親くにちか、国資[1065-1126]男)?-? 母;家綱女、平安後期廷臣;
正五下/式部少輔/左衛門権佐、出家;西住と号す、
歌人;1134中宮亮顕輔家歌合参加(;前越後守)
[逢ふ事をいつともしらぬ我が恋やときはの山の谷の埋木](顕輔家歌合;九番左)
- E1753 **郷喜**(くによし・三上みかみ/本姓;源、三浦郷彦男)?-1716 近江彦根藩医;父を継嗣、
歌人;[彦根歌人伝・鶴]入、
[郷彦(;名)の初名/字/通称]初名;白全、字;春意、通称;甲斎(父の称)
- D1791 **一吉**(くによし・小野おの、勝豊男)1700-83⁸⁴ 母;張代氏の女、幕臣;大奥進物取次上番/表火付、
御徒目付/勘定に昇進、代官/勘定吟味役;1753神尾春央没後の勘定所の中心、旗本/左大夫、
大坂御用に功あり1762(宝暦12)勘定奉行;従五位下日向守、御益第一の幕府経済政策推進、
1771(明和8)大目付、西丸・本丸の簾奉行、御家人より旗本となり布衣を許可;
[下駄さげし手に末広の扇かな]の句を詠、出世談として喧伝される、
小野安藝守近義ちかのりの父
- E1742 **邦淑**(くによし・長谷川はせがわ、)1752-1817⁶⁶ 伊勢松坂の木綿商[丹波屋/豪商]6代目、
江戸大伝馬町に向店を新設し5店体制;資産は15万両、1775御為替組加入、経営に陰り、
1806(文化3)江戸店全焼;経営悪化、国学・歌;本居宣長門、
[邦淑(;名)の通称/号]通称;安之助/治郎兵衛/次郎兵衛、号;宗閑居士
- B1701 **国芳**(くによし・歌川うたがわ、姓;井草、通称;芳三郎/孫三郎、柳屋吉右衛門男)1797-1861⁶⁵ 江戸の人、
日本橋の紺屋?/浮世絵師;1811初世歌川豊国門、武者絵、猫の生態描写/洋風風景画、
1830錦絵シリーズ「通俗水滸伝豪傑百八人之一個」、30-48「大内興隆十杉伝」画、
天保改革諷刺「源頼光館土蜘蛛妖怪作図」で咎め、42-49「朧月猫草紙」/59-66「いろは文庫」画、
1859-67「比奈乃都大内譚」、「宮本武蔵と巨鯨」「其のまま地口猫好五十三匹」外多数、
[国芳の別号] 一勇斎/朝桜楼/採芳舎、隠号;一妙開芳程(程由)/由古野よじの、
戯作号;烏有散人/台西堂主人、歌川芳鳥女よとりじよの父
- B1768 **邦義**(くによし・中西、涼庵の叔父)?-? 博学/茶道、書画収集、光広「東海道紀行」を蔵

- D1735 **国福**(くによし・津守つり、国礼くにおや男) 1800-68⁶⁹ 神職;1822撰津住吉神社神主/41従三位/68正三位、歌;1847「有馬の秋」著、「墨江百五十番歌合」著、
[国福(;名)の通称]八十九丸
- D1736 **国美**(くによし・津守つり、国福くによし男) 1830-1901⁷² 神職;河内枚岡社宮司/1850住吉社神主/大宮司、歌学者;近衛忠熙門/画を嗜む、「神主代々家系抜書」「配当高井取米」著、
[国美(;名)の通称]八千丸/上野介/撰津守
- 国吉(くによし・木村) → 御綱(みつな・木村きむら、藩士/国学者) E 4 1 0 9
 国能(くによし・源) → 俊国(としくに・源みなもと、国信くにごね男、廷臣/歌) X 3 1 3 5
 邦美(くによし・梁田やなど) → 蛻巖(ぜいがん・梁田やなど、儒者) 2 4 0 6
 邦敬(くによし・土屋) → 邦敬(くにたか・土屋つちや、農業/庄屋) E 1 7 3 5
 国瑞(くによし・くにあきら・桂川) → 甫周(ほしゅう・桂川/4世、蘭医) E 3 9 2 2
 邦慶親王(くによししのう) → 興意親王(こういしのう、天台僧/連歌) H 1 9 3 1
 国芳女登里(くによしのむすめとり・歌川) → 芳鳥女(よしとりじよ・歌川うたがわ、絵師) F 4 7 1 2
- B1769 **邦世親王**(くによししのう、邦良くになが親王男) 1322-65⁴⁴ 母;花山院定教女、1357後光厳天皇猶子、1359兵部卿/式部卿三品、歌人、勅撰3首;新千載1861、新拾遺372・924、
[山里の秋にかこちしさびしさを都の月にながめわびつつ](新千;雑1861、
仁和寺に年久しく籠りのち都に移り住む秋に月をみて詠)
- D1737 **邦頼親王**(くによししのう、初名;徳明、貞建親王男) 1733-1802⁷⁰ 伏見宮、貞行親王の嗣、
桜町天皇猶子、1738勸修寺入/46得度/48東大寺別当/74伏見宮を嗣;還俗/一品、
1753「笛譜」著、歌人:「邦頼親王懐紙御詠草」「邦頼親王御詠草」著、
[邦頼親王の別称/法諱] 寛宝入道親王、法諱;寛宝、法号;究竟覚院
- 国若丸(くにわかまる・結城/松平) → 忠直(ただなお・松平、藩主/連歌) Q 2 6 2 1
 栩之舎主人(くぬぎのやしゅじん) → 義英(よしひで・三好みよし、国学者) G 4 7 4 2
 久根之介(くねのすけ・斎藤) → 定輝(さだてる・斎藤さいとう、藩士/農政家) I 2 0 7 1
 矩之丞(くのじょう/のりのじょう・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うつき、儒者) I 2 4 3 1
 愚白(ぐはく;法諱) → 雲山(うんざん;道号・愚白、曹洞僧) D 1 2 7 2
 瞿麦園(くばくえん) → 清香(きよか・今尾/奥河内、国学/歌) O 1 6 6 7
 瞿麦園(くばくえん) → 弘通(ひろみち・中西/春木、神職) H 3 7 3 3
 瞿麦園(くばくえん) → 久春(ひさはる・吉田よしだ、藩士/国学者) M 3 7 3 4
- D1780 **久波子**(くはこ・小倉おぐら) ? - ? 江中期旗本小倉式部正房(1703-1765)の妻、
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)夫と共に入集、
[漁り船いまやかへると磯に出でて待つ間も涼し夏の夜の月](大江戸倭歌;夏548)
- D1738 **九八郎**(くはちろう・植崎うえさき、名;政由、成田正之男/植崎政信養子) 1756-? 1802^存 旗本小普請組、
深川元木場油堀小松町住、田沼政治批判;1787「植崎九八郎上書」著、1801「賤策雑収」著、
「さつまいも」「朝鮮人参」「大公儀江書上記」「植崎九八郎封事」「植崎秘録」著
- 九八郎(くはちろう・有沢) → 永貞(ながさだ・有沢、軍学者) D 3 2 6 5
 九八郎(くはちろう・黒田) → 則恭(のりやす・黒田、藩士/和漢学) G 3 5 0 5
 九八郎(くはちろう・長井) → 定宗(さだむね・長井/夏目、藩士/兵法/儒官) G 2 0 2 1
 九八郎(くはちろう・奥平) → 昌男(まさお・奥平おくだいら/源、藩主/歌) L 4 0 7 5
 九八郎(くはちろう・青山) → 秀堅(ひでかた・青山あおやま、幕臣) C 3 7 9 6
 九八郎(くはちろう・本間) → 長兼(ながかね・本間ほんま/源、幕臣/歌) K 3 2 1 0
 九八郎(くはちろう・斎藤) → 実純(さねずみ・斎藤さいとう、藩士/国学者) K 2 0 8 7
 九八郎(くはちろう・島津/奥平) → 昌高(まさたか・奥平おくだいら/島津、藩主/蘭学) D 4 0 2 3
 九八郎(くはちろう・原/勝田) → 五岳(ごがく・勝田/原、藩士/儒者/医) L 1 9 9 2
 九八郎(くはちろう・市岡) → 経智(つねとも・市岡いちおか、代官/国学) F 2 9 2 8
 九八郎(くはちろう・上野) → 常朝(つねとも・上野うえの、藩士/国学/歌) F 2 9 3 0
 九八郎(くはちろう・佐藤) → 千秋(ちあき・佐藤さとう、国学/歌人) M 2 8 5 8
 九八郎(くはちろう・林田) → 守秋(もりあき・林田はやしだ、藩士/国学/歌) L 4 4 0 4
 九八郎(くはちろう・村尾) → 景美(かげよし・村尾むらお、国学者) V 1 5 9 0
- B1770 **九仏**(くぶつ) ? - ? 鎌倉期法師、十仏の父、祖は大和の坂三郎允角

- D1739 **句仏**(くぶつ・三谷みくに、名;慶輔、坦斎男)1794-1867 74 津軽藩御用研師/俳人;草坡門、
「岩木峯集」「合浦舎利用船」「亀の巻」「鶴之巻」著、
[句仏の別号] 天山一掬/析舎とちのや/水魚庵/樗山/卒土そとの浜風/浅葉庵/
水牛院/烏鷺うさぎの屋/三栄堂
- E1764 **求仏房**(ぐぶつぼう、号;理覚、澄憲[信西男]男)?-? 鎌倉期の真言僧;仁和寺に住、
法然没後の追善仏事に27日の導師、叔父明遍の臨終に善知識となり往生に不審に答う、
1193(建久4)後白河法皇没後一周忌千僧供養に百人の僧侶の頭として参加、
澄空の師
- B1702 **愚仏**(ぐぶつ・淤足斎おそくさい、姓;寺田でらだ、名;貞義)1798?-1828 31? 京一条通小川東の書肆、
詩/狂詩;中島棕隠門、1820「続太平楽府」編/22「鈍狗斎新篇」「太平新詠」/23「太平文集」、
1824「続太平文集」27「太平詩集」28「太平風雅」著、
[淤足斎愚仏の通称/別号]通称;大文字屋嘉平、
別号;鈍狗斎/愚仏山人/愚仏先生/猪飼五九郎/惟竹堂、法号;松巖貞義
- 愚仏(ぐぶつ・幸山) → 長遠(ながとお・幸山こうやま、医者/歌人) K 3 2 8 7
愚沸庵(ぐぶつあん) → 柳郊(りゅうこう・青木あおき、医者/俳人) D 4 9 8 2
- D1740 **丸平次**(くわいじ・津打つうつ/つうち、津山伝四郎)?-? 江前期歌舞伎役者/作者;初世治兵衛門、
1705「藍護栄花婿」1728「浦島七世孫」47「饗応女鉢木」著
久平治(くわいじ・平石) → 時光(ときみつ・平石ひらいし、藩士/暦算家) K 3 1 0 9
具平親王(ぐわいしんのう) → 具平親王(ともひらしんのう、諸芸/詩歌) Q 3 1 3 9
- B1771 **丸兵衛**(くわえ・杉すぎ) ? - ? 江前期1673-88頃歌舞伎役者;花車方の名人、
坂田藤十郎を指導/上方の元禄歌舞伎役者の手本、「舞台百ヶ条」著、耳塵集に逸話
- 丸兵衛(くわえ) 多く → 丸兵衛(きゅうべえ)
丸兵衛(丸平くわえ・奥山) → 榕斎(ようさい・奥山/糸井、藩士/儒者) 4 7 9 4
丸兵衛(くわえ・安井) → 一貞(かずさだ・安井やすい、国学者) W 1 5 0 3
丸兵衛治(くわえじ・古賀) → 遊五(ゆうご・古賀こが、庄屋/俳人) B 4 6 5 6
矩輔(くま・前波) → 黙軒(もくけん・前波/前場まえば、医者/歌) 4 4 7 7
矩甫(くま・武蔵) → 石寿(せきじゅ・武蔵むさし、幕臣/博物) K 2 4 1 5
矩豊(くま・山名) → 矩豊(のりとよ・山名やまな、幕臣寄合/歌) K 3 5 3 9
矩豊(くま・前田) → 矩豊(のりとよ・前田、藩士/奉行) F 3 5 2 7
矩方(くま・竹下) → 矩方(のりかた・竹下、藩士) E 3 5 4 2
矩方(くま・吉田) → 松陰(しょういん・吉田、藩士/教育) 2 1 6 7
棚峯(くま・岡) → 敬安(けいあん・岡おか、医者) F 1 8 2 2
具方(ぐま・北畠) → 材親(きちか・北畠、武将/文筆/連歌) L 1 6 2 3
具房(ぐま・久我) → 具房(ともふさ・久我こが、権大納言/歌) Q 3 1 4 9
具房(ぐま・田丸) → 常山(じょうざん・田丸たまる、軍記作者) S 2 2 5 8
求法上人(ぐまほうしょうにん) → 義空(ぎくう;法諱、天台僧) K 1 6 0 0
具房僧都(ぐまぼうそうず) → 実因(じついん;法諱、天台僧/歌人) E 2 1 7 5
窪俊満(くま俊満くぼしゅんまん・尚左堂、絵師) → 紫蘭(しらん・南陀伽、狂歌/戯作) 2 2 1 5
久本院(くほんいん) → 日啓(にちけい;法諱・慈雲、日蓮僧) B 3 3 4 9
- D1741 **久馬**(くま・佐藤さとう、名;長脩)?-? 江後期仙台暦算;武田司馬門/関流算学・天文、
1858「太陰出入時刻艸稿」「太陰出入時刻草稿」、「仙台所見推日食草稿」著
くま(・西川) → 与志子(よしこ・西川にしかわ、国学/歌人) O 4 7 3 3
熊右衛門(くまえもん・大塚) → 和厚(かずあつ・大塚おおつか、藩士/歌人) T 1 5 9 2
- E1757 **熊夫**(九万雄くまお・森もり、)1783-? 紀伊牟婁郡の医者、国学;本居大平門、
歌;香川景樹門、大坂住、妻;貞子(?-1846)、矢野佐倉太夫の師、
[熊夫(;名)の初名/字/通称/号]初名;克、字;子礼、通称;三折、号;青山
- 熊雄(くまお・竹志田) → 重楯(しげたて・竹志田たけしだ、神職/尊攘) Z 2 1 3 5
熊王(くまおう・東北院) → 東北院熊王(とうほくいんのくまおう、童/歌) X 3 1 2 9
- 1724 **熊臣**(くまおみ・岡おか、別名;忠栄/真人、忠英男)1783-1851 69 石見木部村富長山八幡宮神官;父門、
国学;佐伯種孚・千家清主・千家俊信・村田春海・平田篤胤門、津和野藩校養老館国学教授、

私塾桜蔭舎を開設、神葬祭を復興、

「桜舎さくらのや歌集」「跡の浅瀬」「詠歌人物百首」「柿本人麿事跡考辨」「読淫祀論」著、

1816「霊の梁」「千世の住処」41「兵制新書」50「鐸音舎襍録ざつろく」「天地人祝詞祭文」著、

[熊臣(；名)の通称/号]通称；一郎/内蔵助くらのすけ/蔵之助、号；桜廼舎さくらのや/東嶺/大瓠

九ま岐(くまき) → 鹿鳴(ろくめい・中村屋、旅宿業/俳) B 5 2 1 0

熊吉(くまきち・倉橋/歌川) → 豊国(初世とよくに・歌川、絵師) 3 1 6 4

熊吉(くまきち・水野) → 南北(なんぼく・水野みずの、相法家) J 3 2 5 1

熊吉(くまきち・間宮/大草) → 公弼(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家) G 1 6 2 3

熊吉(くまきち・小野/桜本) → 招月(しょうげつ・小野おの、農業/詩文) M 2 1 2 4

熊吉(くまきち・佐々木) → 蘆臣(あしおみ・佐々木ささき、藩士/歌人) H 1 0 6 3

熊吉(くまきち・那須) → 道一(みちかず・那須なす、国学/歌) J 4 1 8 9

熊吉(くまきち・横井) → 千足(ちたり・横井よこい、国学者) N 2 8 7 6

熊吉郎(くまきちろう・末吉) → 道一(みちかず・末吉すえよし、国学者) J 4 1 3 3

D1790 熊子(くまこ・松平まつだいら、熊姫、佐竹義知女)?-? 江後期；歌人、松平出雲守直春(1810-78)と結婚、
直廉(茂昭；福井藩主)の母、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(夫直春と共に入集)、
[のどけさよ浦わの松の若みどり波にも春の色ぞうつろふ](大江戸倭歌；雑1680/浦)、

夫 → 直春(なおはる・松平まつだいら、越後糸魚川第6代藩主) K 3 2 2 6

1725 熊凝(くまこり・大伴君おとものさみ) 714-731天逝18歳 肥後益城郡の生/太宰府吏員、
相撲使すまひのつかさの従人ともひと；安藝国に病没、

万葉集中人物884-91：麻田陽春やす・山上憶良の挽歌(長歌)あり

熊五郎(くまごろう・間宮) → 信好(のぶよし・間宮まみや/向坂、幕臣) D 3 5 8 7

熊五郎(くまごろう・浜田屋) → 春明(はるあきら・生川なるかわ、商/国/歌/俳) 3 6 2 9

熊五郎(くまごろう・植村) → 家長(いえなが・植村うえむら、藩主/詩人) E 1 1 9 1

熊五郎(くまごろう・津軽) → 信明(のぶあきら・津軽つがる、藩主/財政再建) J 3 5 1 0

熊五郎(くまごろう・三宅) → 鴨溪(おうけい・三宅みやげ、絵師/歌人) E 1 4 1 8

熊五郎(くまごろう・森山) → 孝盛(たかもり・森山、幕臣/国学/歌) D 2 6 9 1

熊五郎(くまごろう・羽生) → 懋斎(ぼうさい・羽生はにゅう、儒者/兵学) 3 9 9 2

熊三郎(くまさぶろう・吉田/瓜生) → 金鷲(きんじゆ・梅亭、幕臣/戯作) D 1 6 8 3

熊三郎(くまさぶろう・水野) → 忠通(ただゆき・水野、幕臣/歌人) F 2 6 9 9

熊三郎(くまさぶろう・薩埵) → 徳軒(とくけん・薩埵さつた、心学者) K 3 1 6 4

熊三郎(くまさぶろう・今井) → 信惇(のぶあつ・今井いまい、神職/国学) H 3 5 4 0

熊七(くましち・岡村) → 簀斎(ささい・岡村おかむら、儒者/勤王派) K 1 6 4 9

B1772 熊次郎(くまじろう・上原うねはら)?-? 通詞、アイヌ語研究、1792「蝦夷方言藻汐草」、「蝦夷語集」著

熊次郎(くまじろう・前田) → 矩貫(のりつら・前田、幕臣) F 3 5 1 6

熊次郎(くまじろう・筒井) → 忠英(ただてる・筒井、幕臣/書院番) P 2 6 9 4

熊次郎(くまじろう・村松) → 秀茂(ひでしげ・文の家、旅館主人/狂歌) D 3 7 0 8

熊次郎(くまじろう・増田屋) → 日出成(ひでなり・赤松[亭]、狂歌/絵師) D 3 7 5 0

熊次郎(くまじろう・華山/大山) → 綱良(つなよし・大山/華山、藩士/勤王) B 2 9 4 1

熊次郎(くまじろう・田中/戸田) → 藤蔭(ふじかげ・戸田/田中、藩士/歌) C 3 8 4 2

熊次郎(くまじろう・斎藤) → 貞常(さだつね・斎藤堀、藩士/文筆家) I 2 0 6 7

熊次郎(くまじろう・赤松) → 祐以(すけもち/すけゆき・赤松/福田、国学/歌人) H 2 3 1 2

熊助(熊介くますけ・人見) → 弁斎(べんさい・人見ひとみ、武芸者) B 2 7 2 2

熊助(くますけ・木下) → 浄庵(じょうあん・木下きのした、儒者/詩人) Q 2 2 8 2

熊助(くますけ・中根) → 忠富(ただとみ・中根なかね、藩士/家老/歌) Y 2 6 5 8

熊助(くますけ・渡辺) → 条(たりのえ・渡辺わたなべ、藩士/儒/国学) 2 7 4 8

熊介(熊助くますけ・波多) → 嵩山(すうざん・波多/波田/秦、儒者) B 2 3 0 0

熊蔵(くまぞう・間宮/大草) → 公弼(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家) G 1 6 2 3

熊蔵(くまぞう・下村) → 春坡(しゅんぱ・下村しもむら、商家/俳人) K 2 1 3 8

熊蔵(くまぞう・歌川) → 国満(くにみつ・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 2 4

熊蔵(くまぞう・片桐) → 宗古(そうこ・片桐かたぎり、幕臣/茶) H 2 5 2 3

熊蔵(くまぞう・伊奈) → 忠賢(ただかた・伊奈いな、幕臣、文筆家) P 2 6 3 1
 熊蔵(くまぞう・竹内) → 武信(たけのぶ・竹内たけうち、和算家) O 2 6 5 8
 熊蔵(くまぞう・朝比奈) → 昌始(まさもと・朝比奈あさひな、幕臣) N 4 0 1 5
 熊蔵(くまぞう・田辺) → 百堂(2世ひゃくどう・田辺、商家/俳人) E 3 7 7 0
 熊蔵(くまぞう・熊代) → 繁里(しげさと・熊代くましろ、国学者/歌人) C 2 1 2 3
 隈蔵(くまぞう・津打) → 治兵衛(4世じへい・津打つづつ、歌舞伎作者) F 2 1 6 3

D1742 熊太(くまた・石井いし、名;光海、諡号;武明軒三道)1781-1857 77 盛岡藩士、武道家、
 太刀/薙刀/鎌の三道に練達、1811「久奈尻勤番中日誌」著

熊太郎(くまたろう・市川) → 富十郎(2世とみじゅうろう・中村、歌舞伎役者) O 3 1 8 3
 熊太郎(くまたろう・太田代) → 東谷(とうこく・太田代おおたしろ、儒者) E 3 1 1 4
 熊太郎(くまたろう・広井) → 磐之助(いわのすけ・広井ひろい、藩士/敵討) I 1 1 4 4
 熊太郎(くまたろう・牧) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3
 熊太郎(くまたろう・山路) → 機谷(きこく・山路やまじ、儒者) K 1 6 3 8
 熊太郎(くまたろう・鶴殿) → 平七(へいしち・鶴殿うどの、藩士) 2 7 5 1
 熊太郎(くまたろう・奥平) → 昌男(まさお・奥平おくだいら/源、藩主/歌) L 4 0 7 5
 熊太郎(くまたろう・市島) → 静修(せいしゅう・市島いちじま、商家/書・詩) I 2 4 6 5
 熊太郎(くまたろう・本間) → 季隆(すえたか・本間ほんま、和算家) F 2 3 4 9
 熊太郎(くまたろう・吉村/中条) → 右京(うきやう・中条ちゅうじょう/吉村、尊攘派) C 1 2 1 2
 熊太郎(くまたろう・清水) → 晴国(はるくに・清水しみず、藩士/歌人) K 3 6 2 6
 熊太郎(くまたろう・但馬屋) → 幸盛(ゆきもり・藤原ふじわら、書肆/国学者) H 4 6 2 2
 熊太郎(くまたろう・宮地) → 森城(もりき・宮地みやじ、藩儒) L 4 4 5 9
 熊之丞(くまのじょう・木村) → 信章(のぶあき・木村きむら、歌人) I 3 5 1 1
 熊之進(くまのしん・八幡) → 光瓊(みつる・八幡やわた、神職/国学) D 4 1 9 4
 熊之助(くまのすけ・人見) → 弁斎(べんさい・人見ひとみ、武芸者) B 2 7 2 2
 熊之助(くまのすけ・戸枝) → 惟一(これかず・桃沢ももさわ/戸枝、藩士) R 1 9 4 1
 熊之助(くまのすけ・松平) → 忠根(ただね・松平まつだいら、幕臣/和学) Z 2 6 6 1
 熊之助(くまのすけ・福田) → 峨山(がさん・福田、藩士/国学) L 1 5 7 2
 熊之助(くまのすけ・木下) → 台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励) R 1 6 0 2
 熊之助(くまのすけ・曲淵/乾) → 淡々(たんたん・松木まつき、俳人) 2 6 9 4
 熊之助(くまのすけ・橋村) → 正冬(まさふゆ・橋村/度会、神職/歌人) R 4 0 7 3
 熊之助(くまのすけ・山内) → 香雪(こうせつ・山内やまうち、藩士/書家) K 1 9 1 6
 熊之助(くまのすけ・成瀬) → 正親(まさちか・成瀬なるせ、家老/城主) D 4 0 7 1
 熊之助(くまのすけ・植村) → 家長(いえなが・植村うえむら、藩主/詩人) E 1 1 9 1
 熊之助(くまのすけ・榊原) → 政房(まさふさ・榊原/源、藩主/歌人) H 4 0 0 9
 熊之助(くまのすけ・国富) → 鳳山(ほうざん・国富くにとみ、藩士/儒者) B 3 9 0 3
 熊之助(くまのすけ・大場) → 一眞斎(いっしんさい・大場おおば、藩士/歌) C 1 1 8 6
 熊之助(くまのすけ・小出) → 風松(ふうしょう・小出こいで、俳人) 3 8 8 0
 熊之助(くまのすけ・西山) → 員直(かずなお・西山にしやま、藩士/神職) V 1 5 3 3
 熊之助(くまのすけ・白石) → 資風(すけかぜ・白石正一郎、商家/国学/勤王) G 2 3 1 6
 熊介(熊助くまのすけ・波多) → 嵩山(すうざん・波多/波田/秦、儒者) B 2 3 0 0
 熊之介(くまのすけ・藤田) → 幽谷(ゆうこく・藤田ふじた、彰考館総裁) 4 6 0 1
 久馬介(くまのすけ・丹羽) → 貴明(たかあき・丹羽にわ、家老/文武奨励) L 2 6 4 7
 求馬助(くまのすけ・松平) → 乗良(のりよし・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 6

B1703 熊野のかんなぎ ? - ? 平安末期歌人、

「玉葉集」2783(;後白河院[1127-1192]の熊野御幸32度目の歌への託宣の返歌)

[しばしばもいかが忘れん君をまもる心くもらずみくまのの月](玉葉;二十神祇2783)

熊八郎(くまはちろう・足利) → 義根(よしね・足利/源/平嶋、詩人) F 4 7 4 9
 熊彦(くまひこ・岡村) → 簀斎(きさい・岡村おかむら、儒者/勤王派) K 1 6 4 9
 熊彦(くまひこ・高橋) → 正純(まさずみ・高橋たかはし、商家/歌人) D 4 0 0 7
 熊姫(くまひめ・佐竹/松平) → 熊子(くまこ・松平まつだいら、直春室/歌) D 1 7 9 0

- 熊平(くまひら/ゆうへい・五十嵐)→正之(正行まさゆき・五十嵐いがらし、藩士/歌)N 4 0 2 8
- D1743 熊文(くまぶん・生駒いこま/初姓;水山/土師はじ/土師宿禰)1735-180470 常陸笠間の生、笠間藩士;出奔、諸国行脚;水戸寓居、国学/歌;氏家広覧門、博識;文武/医/雑芸など、1780江戸/のち岩代住、1775「続紀土州日記」/79「彼面此面」常陸国府記「府中雑話」94「結繩歌」、「百牋和歌解」、注釈「拾遺鈔批考」、「続日本紀摘要」「続日本紀雌黄」「読続紀」編、「常磐日記」「常陸問答」、[熊文(;名)の別名/字/通称/号]別名;惟熊/維熊これくま/熊史、字:君祥、通称;周蔵、号;柳塘/峨眉/峨眉山人/葛伏庵
- 熊増(くまます・中根) → 忠富(ただとみ・中根なかね、藩士/家老/歌)Y 2 6 5 8
- 熊弥太(くまやた・山内) → 豊栄(とよし・山内、藩士/文武教育) R 3 1 7 0
- くみ(・松木) → 九三子(くみこ・松木まつき、国学者) E 1 7 5 0
- 久美(くみ・浅野/前田、久美姫)→延子(のぶこ・前田まへだ/浅野、藩主室/歌)J 3 5 9 7
- E1732 久美子(くみこ・立石たていし、)1817-189579 筑後久留米の歌人
- E1750 九三子(くみこ・松木まつき/松本、初名;くみ、松木只右衛門女)?-1898 伊勢津の国学者;本居宣長門
- E1760 久美女(くみじよ・吉田きよしだ、旧姓;菅)1751-9242 讃岐の生/備中倉敷に嫁ぐ、歌人
組之助(くみのすけ・蜂谷) → 光泰(みつやす・蜂谷はちや、藩士/歌人) K 4 1 0 8
- E1723 汲元(くみもと・清水しみず、)1834-1924長寿91 近江高島郡饗庭村の若宮八幡神社祠官、国学者、のち若狭彦神社主典、大講義、[汲元(名)の通称/号]通称;莊治郎、号;真名井廼舎/蓬園
- 虞民(ぐみん・安東) → 間庵(かんあん・安東あんどう、藩儒/詩文) P 1 5 9 2
- E1767 くめ(・姓不詳) ? - ? 江前期;歌人、茂睡家の娘か了然尼に出仕者か?、1691了然尼撰(茂睡編)[若むらさき]入、[それとても逢ふ夜のあらばつらからじさがにくきまで立ちしわが名は]、(若むらさき;149/立名恋/さがにくき;意地悪いほどに)
- D1744 久免(くめ・稲葉いなば、お久免の方、紀州藩士稲葉定清女)1697-177781 和歌山城に出仕、徳川吉宗の生母浄円院の世話;徳川吉宗の側室、1721芳姫(夭折)の母、夫吉宗没後落飾:法号覚樹院、江戸桜田屋敷住、歌・冷泉為村門、家集「山路の梅」著
[久免(;名)の法号]覚樹院/教樹院
- E1714 久米(くめ・久我くが、柚木ゆき玉嶼ぎよくしよ3女)1834-189158 備中浅口郡玉島の絵師、国学者、幼少より武道を好む/種子島流の砲術を修得/画;鎌田呉陽・中原国華門、写生派、山水花卉を能くす、小田郡西浜(現・笠岡市金浦)の久我松韻に嫁す、歌人
[久米(;名)の初名/号]初名;常、号;玉粹ぎよくすい
- 久米(くめ・野田) → 千萩(ちもと・野田のだ/岩神/波多/秦、国学)N 2 8 2 8
- 来目雄(くめお・大伴) → 千秋(ちあき・大伴おおとも/加藤/高師連、神職/国学)M 2 8 2 4
- 久米一郎(くめいちろう・朝岡)→柳昌(りゅうしょう・朝岡あさおか、藩士/儒者)E 4 9 6 8
- 糸右衛門(くめえもん・塚本)→正之(まさゆき・塚本つかもと、商家/社会事業)Q 4 0 9 4
- 久米吉(くめきち・幸塚) → 野鶴(やかく・幸塚こうづか、俳人) 4 5 3 9
- 久米吉(くめきち・広沢) → 菅彦(すがひこ・広沢ひろさわ重賢、歌人) J 2 3 0 7
- D1776 久米子(くめこ・土井とい、歌人名;伊久米いくめ子/号;薫梅くんばい、松平忠救ただすけ女)?-? 松平忠刻の養女、三河西尾藩主のち刈谷藩主土井伊予守利信(1728-78)の正室、侍女に外山とやまがいる、歌人;賀茂真淵門、県門三才女に次ぐ上流歌人、土井利信家老女清瀬きよせも真淵門、本居大平「八十浦の玉」入、
[鶯の来つたなくがね梅の花ひもとく春になりけるかな]、(八十浦;上17/1758[宝暦8]真淵家宴)
- 侍女 → 外山(とやま;女房名、年寄/歌人) T 3 1 2 7
- 糸三郎(2世くめさぶろう・岩井)→半四郎(6世はんしろう・岩井、歌舞伎役者)I 3 6 0 5
- 久米次郎(くめじろう・北田)→忠之丞(ちゅうのじょう・北田、藩士/農政)G 2 8 7 9
- 久米次郎(くめじろう・松島)→素彦(もとひこ・榎取/松島/小田村、藩士)D 4 4 9 5
- 糸次郎(くめじろう・原) → 信好(のぶよし・原はら/秦、国学/歌/官吏)J 3 5 6 9
- 糸治郎(くめじろう・西尾) → 稻麿(いなまろ・西尾にしお、農家/国学者) D 1 1 7 0

- D1745 **条助**(久女助くめすけ・奈河ながわ)?-? 江後期1813-27頃上方歌舞伎作者:奈河久二助門、
1817「都帰花染分手綱」26「東紅藍娘道成寺」27「色くらべ時雨松」著
条助(くめすけ・馬場) → 董水(東水とうすい・馬場ばば、書家) F 3 1 7 3
条蔵(久米蔵くめぞう・伊東) → 裕春(祐春ゆうしゅん・伊東/伊藤、和算家) C 4 6 4 0
久米蔵(くめぞう・前田) → 国虎(初世くにとら・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 6 3
久米蔵(くめぞう・橘) → 耕斎(こうさい・橘、ロシア滞在/辞典編) B 1 9 2 0
条三半四郎(くめぞうはんしろう) → 半四郎(6世はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 5
- B1773 **条太郎**(くめたろう・中村なかむら、3世佐野川市松いちまつ/市川荒五郎) 1760-1810? 京歌舞伎役者;
初め女形、所作「五変化」、1794江戸中村座で興行;
写楽の役者絵「祇園町白人おなよ」のモデル、1799男役に転向;市川荒五郎に改名、
「心中万年草」条之助役から市松人形が創られたという(市松模様は初世市松から流行)
参考 → 市松(いちまつ・初世佐野川、歌舞伎役者) D 1 1 6 4
久米太郎(くめたろう・曲淵) → 直義(なおよし・曲淵まがりぶち、幕臣/家譜) C 3 2 9 5
久米野(くめの・間宮) → 八十子(やそこ・間宮まみや/久米、歌人) D 4 5 6 9
- B1704 **久米女郎**(くめのいらつめ) ? - ? 久米朝臣家の女/万葉四期歌人、
万葉集八1459(春相聞;厚見王[?-?757存]あつみのおおきみへの返歌)、
[世の中も常にしあらねばやどにある桜の花の散れるころかも](万葉1459)
- B1705 **久米女王**(くめのおおきみ) ? - ? 奈良期万葉四期歌人:745従五下、
万葉集八秋1583(:738年奈良麿の紅葉の宴・愛人か)、
[もみち葉を散らすしぐれに濡れて来て君が黄葉もみちをかざしつるかも]
(万葉八1583;奈良麻呂の好意への感謝の返歌)
久米之進(くめのしん・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8
久米之進(くめのしん・河村) → 秀穎(ひでかひ・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9
久米之進(くめのしん・横瀬/成瀬) → 石痴(せきち・成瀬なるせ/横瀬、彫刻家) K 2 4 3 8
久米進(くめのしん・河村) → 秀俊(ひでとし・河村、秀穎男/藩士/国学) D 3 7 3 1
- D1746 **条之助**(くめのすけ・堀ほり、名;光器、清左衛門男) 1838-68切腹 31 会津藩士;精撰組に抜擢上京、
1868鳥羽伏見で敗戦帰郷/戊辰戦時藩命で米沢藩に援軍を求め拒絶され米沢で屠腹死、
「山稜御造宮御用旅中」/1863「山稜就御造宮御用巡拝細曲控帳」著
[高行(;名)の通称/法号]通称;条之助くめすけ、法号;無能院
条之助(くめすけ・斎藤) → 高行(たかゆき・斎藤さいとう、藩士/農政家) N 2 6 6 7
条之助(久女之介くめすけ・丹治) → 重治(しげはる・丹治たじひ、和算家) S 2 1 3 2
条之助(くめすけ・正田) → 嘉珪(よしかど・正田まさた、国学/歌) P 4 7 0 8
久米之助(くめすけ・岡村) → 正雪(しょうせつ・由比ゆい/由井/楠、兵法家) K 2 2 3 3
久米之助(くめすけ・長/長谷部) → 桃妖(とうよう・長/長谷部、旅宿業/俳人) H 3 1 7 3
久米之助(くめすけ・足立) → 信行(のぶゆき・足立あだち、暦学者) D 3 5 7 7
久米之助(くめすけ・蜷川) → 親和(ちかかず・蜷川にながわ、書家;奥右筆) 2 8 6 8
久米之助(くめすけ・川井) → 久敬(ひさたか・川井かわい、幕臣/家老) L 2 7 6 8
久米之助(くめすけ・川井) → 久徳(ひさよし・川井かわい、幕臣/和算家) C 3 7 2 0
久米之助(くめすけ・広田) → 正方(まさかた・広田ひろた/度会/有江、神職/国学) S 4 0 1 9
久米之助(くめすけ・野原) → 正基(まさもと・野原のはら、国学者/歌) M 4 0 0 8
久米之助(くめすけ・蜂谷) → 光泰(みつやす・蜂谷はちや、藩士/歌人) K 4 1 0 8
久米之介(くめすけ・藤井) → 高豊(たかとよ・藤井/大中臣、神職/歌) M 2 6 5 0
- 1711 **久米禅師**(くめのぜんじ/くめのぜじ)?-? 万葉一期歌3首;96・99・100;石川郎女に求婚する時の歌、
[東人あづまとの荷前のさきの箱の荷にの緒にも妹は心に乗りけるかも](万葉;二相聞100)
(東国人の荷物が堅く緒に結ばれているようにあなたは私の心を強く独占している)
- B1742 **久米仙人**(くめのせんじん) ? - ? 伝説上の人物;大和高市郡の久米寺の開祖という、
吉野の竜門寺で修業/仙人として飛行中女の脛を見て通力を失い墜落;その女を妻にする、
高市の都造宮の材木運搬に通力発揮;恩賞で得た地に久米寺を建立(今昔;十一/24話)
久米若壳(くめわかめ) → 若壳(わかめ・久米連) 5 3 1 3
- B1706 **久米若子**(くめわかご) ? - ? 万葉集中人物:紀伊三穂浦の岩屋に住む、若子は青年の意?

博通はくつ法師が岩屋を見ての歌(万葉307)・河辺宮人の歌(万葉435)

来目稚子(くめのわくご) → 顕宗天皇(けんぞうてんのう、久米若子と類似伝説あり) C 1 8 5 7

糸八(くめはち・森) → 義晃(よしあき・森もり、里正/国学/歌) P 4 7 6 6

久米彦(くめひこ・座田) → 太氏(ひろうじ・座田さいだ/賀茂、神職/歌) F 3 7 5 7

D1747 久米満(糸満くめまる・大友おおも、才三郎) 1817-69⁵³ 加賀藩御料理人;初め7人扶持、
家督嗣;米35俵、1840(24歳)藩主斉泰公の御供で帰国/1858(安政5)御料理頭;禄80石、
国学者/能書家、歌人;橋守部門、
1843「玉の小菅」61「蓬壺歌集」、「山中紀行」「大友久米満歌稿」著、
[久米満(通称)の名/字/別通称/号]名;保定、字;子固、別通称;儀左衛門、
号;蓬壺/蓬堂

久米丸(くめまる・増田) → 宋太郎(そうたろう・増田まただ、国学/尊攘) L 2 5 1 1

具茂(ぐも・堀川) → 具茂(ともしげ・堀川ほりかわ、国司/連歌) P 3 1 5 7

雲井園(くもいえん) → 都竜軒(とりゅうけん・山本、茶舗/狂歌) R 3 1 9 0

雲四郎(くもしろう・大島) → 義苗(よしなゑ・大島おおしま、旗本/俳人) K 4 7 6 5

雲輔(くもすけ・野原のはらの) → 定丸(さだまる・紀きの、旗本/戯作/狂歌) C 2 0 4 4

雲助(くもすけ・風前) → 風前雲助(ふうぜんのかむすけ、狂歌) G 3 8 9 0

愚蒙(ぐも;字) → 祐海(ゆうかい;法諱・愚蒙;字、浄土僧) 4 6 9 8

雲太夫(くもだゆう・仁科) → 琴浦(きんぼ・仁科にしな、儒者) R 1 6 7 6

雲の屋(くものや) → 蒼山(そうざん・遠藤・長島、俳人) H 2 5 5 0

雲廼屋(くものや) → 秀業(ひでなり・松本まつもと、神職/歌人) D 3 7 5 3

雲八(くもはち・矢野) → 政弘(まさひろ・矢野やの、藩士/歌人) H 4 0 0 4

雲八(くもはち・目加田) → 守如(もりゆき・目加田めがた、絵師) G 4 4 7 6

雲八(くもはち・長坂) → 在綱(あつな・長坂ながさか、藩士/歌) G 1 0 5 6

雲八郎(くもはちろう・三宅) → 尚斎(しょうさい・三宅/平出、儒者) S 2 2 2 9

愚門(ぐもん;法諱) → 大了(だいろ;道号・愚門、曹洞僧) L 2 6 2 4

B1765 愚有(ぐゆう) ? - ? 江後期曹洞宗僧;金沢天徳院の侍者、「立華院様御法事留」編

B1707 くら(本院蔵ほんいんのくら、左近)?-? 本院藤原時平(871-909)女の仁善子の女房?、
956坊城右大臣師輔歌合参加、藤原朝頼あさよ(?-965?)と恋、歌:後撰928

[忘れねと言ひしにかなふ君なれどとはぬはつらきものにぞありける](後撰;十三恋928)

(忘れてくださいと言ったことを本気にして聞きとどけてくださるあなたですが、
やはり尋ねてくださらないのはつらいことです)

参照 藤原朝頼 → 朝頼(あさよ・藤原、廷臣) B 1 0 0 9

倉(くら・堀田) → 倉女(くらじよ・堀田ほった、社家夫人/歌) E 1 7 4 8

内蔵(くら・伊達) → 敏親(としちか・伊達だて、領主/詩歌人) M 3 1 8 2

内蔵(くら・友松) → 氏興(うじおき・友松/佐藤、儒/神道) 1 2 2 3

内蔵(くら・畠山/新納) → 久仰(ひさのり・新納にいろ、藩家老) B 3 7 7 7

内蔵(くら・橋村) → 正弘(まさひろ・橋村はむら/度会、神職) R 4 0 6 7

内蔵(くら・孫福) → 公裕(きみひろ・孫福まごぶく/度会、神職/詩) M 1 6 0 7

内蔵(くら・幸田) → 光隆(みつたか・幸田こうだ/度会、神職) D 4 1 7 4

内蔵(くら・前田) → 利寛(としひろ・前田まえだ、藩主男/和学) W 3 1 4 2

内蔵(くら・松平) → 乗富(のりとみ・松平まつだいら/源、幕臣/国学) F 3 5 2 5

玖羅(くら・石塚) → 倉子(くらこ・石塚いづか、歌人) D 1 7 4 9

D1748 くら風(くらかぜ・月庵) 江後期長崎俳人、1813「西山集」編

B1774 蔵伎(くらぎ・菊屋、此道このみちの蔵伎、吉田助右衛門)?-? 江戸八丁堀亀島狂歌、1787「才蔵集」入、
1802洒落本評判記「花折紙」共著;自恐・新作と、

[鯉かふ金のひかりは星月夜鎌倉河岸にはつねをぞ聞く]

D1785 鞍樹(くらぎ・石井い) ? - ? 江後期;歌人、国学者、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[涼しさは今年生ひにし竹の葉に月の光をむすぶ白露](大江戸倭歌;夏535/竹間夏月)

久良記(くらぎ) → 夜ル道ノ久良記(よるみちのくらぎ、狂歌/戯作) K 4 7 0 5

- 倉吉(くらきち・碓氷) → 常道(つねみち・碓氷うすい/藤原、神職/国学) F 2 9 3 2
 蔵吉(くらきち・小河南) → 殷教(ただり・小河南ごうち、藩士/国学) W 2 6 9 9
- D1749 倉子(くらこ・石塚いづか、別名; 玖羅くら、号; 春秋亭、石塚貞克女) 1686-1758 73 下野都賀郡富吉豪族、
 夫; 鈴木度易のりやす(婿養子; 石塚家の家督嗣)、歌人; 今小町と称された、
 1722「日光紀行」24「妙義紀行」/48家集「室八嶋」(10巻/324首入)/56「楓百首」著、
 [春来れば室の八島のけぶりさへけさや霞にたちかはるらん](室八嶋; 巻頭歌)
- D1782 くら子(くらこ・神田かんだ) ? - ? 江後期; 歌人、神田正清との関係?、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、同集入集の[くら女](510)と同一?、
 [冬来ぬと落葉が上に降り染めてけさは時雨のおとぞ身にしむ](大江戸倭歌; 冬1061)
- E1729 庫子(倉子くらこ・滝山たきやま、笠間藩士小林十郎左衛門女) 1822-71 50 常陸笠間の歌人、
 法鏡院(毛利斉熙なりひろ正室/池田治道女の三津子/1789-1856)の侍女; 長門萩に随従、
 [ぬれぬともいざや引かなんあやめ草名もたか沢の池のほとりに]([萩の歌人]入)
 法鏡院 → 美津子(みつこ・毛利もうり、藩主正室/歌人) D 4 1 3 7
- D1750 蔵治(くらじ・岡おか、名; 衛之/珏かく、字; 双玉、衛敬男) 1793-1863 71 仙台藩士; 1799(7歳)家督、
 府学書役/物書・深川横目/千住屋敷役、儒詩; 畑中白霞・松井梅屋門、
 菊池五山・詩仏・巻菱湖・磐溪と交遊、「東山先生(蘆野東山)詩集」「東山先生文集」編、
 [蔵治(; 通称)の号] 韜斎/静所
- 倉舗屋(くらしきや) → 長斎(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8
 内蔵七(くらしち・千葉) → 胤晴(たねはる・千葉ちば、天文家) R 2 6 9 6
- E1748 倉女(くらじょ・堀田ほた、) 1809-1875 67 尾張海東郡の津島社家堀田之雄ゆきお(1787-1857)の妻、
 国学・歌; 富樫広蔭門
- 倉次郎(くらじろう/そうじろう・井上/米良) → 東嶠(とうきやう・米良めら/米、藩士/漢学) C 3 1 8 1
 内蔵次郎(くらじろう・松島) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5
 蔵助(くらすけ・岸) → 勝明(かつあき・岸きし、藩士/兵学) N 1 5 1 9
- B1708 蔵太(くらた; 通称・斎藤) ? - ? 江後期弘前藩士; 1805扨捉警護/07ロシア人の攻撃で敗走、
 帰国後処罰; 1809赦免、1809「衛刀魯府志」著
- B1709 内蔵太(くらた・渡辺わたなべ/長嶺、名; 久之助/暢、渡辺茂左衛門男) 1836-64 刑死 29 母; 檜崎与兵衛女、
 萩藩士、1851藩校明倫館修学/52長峯実晴養子/56諸国遍歴/58御手廻組小姓/59世子小姓、
 1859渡辺に復籍、64禁門変に恭順派から追われ免職刑死、「介亭野稿」著
 [内蔵太の別通称/号]別通称; 広輔、号; 介亭
- 内蔵太(くらた・前田) → 孝錫(たかてる・前田まへだ、藩士/家老) M 2 6 3 5
 内蔵太(くらた・百々) → 俊徳(しゅんとく・百々どど、医者) L 2 1 6 7
 内蔵太(くらた・岡野) → 石城(せきぎょう・岡野/河合、藩士/儒者) D 2 4 5 5
 内蔵太(くらた・赤川) → 知哲(ともさとし・赤川あかがわ/岩松、藩士/歌) T 3 1 9 1
 内蔵太(くらた・赤川) → 格定(たかさだ・赤川あかがわ、知哲孫/藩士/歌) V 2 6 1 1
 内蔵太(くらた・浅井) → 記保(のりやす・浅井あさい、庄屋/歌人) H 3 5 1 2
 内蔵太(くらた・萩原) → 良次(よしつぐ・萩原はぎはら/中臣、神職) O 4 7 5 0
 蔵太(くらた・寺西) → 元永(もとなが・寺西、幕臣/国学) D 4 4 5 5
 蔵太(くらた・田内) → 千町(ちまち・田内たのうち、藩士/国学/歌) L 2 8 4 2
 蔵太(くらた・丸山) → 吉一(よしかず・丸山まるやま、藩士/歌人) P 4 7 2 7
 庫太(くらた・藤懸) → 頼善(よりよし・藤懸ふじかけ、藩士/手記) K 4 7 0 4
 庫太(くらた・津田) → 勝昌(かつまさ・津田つた、藩士/国学) V 1 5 0 8
 倉太夫(くらだゆう・4世竹本) → 馬笑(ばしょう・楽亭、浄瑠璃語/戯作) E 3 6 5 5
 倉太郎(くらたろう・黒木) → 茂矩(しげのり・黒木くろぎ、神職/国学) O 2 1 3 4
 内蔵太郎(くらたろう・吉田) → 拙藏(せつざう・吉田よしだ、藩士/儒・蘭学) L 2 4 1 8
 鞍作(くらつくり) → 入鹿(いるか・蘇我、廷臣) E 1 1 6 8
- E1768 内蔵蔵人(くらのくろうど・倉命婦くらのみよぶ) ?-? 平安前期; 女房歌人、伝不詳、
 962(応和2)内裏歌合参加、
 [よもすがら待ちあかしつるほととぎすいつかあやめのねをば聞くべき]、
 (内裏歌合; 九番郭公; 勝/いつ聞けようか/何時か・五月五日/菖蒲の根と音の掛詞)

内蔵頭(くらのかみ・太田) → 資寧(すけやす・太田おた、旗本/幕臣/歌) H 2 3 8 9
 内蔵頭(くらのかみ・池田) → 治政(はるまさ・池田いけだ、藩主/日記) G 3 6 8 6
 内蔵権頭(くらのごんのかみ) → 敬明(もりあき・足羽あすは/馬來田/渥美、神職/国学者) F 4 4 0 4
 内蔵権頭(くらのごんのかみ) → 常職(つねより・佐瀬させ、神職/国学) F 2 9 7 2
 蔵之丞(くらのじょう・くらのすけ・布施) → 山手白人(やまてのしろひと、布施胤致たねよし、幕臣/狂歌) E 4 5 1 4
 蔵之丞(くらのじょう・くらのすけ・布施) → 胤毅(たねたけ・布施ふせ、幕臣/典故) R 2 6 8 4
 蔵之進(くらのしん・村田) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1
 庫之進(くらのしん・沢田) → 盛忠(もりただ・沢田さわだ/小川、藩士) F 4 4 6 3
 内蔵之進(くらのしん・朝比奈) → 束稻(つかね・誉田ほんだ、神職/国学) G 2 9 3 5
 内蔵允(くらのすけ・杉浦) → 正職(まさもと・杉浦さざうら、幕臣/琴曲) H 4 0 9 0
 内蔵允(くらのすけ・桃井) → 直良(ちよりょう・幸若/桃井、舞曲大夫) K 2 8 1 2
 内蔵允(くらのすけ・菌田) → 守紹(もりつぐ・菌田/藤波、神職/国学) K 4 4 2 3
 内蔵允(くらのすけ・藤田) → 安勝(やすかつ・藤田ふじた、藩士) B 4 5 1 6
 内蔵允(くらのすけ・眞宮) → 定広(さだひろ・眞宮まみや、藩士/歌人) J 2 0 5 7
 内蔵允(くらのすけ・石井) → 盛時(もりとき・石井いし、幕臣、記録) F 4 4 9 1
 内蔵允(くらのすけ・田村) → 顕行(あきゆき・田村たむら、国学/神道) H 1 0 8 7
 内蔵允(くらのすけ・田村) → 清真(きよざね・田村、顕行男/国学者) U 1 6 5 9
 内蔵允(くらのすけ・宇喜多) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1
 内蔵之允(くらのすけ・菌田) → 守祀(もりとし・菌田そのだ/荒木田、神職) F 4 4 9 4
 内蔵助(くらのすけ・内藤) → 護道(もりみち・内藤/藤原、武家/連歌) G 4 4 5 5
 内蔵助(くらのすけ・橋村/吉沢) → 正竹(まさたけ・橋村/度会、神職/古典) D 4 0 3 2
 内蔵助(くらのすけ・知久) → 頼久(よりひさ・知久ちく、旗本/領主/歌) N 4 7 9 0
 内蔵助(くらのすけ・大石) → 良雄(よしお/よしたか・大石おおい、家老/討入) C 4 7 3 6
 内蔵助(くらのすけ・山本) → 氏之(うじひさ・賀茂/山本、神職) C 1 2 6 4
 内蔵助(くらのすけ・山本) → 泰順(たいじゆん・山本、儒者) K 2 6 2 6
 内蔵助(くらのすけ・浅山) → 一伝斎(いちでんさい・浅山あさやま、武術) G 1 1 3 0
 内蔵助(くらのすけ・小泉) → 養正(よしまさ・小泉こいずみ/源、幕臣/茶) H 4 7 0 2
 内蔵助(くらのすけ・金原) → 清方(きよかた・金原、神職/国学/歌) O 1 6 7 2
 内蔵助(くらのすけ・三好) → 長貞(ながさだ・三好、幕臣/記録) D 3 2 7 2
 内蔵助(くらのすけ・小倉) → 実樞(さねあき・小倉おぐら/林、幕臣/歌) K 2 0 6 9
 内蔵助(くらのすけ・藤/斎藤) → 齐延(まさのぶ・藤とう/斎藤/藤原、神職) F 4 0 6 1
 内蔵助(くらのすけ・関) → 橋守(はしもり・関せき実遂、歌人) E 3 6 4 4
 内蔵助(くらのすけ・金原) → 清方(きよかた・金原きんばら、神職/歌人) O 1 6 7 2
 内蔵助(くらのすけ・成瀬) → 当職(まさもと・成瀬なるせ、藩士/詩人) H 4 0 9 5
 内蔵助(くらのすけ・高木) → 耕水(こうすい・高木たかぎ、儒者) J 1 9 9 6
 内蔵助(くらのすけ・井原/中村) → 徳水(とくすい・中村、藩士/心学者) L 3 1 0 9
 内蔵助(くらのすけ・高階/西田) → 惟恒(これつね・西田、国学/歌人) O 1 9 5 4
 内蔵助(くらのすけ・高向/上部) → 光昱(みつあきら・上部うわべ/度会/高向、神職) D 4 1 0 4
 内蔵助(蔵之助くらのすけ・岡) → 熊臣(くまおみ・岡おか、神職/国学) 1 7 2 4
 内蔵助(内蔵介くらのすけ・長村) → 靖斎(せいさい・長村ながむら、藩士/儒者) I 2 4 2 0
 内蔵助(くらのすけ・千村/下条) → 竹塙(ちくお/ちくう・下条、医者/歌) C 2 8 6 6
 内蔵助(くらのすけ・蒲坂) → 青荘(せいそう・蒲坂ほさか、漢学者) C 2 4 4 9
 内蔵助(くらのすけ・有馬) → 泰賢(やすかた・有馬ありま、藩家老/歌人) F 4 5 2 0
 内蔵助(くらのすけ・津田) → 政本(まさもと・津田つた、藩家老) H 4 0 9 4
 内蔵助(くらのすけ・酒井) → 忠謙(ただなお・酒井さかい、藩主/歌) U 2 6 1 7
 内蔵助(くらのすけ・有馬) → 泰寛(やすひろ・有馬ありま、藩家老/国学) F 4 5 2 2
 内蔵助(くらのすけ・小塚) → 直道(なおみち・小塚こづか、国学者) M 3 2 0 7
 内蔵助(くらのすけ・六角) → 秀平(ひでひら・六角ろっかく、神職、国学/歌) M 3 7 2 8
 内蔵介(くらのすけ・遠藤) → 常友(つねとも・遠藤、藩主/歌人) C 2 9 7 0

内蔵介(くらのすけ・碧川/平田)→ 鏡胤(鉄胤かねたね・平田、国学者) C 1 5 7 6
 内蔵介(くらのすけ・水野)→ 保豊(やすとよ・水野みずの、神職/鏡胤門国学) G 4 5 8 2
 内蔵之助(くらのすけ・吉川)→ 従長(よりなが・吉川よしかわ、幕臣/神道) L 4 7 4 2
 内蔵之介(くらのすけ・勝部)→ 眞楯(またて・勝部かつべ/佐々木、国学者/神職) O 4 0 9 1
 内蔵之丞(くらのすけ・中島)→ 貞晨(ていしん・さだとき・中島、俳人) 3 0 0 7
 蔵之助(くらのすけ・小沢)→ 郷助(ごうすけ・小沢おざわ、儒/兵学者) K 1 9 0 3
 庫之介(くらのすけ・小島/手塚)→ 葦原(いげん・児島、儒/憂国志士) 1 1 8 2
 庫之介(くらのすけ・千村)→ 景村(かげむら・千村ちむら、歌人) L 1 5 3 7
 庫之助(くらのすけ・鈴木)→ 亮(あきら・鈴木すずき/土濃塚、国学者) H 1 0 7 5
 庫之助(くらのすけ・中松)→ 克正(かつまさ・中松なかまつ/中村、藩士/国学) V 1 5 2 2
 倉之助(くらのすけ・松平)→ 寒松(かんしょう・松平、藩家老/詩歌) H 1 5 6 8
 倉之助(くらのすけ・松平)→ 康成(やすなり・松平、寒松男/藩家老/国学) C 4 5 4 8
 車之助(くらのすけ・高野)→ 武貞(たけさだ・高野、藩士/記録/地誌) O 2 6 3 6

B1775 蔵内侍(くらのない:女房名)?- ? 平安前期女流歌人、小野好古と恋愛、
 956師輔歌合参加、後撰886、
 [誓ひてもなほ思ふには負けにけり誰たがため惜しき命ならねば](後撰;恋886、
 好古がもう逢うまいと誓言ちかごとして翌朝に贈る歌/誓言は神に命を懸けるもの)
 倉命婦(くらのみよぶ) → 内蔵蔵人(くらのくろうど・倉命婦、女房歌人) E 1 7 6 8

1726 倉橋部女王(棕-くらはしべのおおきみ)?-? 万葉三期歌人、729長屋王への挽歌;万葉441、
 万葉1613賀茂女王の歌の左注入、
 [大君の命みこと恐かにみ大殯おほあきの時にはあらねど雲隠れがります](万葉;三441、
 神亀六729年左大臣長屋王の死を賜う[自害]後に作る歌)

棕椅部音弟女(くらはしべのおとめ)→ 弟女(おとめ・棕椅部、万葉歌人) 1 4 9 6
 棕椅部刀自売(くらはしべのおとめ)→ 刀自売(おとめ・棕椅部、万葉歌人) N 3 1 8 9
 倉八(くらはち・山口) → 和(やわら・山口やまぐち、和算家) E 4 5 4 2
 庫八(くらはち・杉本) → 幹之(みきゆき・杉本すぎもと/堀川、藩士/歌) J 4 1 3 6
 倉部先生(くらべせんせい;諡号)→ 新蔵(しんぞう・鈴木、医者) P 2 2 2 1

B1776 倉部行澄(くらべのゆきすみ、本名;小島屋源左衛門、淮南堂いなんどう2世)?-? 江戸神田の酒問屋、
 狂歌・菅江門、1787「才蔵集」入、1788「八重垣縁結後序」、
 節松嫁々かかを助け師追善「梢の雪」刊行、
 [をよびなき(及びもつかない)事ばかりにて蟻螂のをのがままにもならぬ世の中]

蔵部女(くらべめ、蔵部女儒くらべのようじゆ)→ 茅上娘女(ちがみのおとめ・狭野、歌人) 2 8 0 7
 倉丸(暗麿/暗丸くらまる・羽倉)→ 信名(のぶな・荷田、神官、歌人) 3 5 1 1
 倉山田石川麻呂(くらやまだいしかのまる)→ 麻呂(まる・蘇我倉山田石川そがのくらやまだいしかわ、廷臣) B 4 0 5 9
 倉椀家淀川(くらわんかよどがわ) → 淀川(よどがわ・倉椀家、俄師) I 4 7 1 7

B1710 食人(くらんど・大飯おおめしの)?- ? 狂歌、1785「徳和歌後万載集」3首/87「才蔵集」入、
 [水すまばまづ赤糸ひをあらふべしにごらば蛸の足をあらはん](後万載;671/滄浪の水)

B1716 蔵人(くらんど;通称・伊丹いたみ、名;重賢、重任男)1830-1900? 青蓮院宮家家臣;右京大進/従六下、
 儒;梅田雲浜門、勤王家;安政大獄連座;投獄/1859追放;62解除、討幕運動;何度か捕縛、
 維新後;内国事務局権判事/1878元老院議官/高等法院陪席裁判官、
 1859「四英獄窓唱和集」著

蔵人(くらんど) → 蔵人(くろうど)を参照
 蔵人(くらんど・春日かすが) → 信映(のぶあき・春日/大日向、藩士/系譜) 3 5 7 2
 蔵人(くらんど・武田) → 信温(のぶあつ・武田、藩士) 3 5 9 0
 蔵人(くらんど・小出) → 英長(ふさなが・小出こいで、幕臣/藩主/国学) I 3 8 2 2
 蔵人(くらんど・平賀) → 義雅(よしまさ・平賀ひらが、藩士/和学) O 4 7 7 8
 蔵人(くらんど・岡部) → 春平(はるひら・岡部/松田、国学/歌) G 3 6 7 6
 蔵人(くらんど・本多/泉いづみ) → 舍暉(いえてる・泉/荒木田、神職/詩歌) E 1 1 8 7
 蔵人(くらんど・香取) → 和雄(かずお・香取かとり、神職/文筆家) M 1 5 1 4
 蔵人(くらんど・寺島) → 静斎(せいさい・寺島/原、藩士/藩政改革) I 2 4 2 4

- 蔵人(くらんど・鎌田) → 正純(まさずみ・鎌田かまた、藩士/日記) D 4 0 0 8
 蔵人(くらんど・関) → 忠親(ただちか・関せき、藩執政/国学) X 2 6 7 8
 蔵人(くらんど・板倉) → 勝行(かつゆき・板倉いたくら、藩主/国学) T 1 5 6 9
 蔵人(くろんど・重松) → 安兼(やすかね・重松しげまつ、藤原、神職/国学) F 4 5 9 7
 九里香園(くりかえん・塩谷) → 宕陰(とういん・塩谷しおのや、儒官/詩人) 3 1 0 3
 B1777 栗成笑(くりのなりえみ、赤坂成笑、八木岡やぎおか政七)?-? 狂歌品川連/芝連、後万載3首、才蔵集3首
 [山蜂の姿に似れどぶんぶんとなのるにつけてあぶなげもなし]
 B1711 栗人(くりひと/くりんど・渋川)? - ? 江戸狂歌;堺丁連、徳和歌後万載3首入
 栗本(初世くりのもと) → 青蘿(せいら・松岡/竹沢、俳人) 2 1 1 4
 栗本(2世くりのもと) → 玉屑(ぎよくせつ・観感、真言僧/俳人) D 1 6 0 3
 栗本(3世くりのもと) → 梧庵(ごあん・中谷、俳人) H 1 9 0 6
 栗本(4世くりのもと) → 可大(かだい・栗本、俳人) C 1 5 2 9
 栗の本(くりのもと) → 宇橋(うきょう・草川、青蘿玉屑門/俳人) B 1 2 2 6
 栗の本(くりのもと) → 知可良(ちから・吉川きっかわ、修験者/俳人) C 2 8 2 8
 栗の本(くりのもと) → 壮山(そうざん・道山みちやま、俳人) H 2 5 5 1
 栗舎(くりのや) → 恭徳(たかのり・栗田、商家/歌人) M 2 6 8 6
 栗廼舎(くりのや) → 親毅(ちかたけ・安岡やすおか、郷土史家/歌) B 2 8 1 3
 栗廼屋(くりのや) → 永言(ながこと・小栗おぐり、国学/歌人) K 3 2 2 8
 D1751 栗間戸(栗窓くりまど・桃李園、栗柯亭4世) 1756-? 1833存 大阪狂歌作者/桃李園社を創設、
 1833「難波名所」著
 厨川次郎(くりやがわじろう) → 貞任(さだとう・安倍あべ、豪族/武将) C 2 0 0 7
 D1752 矩流(くりゅう・花王堂) ? - ? 大阪俳人:矩州門、1776「枝農蛙」編
 九鱗(くりん・広田) → 憲寛(のりひろ・広田、藩士/蘭学者) F 3 5 6 6
 矩林(くりん・高橋) → 竜斎(りゅうさい・高橋たかはし、見聞記蒐集) E 4 9 0 8
 狂(くるう・渡部) → 支考(しこう・各務) 2 1 1 9
 車之助(くるまのすけ→くらのすけ) → 武貞(たけさだ・高野、藩士/記録/地誌) O 2 6 3 6
 B1778 車井たぐる(くるまいたぐる) ? - ? 江戸狂歌朱楽連、徳和歌後万載1首606
 B1779 車屋義人(くるまのよしうど) ? - ? 天明以前江戸狂歌、後万載1首、卯雲「今日歌集」入
 B1712 車持氏娘子(くるまもちのうぢのをとめ)?-? 万葉歌人、巻十六3811(長歌)・3812・3813(反歌)
 3813左注;消息のない夫への恋情のため死、
 [我が命は惜しくもあらずさにつらふ君によりてそ長く欲ほりせし](万葉:十六3813)
 胡桃戸(くるみと) → 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9
 呉(くれ・矢部) → 正子(まさこ・矢部やべ/大平、歌/書) C 4 0 4 6
 D1792 矩令(くれい・名;のりただ?・のりなり?・のりはる?・のりよし?)?-? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [住みなれし山里人も夜ただ吹く嵐に夢やむすばざるらん](大江戸倭歌;雑1725)
 駒嶺(くれい・福沢) → 憲治(のりはる・福沢ふくざわ、農業/歌人) F 3 5 4 4
 暮輔(くれすけ・紀野) → 紀野暮輔(きのくれすけ、狂歌作者) G 1 6 0 7
 D1770 呉竹庵主(くれたけのいおぬし) ? - ? 狂歌、1787「才蔵集」入;
 [口まめに喰ひちらしたる枝豆のからりとはれし月をこそみれ]
 呉竹節躬(くれたけのふしみ;狂名) → 頼恭(よりたか・真野まの、藩士/儒/狂歌) I 4 7 9 1
 B1782 呉竹世艶(くれたけのよつや) ? - ? 狂歌、「徳和歌後万載」3首入;
 [いな妻のちらとみそめし君ゆへに心もうはの空になる神]
 呉竹世暮気(くれたけのよぼけ) → 巴扇堂(初世はせんどう・大塚、狂歌師) E 3 6 7 4
 E1707 呉継(くれつぐ・岡おか/旧姓;神辺) 1751-1822? 備中倉敷の商家;俵屋、岡武敏の兄、国学者、
 [呉継(;名)の通称]慎介/素郎、屋号;俵屋
 愚連堂凹(ぐれんどうおう;狂歌号) → 定易(さだやす・斎藤/大坪、馬術家) K 2 0 0 4
 九郎(くろう・源) → 義経(よしのぶ・源みなもと、武将、平家追討) E 4 7 7 4
 九郎(くろう・河野) → 通春(みちはる・河野、武将/連歌) H 4 1 1 1
 九郎(くろう・大内) → 持世(もちよ・大内/多々良、武将/歌/連歌) B 4 4 7 9

- 九郎(くろう・土岐) → 頼基(よしもと・土岐とき/源、武将/連歌) 4 7 4 8
 九郎(くろう・細川) → 頼春(よりはる・細川ほそかわ/源、武将/歌) J 4 7 4 9
 九郎(くろう・細川) → 政春(まさはる・細川/源、武将/連歌) G 4 0 3 6
 九郎(くろう・細川) → 政元(まさもと・細川/源、武将/連歌) H 4 0 8 7
 九郎(くろう・大蔵) → 能氏(よしうじ・大蔵おおくら、能楽師;大鼓) C 4 7 2 1
 九郎(くろう・久世) → 広民(ひろたみ・久世くぜ/源、幕臣/歌人) I 3 7 2 9
 九郎(くろう・川口) → 緑野(りよくや・川口かわぐち、医/藩儒) J 4 9 8 1
 九郎(くろう・佐成) → 千尋(ちひろ・佐成さなり/藤原、藩士/歌) M 2 8 6 0
 九郎(くろう・岡田) → 善章(よしあきら・岡田おかだ/源、幕臣/歌) K 4 7 4 3
 九郎(くろう・中村) → 清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派) N 1 6 0 4
 九郎(くろう・青地/源) → 慶安(けいあん・青地あおち/源、俳/歌人) D 1 8 3 4
 九郎(くろう・鈴木) → 閑哉(かんさい・鈴木すずき、藩士/国学) S 1 5 9 2
 九郎(くろう・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2
 九郎(くろう・堀江) → 宗彰(むねあき・堀江、里正/国学/教育) E 4 2 2 2
 九老(くろう・紀) → 梅亭(ばいてい・紀、絵師/俳人) B 3 6 8 3
 九郎衛門(くろうえもん・紺野) → 夢江(むこう・柏かしわ、儒者/詩人) 4 2 5 0
 C1712 九郎右衛門(くろうえもん・西村にむら、丁字屋)?-? 京の書肆;仏書専門の出版
 九郎右衛門(くろうえもん、正本屋利助) → 一鳳軒(いっぽうけん・西沢) 1 1 2 6
 九郎右衛門(くろうえもん・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8
 九郎右衛門(くろうえもん・鶏冠井) → 令徳(りょうとく・鶏冠井かえでい、俳人) 4 9 2 2
 九郎右衛門(くろうえもん・長沼) → 正勝(まさかつ・長沼ながぬま、藩士) C 4 0 0 7
 九郎右衛門(くろうえもん・道元) → 春吉(はるよし・道元みちもと、砲術家) H 3 6 0 6
 九郎右衛門(くろうえもん・奈古屋) → 以忠(いちゅう・奈古屋なごや、藩士/儒者) D 1 1 6 7
 九郎右衛門(くろうえもん・山口) → 延年(えんねん・山口/余、篆刻/俳) C 1 3 1 9
 九郎右衛門(くろうえもん・山村) → 長基(ながもと・山村やまむら、町年寄/歌) P 3 2 2 2
 九郎右衛門(くろうえもん・寺尾) → 鶴雲(かくうん・寺尾てらお、儒者/詩) J 1 5 5 1
 九郎右衛門(くろうえもん・高橋) → 道斎(どうさい・高橋、儒者/詩文) E 3 1 3 7
 九郎右衛門(くろうえもん・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1
 九郎右衛門(くろうえもん・土橋) → 宗静(そうじょう・土橋、商家/連歌/俳人) C 2 5 0 9
 九郎右衛門(くろうえもん・吉田) → 甫尺(ほせき・吉田よしだ、書肆/俳人) E 3 9 3 7
 九郎右衛門(くろうえもん・都築) → 虚堂(きよどう・都築/都筑つぎ、儒者) P 1 6 9 4
 九郎右衛門(くろうえもん・長岡) → 宗興(むねおき・長岡ながおか、歌人) E 4 2 1 4
 九郎右衛門(くろうえもん・福田) → 五来(ごらい・福田ふくだ、商家/俳人) F 1 9 9 2
 九郎右衛門(くろうえもん・吉田) → 永盛(ながもり・吉田よしだ、商家/国学) P 3 2 2 9
 九郎右衛門(くろうえもん・天春) → 度(わたる・天春あまかす、大庄屋/歌) 5 3 4 6
 九郎右衛門(くろうえもん・佐藤) → 広壽(ひろとも・佐藤さとう、和算家) G 3 7 5 5
 九郎右衛門(くろうえもん・長嶺) → 将統(まさつぐ・長嶺ながみね、絵師/俳人) D 4 0 9 5
 九郎右衛門(くろうえもん・広川) → 眞弘(まさひろ・広川/長谷川、国学者) H 4 0 0 2
 九郎右衛門(くろうえもん・服部) → 応卿(まさあき・服部はっとり、国学者) R 4 0 8 1
 九郎右衛門(くろうえもん・犬童) → 長澄(ながすみ・犬童いぬどう/印藤・院道、歌・俳人) L 3 2 2 5
 九郎右衛門(くろうえもん・有田) → 吉順(よしより・有田ありた/源、歌人) K 4 7 5 5
 九郎右衛門(くろうえもん・伊東) → 祐雄(すけお・伊東、藩士/武芸;泳法) G 2 3 0 9
 九郎右衛門(くろうえもん・坂田) → 諸遠(もろとお・坂田さかた、藩士/故実家) H 4 4 4 8
 九郎右衛門(くろうえもん・足達) → 儀正(よしまさ・足達あだち、藩士/歌人) L 4 7 0 3
 九郎右衛門(くろうえもん・野口) → 成意(なりもと・野口にのぐち、神道/心学) O 3 2 2 4
 九郎右衛門(くろうえもん・古島) → 保時(やすとき・古島ふるしま、国学者) G 4 5 5 4
 九郎右衛門(くろうえもん・堀江) → 宗彰(むねあき・堀江、里正/国学/教育) E 4 2 2 2
 九郎三(くろうざ・堀田) → 定英(さだひで・堀田ほった、酒造業/歌人) P 2 0 3 0
 愚老斎(ぐろうさい) → 義彦(よしひこ・斎藤/荒船、神道家/歌) G 4 7 2 0
 九郎左衛門(くろうざえもん・矢島/坂) → 時存(ときもり・坂さか、藩士/儒者) K 3 1 2 1

九郎左衛門(くろうざえもん・那波)→蕉牕(しょうそう・那波なば、漢学者/詩歌) K 2 2 5 3
 九郎左衛門(くろうざえもん・山口)→延年(えんねん・山口/余、篆刻/俳) C 1 3 1 9
 九郎左衛門(くろうざえもん・和智)→東郊(とうこう・和智わち、藩士/儒者) D 3 1 7 5
 九郎左衛門(くろうざえもん・乗竹)→東谷(とうこく・乗竹、藩老/儒者) E 3 1 1 0
 九郎左衛門(くろうざえもん・綿屋)→西武(さいむ;号・山本、俳人) 2 0 0 7
 九郎左衛門(くろうざえもん・斎藤)→中立(ちゅうりつ・斎藤、和算家) G 2 8 9 5
 九郎左衛門(くろうざえもん・羽田野)→元章(もとあき・斎藤/羽田野、中立の養嗣/和算) B 4 4 9 7
 九郎左衛門(くろうざえもん・木本)→成理(なりまさ・木本、神道/軍学) I 3 2 1 4
 九郎左衛門(くろうざえもん・堀江)→逸風(いつふう・堀江ほりえ、書家) H 1 1 7 8
 九郎左衛門(くろうざえもん・玉手)→貞直(さだなお・玉手たまた、歌/俳人) G 2 0 4 1
 九郎左衛門(くろうざえもん・福田)→五来(ごらい・福田、商家/俳人) F 1 9 9 2
 九郎左衛門(くろうざえもん・安生/根岸)→鎮衛(やすもり・根岸/安生、幕臣/隨筆) D 4 5 3 2
 九郎左衛門(くろうざえもん・石井)→垂穂(たりほ・石井、藩士/儒/俳諧) N 2 6 5 0
 九郎左衛門(くろうざえもん・紺野)→夢江(むこう・柏かさわ、儒者/詩人) 4 2 5 0
 九郎左衛門(くろうざえもん・鹿兒島)→政章(まさあや・鹿兒島かごしま、国学者) O 4 0 7 2
 九郎左衛門(くろうざえもん・木本)→成善(なりよし・木本きもと、藩士/神道家) L 3 2 8 2
 九郎左衛門(くろうざえもん・長)→連起(つらおき・長ちよう、藩士) E 2 9 3 9
 九郎左衛門(くろうざえもん・長)→連愛(つらよし・長、連起男/藩士) E 2 9 5 3
 九郎左衛門(くろうざえもん・長)→連弘(つらひろ・長ちよう/本多、連愛養子/藩士/經濟改革) E 2 9 4 7
 九郎左衛門(くろうざえもん・長)→連恭(つらやす・長ちよう、連弘男/藩士) E 2 9 5 2
 九郎左衛門(くろうざえもん・浅山)→純尹(すみただ・浅山/大村、藩士/茶/歌) D 2 3 9 1
 九郎左衛門(くろうざえもん・高崎)→親広(ちかひろ・高崎たかさき、藩士/国学者) M 2 8 7 7
 黒牛(くろうし・大木戸、狂歌品川連)→若狭掾(わかさのじよう・初世鶴賀、新内節) 5 3 0 4
 九郎次(くろうじ・崎山)→良時(よとき・崎山さきやま、歌人) K 4 7 4 1
 九郎次(くろうじ・河地)→時俣(ときよし・河地かわち、国学) U 3 1 8 8
 九郎治(くろうじ・大野)→美庭(よしにわ・大野おの、国学) L 4 7 9 7
 九郎大進(くろうだいしん・藤原)→頼保(よりやす・藤原ふじわら、廷臣/歌人) J 4 7 8 6
 九郎太夫(くろうだゆう・下村)→幹方(もとかた・下村しもむら、和算家) C 4 4 3 4
 九郎太夫(くろうだゆう・寺村)→成相(しげみ・寺村てらむら、藩士/歌人) S 2 1 7 3
 九郎太夫(くろうだゆう・矢野)→昭徳(あきのり・矢野やの、藩士/国学者) I 1 0 5 9
 蔵人(くろうど・吉川)→広家(ひろいえ・吉川きつかわ、武将/領主/連歌) F 3 7 5 3
 蔵人(くろうど・野上)→国幹(くにもと・野上のがみ、神職/詩歌) D 1 7 2 5
 蔵人(くろうど・生駒)→魯斎(ろさい・生駒にま/岡野、藩家老/詩歌/兵学) B 5 2 5 2
 蔵人(くろうど・青地)→兼山(けんざん・青地あおち/あおち、藩士/儒者) B 1 8 9 4
 蔵人(くろうど・奈古屋)→豊敬(とよたか・奈古屋、藩士/藩学振興) R 3 1 2 2
 蔵人(くろうど・高井)→真政(さねまさ・高井たかい/源、幕臣/歌) N 2 0 2 0
 蔵人(くろうど・村上)→忠明(ただあき・村上、歌人/勤王家) P 2 6 1 3
 蔵人(くろうど・内藤)→忠世(ただよ・内藤、藩家老/俳人) R 2 6 2 2
 蔵人(くろうど・平賀)→義雅(よしまさ・平賀ひらが、藩士/和学) O 4 7 7 8
 蔵人(くろうど・敷田)→年治(としはる・敷田/吉松/宮本、神職/国学) N 3 1 4 3
 蔵人(くろうど・横山)→政寛(まさひろ・横山よこやま、藩士/記録) G 4 0 9 7
 蔵人(くろうど・横山)→政孝(まさたか・横山よこやま、藩士/詩人) D 4 0 2 4
 蔵人(くろうど・横山)→政和(まさかず・横山よこやま、藩家老/文筆) B 4 0 8 1
 蔵人(くろうど・寺西)→秀詮(ひであき・寺西てらにし、藩士/火消) C 3 7 7 8
 蔵人(くろうど・腹巻)→弘道(ひろみち・腹巻はらまき/荒木田、神職) H 3 7 3 7
 蔵人(くろうど・原田)→則長(のりなが・原田はらだ、神職/和学) J 3 5 7 3
 蔵人(くろうど・鎌田)→正純(まさずみ・鎌田かまた、藩士/日記) D 4 0 0 8
 蔵人(くろうど・滝野)→知雄(ともお・滝野たきの/物部、国学) T 3 1 3 1
 蔵人(くろうど・桑折)→頼長(よりなが・桑折おり/くわおり、藩士/国学/歌) M 4 7 6 6
 蔵人(くろうど・森本)→汎近(ひろちか・森本/紀、菅彦男/国学/歌) M 3 7 0 8

- 蔵人(くろうど・天野) → 松斎(しょうさい・天野あまの、藩士) J 2 2 0 8
 蔵人(くろうど・天野) → 蔵人(くらんど・伊丹いたみ、勤王家) B 1 7 1 6
 蔵人(くろうど・重松) → 安兼(やすかね・重松しげまつ/藤原、神職/国学) F 4 5 9 7
 蔵人阿闍梨(くろうどのあじり) → 頼賢(らいけん; 法諱・尊円、真言僧) 4 8 3 8
 蔵人阿闍梨(くろうどのあじり) → 日全(にちぜん; 法諱、日蓮僧) C 3 3 6 1
 蔵人阿闍梨(くろうどのあじり) → 日代(にちだい; 法諱、日蓮僧) C 3 3 7 6
 蔵人君(くろうどのきみ) → 意尊(いそん、僧/歌人) F 1 1 9 1
 蔵人君阿闍梨(くろうどのきみのあじり) → 賢辰(けんしん; 法諱、天台僧/歌) C 1 8 3 1
- B1781 蔵人大夫(くろうどのたいふ) ? - ? 平安後期女房歌人;
 1086若狭守通宗朝臣女子達歌合わかさのかみみちむねあそんのむすめたちのうたあわせ(判者; 通俊) 参(隆源らと)、
 [とふ人もなき山里のまきの戸を夜半にたたくはくひななりけり](女子歌合; 四番左7)
- 蔵人入道(くろうどのにゅうどう) → 叡覚(えいかく; 法諱、僧/歌人) 1 3 1 7
 九郎判官(くろうはんがん・源) → 義経(よしつね・源みなもと、武将、平家追討) E 4 7 7 4
 九郎兵衛(くろうひょうえ・関) → 五童(ごりゅう・関せき、藩士/和算) N 1 9 9 4
 九郎判官(くろうはんがん・源) → 義経(よしつね・源みなもと、武将、平家追討) E 4 7 7 4
 九郎麿(くろうまる・松平) → 茂政(もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) B 4 4 6 9
 鉄の舟(くろがねのふね) → 都の錦(みやこのにしき) 4 1 3 9
- D1753 黒木(くろき・黒山人) ? - ? 江戸戯作者: 山東京伝の助手、1792「女莊子胡蝶夢魂」
- E1747 九郎三郎(くろさぶろう・吹原ふきはら、名; 重巽しげやす) 1832-1906 75 尾張名古屋の綿布商、
 国学者; 植松茂岳しげおか門、吹原政之助まさのすけ(重文しげあや)と同族?、
 [九郎三郎(; 通称)の別通称/号] 別通称; 文三郎、号; 此心
 九郎三郎(くろさぶろう・大高坂) → 芝山(しざん、大高坂、藩儒/南学) D 2 1 7 1
 玄茂(くろしげ・斎藤、浄玄、幕府奉行人) → 釣雪老人(ちようせつろうぜん) J 2 8 2 7
- D1777 黒志古(くろしこ・三浦みづら) ? - ? 石見浜田藩士、歌人、
 本居大平「八十浦の玉」中巻; 3首入、
 [石見の海波もしづけくおほほしく八重の塩路にかすむたかしま](八十浦; 356/眺望)
- 九郎助(くろすけ・高原) → 正近(まさちか・高原たかはら、文筆家) D 4 0 7 6
 九郎助(くろすけ・紙屋) → 理然(りぜん・紙屋かみや、商家/俳人) B 4 9 4 1
 黒当(くろた・丈部はつせべ) → 黒当(くろまさ・丈部、万葉防人歌人) B 1 7 1 9
 黒谷上人(くろだにしょうにん) → 源空(げんくう、浄土宗祖) 1 8 1 1
 九郎太夫(くろだゆう・下村) → 幹方(もとかた・下村しもむら、和算家) C 4 4 3 4
 九郎太夫(くろだゆう・朝見) → 安臣(やすおみ・朝見あさみ、神職/国学) F 4 5 1 6
 九郎太郎(くろたろう・久保) → 銀杏満門(ちちのみのみつかど、幕臣/狂歌) E 2 8 7 5
- B1715 久呂面(玖呂面/黒面くろつら・秦はたの) ?-? 狂歌: スキヤ/落栗連に属す、1782「若葉集」12首、
 1785「徳和歌後万載」2首入、
 [とり上てうちしめりたる春雨に今宵つゞみのねごゝころもよし](後万載; 一76)
- B1780 黒戸(くろと: 組連) ? - ? 上総の雑俳の組連、取次; 1737「雲鼓評万句合」入、
 取次例; [器量さへよくばよかろと極きはめたが](万句合/世間で聞けばいろいろにいふ)
- B1784 黒鷲式部(くろとびしきぶ、岩瀬よね、山東京伝の妹) 1771-88 夭逝 17 早熟の才女;
 1784(天明4/14歳) 黄表紙「他不知思染井」著、1784刊「不案配即席料理」序、
 1784手拭合の催主; 京伝の偽装か
- 1712 黒主(くろぬし・大伴/大友、猿丸大夫男?・都堵牟磨男?) 830頃?-923? 長寿 近江在住の豪族、
 歌人; 六歌仙の1、884光孝天皇大嘗会風俗歌・897醍醐天皇大嘗会風俗歌を献上、
 917石山寺で亭子院に歌献上、
 勅撰11首; 古今(4首88/735/899/1086) 後撰(3首670/768/1099) 拾(404/405) 続後拾(626) 以下、
 [春雨の降るは涙か桜花散るを惜しまぬ人しなれば](古今; 春88)、
 [黒主の別名号] 大友黒主磨/志賀黒主
- 黒塗師(くろぬし・横道) → 一見(いっけん・永崎、横道黒塗師、俳人/狂歌) D 1 1 7 2
 黒羽隠者(くろばねのいんじゃ) → 増業(ますなり・大関/加藤、藩主/国学) J 4 0 1 1
 黒羽主人(くろばねのしゅじん) → 増業(ますなり・大関/加藤、藩主/国学) J 4 0 1 1

- 黒羽二亭(くろはふてい) → 金塚(きんらち・馬場、両替商/狂歌) E 1 6 9 0
 グロビウス(Grobuis) → 景保(かげやす・高橋たかはし、幕臣/天文/シボル事件) B 1 5 9 9
- 1713 黒人(くろひと・高市連たけちのむらじ)?-? 持統文武朝廷臣、701持統太上天皇吉野行幸に供奉、
 702三河行幸に供奉、万葉二期歌人19首・羈旅歌、玉葉1226/新拾遺1680、
 [大和には鳴きてか来らむ呼子鳥象ききのなかやま呼びそ越ゆるなる](万葉70)
 [いざ子ども大和へ早く白菅すすげの真野の榛原手折りて行かむ](万葉280;妻への贈歌)
 妻 → 高市連黒人妻(たけちのむらじくろひとのつま) E 2 6 4 2
- B1717 黒人(くろひと・民たみ) ? - ? 渡来系、隠士、詩人;懐風藻108・109
- B1718 黒人(くろひと・浜辺はまべの、姓;斯波、名;孟雅/字;子頌、三河屋半兵衛) 1717-9074 江戸本芝の書肆、
 狂歌作者;芝浜連を主導、1780狂歌募集;入花料と称し江戸狂歌初の点料徴収、
 1782「初笑不琢玉はつわらみがかぬたま」/83「狂歌栗下風くりのしたかぜ」・「狂歌猿の腰掛」編刊、
 1782橋州「狂歌若葉集」11首入、高彦「狂風大人墨叢」詠草入/83赤良「万載狂歌集」入、
 1785「後万載集」11首、87「狂歌才蔵集」入/86飯盛「吾妻曲狂歌文庫」入、
 [くひたらぬうはさもきかず唐から大和たつたひとつののちの月影](吾妻曲狂歌文庫)
 [ほととぎす富士と筑波の天秤に両国橋をかけたかと鳴く](後万載集;夏)
 [浜辺黒人の別号] 桃翁
- B1785 黒人(くろひと/くろうど・表野おもての)?-? 名古屋滑稽本、1830「三宝荒神」翁齋蛭成おきなさいひるなり校
- B1714 黒人(くろひと・桑原くわばら、名;要七) 1802-5857 上州赤城根村の俳人、1856「研水集」著
 黒人(くろひと・梅本) → 敏鎌(とがま・梅本うめもと/岡田、売薬/歌) U 3 1 3 6
 黒人妻(くろひとのつま・高市) → 高市連黒人妻(たけちのむらじくろひとのつま、万葉歌) E 2 6 4 2
- 1727 黒日売(くろひめ、吉備海部直きびのあまへのあたえの女)?-? 古事記歌謡詠者;2首(55/56):仁徳天皇恋慕、
 皇后石之日売(磐姫)の嫉妬を恐れ故郷吉備国へ逃げ帰る;吉備に尋ね来た天皇を見送る歌、
 [大和へに行くは誰が夫つま 隠津こもりうの下よ延はへつつ行くは誰が夫](古事記;下/歌56)
 (「隠津の」は「下」の枕詞、ひそかに大和へ行くのは我が夫だとの意を込めている歌)
- E1765 黒姫(くろひめ、) ? - ? 平安鎌倉期;歌人;1233刊[御裳濯集]2首入、
 [ききわたるなのみなりけるくらはしの山もさやかにすめる月かな](御裳濯集;秋388)
 黒淵漁夫(くろぶらぎよふ) → 天来(てんらい・牧岡/反古庵、俳人) E 3 0 5 3
- D1754 九郎兵衛(くろべえ・長沢、別通称;左太郎、七左衛門男)?-? 江前期後武将;藤基次家臣/大坂陣従軍、
 「長沢聞書」著(;大坂陣の様子の記録)
- D1755 九郎兵衛(くろべえ・日根ひね、名;正重、太郎兵衛正吉男)?-1669 和泉日根郡の人/正福の父、
 祖父代に日根野から日根に改姓、幕臣;1634御膳所御台所人、放鷹御供に失態;川越に蟄居、
 1648赦免;復職、1630「魚鳥野菜乾物時節記」著
- 九郎兵衛(くろべえ・青山) → 知親(ともちか・青山、藩士/歌人) P 3 1 7 8
 九郎兵衛(くろべえ・吉川) → 長能(ながよし・吉川よしかわ、藩士/記録) G 3 2 3 9
 九郎兵衛(くろべえ・荳戸) → 政以(まさもち・荳戸のぞき、藩士/実学) H 4 0 8 2
 九郎兵衛(くろべえ・荻田) → 安静(あんせい・荻田おぎた、俳人/歌人) C 1 0 1 5
 九郎兵衛(くろべえ・牛込) → 重忝(しげのり・牛込うしごめ、幕臣/文筆家) S 2 1 0 3
 九郎兵衛(くろべえ・清水) → 貞徳(さだのり・清水しみず、測量家) C 2 0 2 0
 九郎兵衛(くろべえ・津田) → 通明(みちあき・津田/山田、藩士/馬術家) B 4 1 0 7
 九郎兵衛(くろべえ・中村) → 梁山(りょうざん・中村/中邨なかむら、藩儒) H 4 9 7 3
 九郎兵衛(くろべえ・宇野) → 宗明(むねあき・宇野うの、商家/古銭蒐集) 4 2 6 5
 九郎兵衛(くろべえ・金子) → 歎和坊(かむわぼう・金子、俳人) R 1 5 9 4
 九郎兵衛(くろべえ・入江) → 直房(なおふさ・入江なおふさ、国学者) L 3 2 2 1
 九郎兵衛(くろべえ・井深) → 勝阜(かつたか・井深いぶか、藩士/和算) N 1 5 4 8
 九郎兵衛(くろべえ・荳戸) → 政共(まさとも・荳戸のぞき、藩士/和学者) R 4 0 5 3
 九郎兵衛(くろべえ・荳戸) → 太華(たいか・荳戸のぞき、藩士/藩再建) B 2 6 0 7
 九郎兵衛(くろべえ・荳戸) → 政以(まさもち・荳戸のぞき、太華男/国老) H 4 0 8 2
 九郎兵衛(くろべえ・宍戸) → 眞激(まさもと・宍戸しじど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6
 九郎兵衛(くろべえ・根岸) → 衛奮(もりいさむ・根岸ねぎし、幕臣/補任編纂) F 4 4 1 6
 九郎兵衛(くろべえ・上領) → 頼軌(よりのり・上領かみりょう/藤井、藩士/詩) J 4 7 4 7

- 九郎兵衛(くろべゑ・竹内)→ 信英(のぶひで・竹内たけうち、藩家老/歌) I 3 5 1 2
 九郎兵衛(くろべゑ・田丸屋)→ 通光(みちてる・肥田ひだ、庄屋/国学/俳) K 4 1 1 7
 久呂保庵(くろほあん、久呂保山人)→ 天喜(てんき、俳人) D 3 0 3 0
 黒牡丹(くろばたん) → 獭斎(ばくさい・7代中村宗哲、千家塗師) J 3 6 4 4
- B1719 黒当(くろまさ・くろた・丈部はつせべ)?- ? 755防人:遠江国佐野郡、万葉廿4325、
 [父母も花にもがもや草枕旅は行くとも捧ささごて行かむ](万葉;廿4325)
- B1720 黒麻呂(くろまろ・大伴宿禰)?- ? 奈良期廷臣、万葉四期歌4280:
 752年林王はやしのおおきみ邸で按察使橘奈良麻呂への餞別歌(;右京少進の時)、
 [立ち別れ君がいまさば磯城島の人是我じく斎いはひて待たむ](万葉集;十九4280)
- 1714 黒麻呂(くろまろ・忌部首いんべのおひと)?-? 758従五下/59連姓、万葉四期歌5首:1008・1556・1674-戯笑歌
 [山の端にいさよふ月の出でむかとも我あが待つ君が夜はふけにつつ](万葉;六1008、
 友の遅く来ることを恨む歌)、
 万葉十六3832戯笑歌の作者説? → 忌部首(いんべのおひと) B 1 1 9 0
- B1786 黒麻呂(玄理くろまる・高向たかむこ、姓かばね;漢人あやひと/史ふひと)?-654 飛鳥期の学者、
 608小野妹子に従い入隋、帰国後;国博士、僧旻みんと大化改新の政策立案、
 遣新羅使/654(白雉5)遣唐押使;唐で没
- E1703 畔見(くろみ・石田いしだ、通称;清左衛門)1764-? 出羽田川郡の歌人;庄内の杉山廉女れんじよ門、
- 1715 黒女(くろめ・宇遅部うちべ)?- ? 755防人:武蔵豊島郡上丁椋椅部くらはしの荒虫の妻、
 万葉廿4417
 [赤駒を山野やまにはがし捕とりかにて多摩の横山徒歩かしゆか遣やらむ](万葉;廿4417、
 はがすは放つ/かにてはかねて/馬が逃げたので夫を徒歩で旅立たせることに)
- 鋏形蕙斎(くわがたけいさい) → 政美(まさよし・北尾/赤羽、絵師) I 4 0 6 0
 鋏吉(くわきち・若井) → 成章(なりあき・若井わかい、藩士/攘夷論) D 3 2 7 9
 鋏九郎(桑九郎くわくろう・河村)→ 益根(ますね・河村、秀根男/儒・国学者) J 4 0 1 2
 鋏五郎(くわごろう・片桐) → 信彰(のぶあきら・片桐かたぎり/源、歌人) G 3 5 8 9
 鋏三郎(くわさぶろう・大井)→ 昌虎(まさとら・大井おおい、歌人) M 4 0 2 8
- D1756 桑石(くわし・中山なかやま、名;晦三、文平男)1805-5652 丹後宮津藩士/経学;朝川善庵門、
 国学:一柳千古門、藩財政改革を容れられず致仕;江戸芝愛宕に開塾、
 1834「光房桑石難陳」、「矯弊私記」補
- D1757 精(くわし・生田いた、廉男)1830-188152 上野館林の生/藩主転封により父と石見浜田に移住、
 浜田藩士/国学、1866長州軍と戦(第二次長州戦争)、1867「涕涙余滴」、生田万よるずの甥、
 [精の通称/号] 通称;小膳、号;、聴雨/水竹/退庵
- 精(くわし・源) → 精(せい・源、廷臣) 2 4 5 5
 麗居(くわしい・大脇) → 春嶺(はるみね・大脇おおわき、国学者) G 3 6 9 8
 鋏蔵(くわぞう・平尾) → 他山(たざん・平尾/力丸、藩士/儒者/詩) O 2 6 9 4
- D1719 桑田王(くわたのおおきみ、系譜不詳)?-? 大和期廷臣;681(天武10年)帝紀及上古諸事の記定参加
- 桑田麻呂(くわたまる・高向)→ 湛契(たんけい;法諱・義学;字、天台僧/廷臣) T 2 6 3 2
 鋏之丞(くわのじょう・山崎)→ 堅丸(かたまる・地形堂ちがたろう、幕臣/狂歌) N 1 5 0 9
 桑廼舎(くわのや) → 弘繩(ひろつな・中西/度会、神職/国学) G 3 7 4 1
 勲(くん・江村/清田) → 公績(こうせき・清田せいた、藩儒/詩人) F 1 9 2 2
 勲(くん/いさお・赤松) → 蘭室(らんしつ・赤松あかまつ、藩儒者/詩) C 4 8 4 6
 勲(くん・里見) → 勲(いさお・里見さとみ、医者/国学) K 1 1 3 1
 群(ぐん・高橋) → 一庵(いちあん・高橋たかはし帝紀及上古諸事の記定儒者) F 1 1 9 5
 君安(くんあん・田中) → 金峰(きんぼう・田中たなか、詩人) I 1 6 2 7
 君安(くんあん・市川) → 晩斎(ばんさい・市川いちかわ、藩儒) H 3 6 6 9
 君威(くんい・吉分) → 大魯(たいろ・吉分[別]、藩士/俳人) C 2 6 3 7
 君頤(くんい・坂尾) → 幽栖(ゆうせい・坂尾さかお、藩士/儒者) C 4 6 9 8
 君懿(くんい・南部) → 利義(としとも・南部なんぶ、藩主) N 3 1 0 6
 君彝(くんい・山井) → 崑崙(こんろん・山井やまのい/大神、儒者) G 1 9 9 1
 君彝(くんい・田能村) → 竹田(ちくでん・田能村、儒/絵師/詩) D 2 8 5 4

- 君彝(くんい・藤田) → 鷗洲(おうしゅう・藤田ふじた、詩人) C 1 4 4 7
君彝(くんい・片山) → 恒斎(こうさい・片山/杉野、藩士/儒者) F 1 9 0 3
君彝(くんい・中安) → 弦斎(げんさい・中安なかやす、藩士/家老) J 1 8 0 6
君彝(くんい・渡辺) → 琴台(きんたい・渡辺わたなべ、儒者/詩人) J 1 6 0 6
君彝(くんい・佐竹) → 義遵(よしゆき・佐竹さたけ、藩士;城代) I 4 7 0 0
君韓(くんい・北条/伊勢) → 氏擘(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩) E 1 2 8 7
薫一(くんいち・平井) → 元興(もとおき・平井ひらい、藩儒/歌人) L 4 4 1 3
薫一郎(くんいちろう・今井/大国) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7
君子(くんう/きみゆき?・多賀) → 磐鴻(ばんこう・多賀、文筆家) H 3 6 6 1
D1758 訓營(くんえい;法諱) 1386 - 1447 62歳 興福寺法相僧;五師/一切経納所勤務、
大乘院門跡に随従:同門随一の碩学と称される、
「局通対」「局通対問用」「有法差別」「違四量事」「一因違四」「共許有性」「法自相指示」著
君盈(くんえい・岡松おかまつ) → 麴谷(おうこく・岡松、儒者) B 1 4 2 8
君英(くんえい・小幡) → 太室(たいしつ・小幡おばた、医者/儒・詩) K 2 6 1 2
君英(くんえい・畑中) → 青霞(せいか・畑中はたなか、藩士/詩文) H 2 4 5 4
郡右衛門(ぐんえもん・三井) → 武勝(たけかつ・三井みつゐ、歌人) O 2 6 3 4
D1759 訓円(くんえん;法諱、教忍房)?- ? 1653-73頃存 興福寺成身院法相僧、「局通対文集」編、
1653-73「成身院訓円日記」、「法差別文集」著
D1760 薫煙(くんえん) ? - ? 加賀松任の俳人;1691北枝「卯辰集」入、
[白椿しろつばき散るや岩根のうつせ貝](卯辰集;45/岩礁に身の無い空の貝に交り花が散る)
薫園(くんえん・青方) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) 4 6 2 8
薫園(くんえん・橋本) → 直香(ただか/なおか・橋本、国学/歌人) E 2 6 8 7
薫園(くんえん・北川) → 祭魚(さいぎょ・北川きたがわ、俳人) G 2 0 6 4
薫園(くんえん・物集) → 高見(たかみ・物集もづめ、神道/国学/教育) Z 2 6 9 2
君燕(くんえん・屈/堀) → 景山(けいざん・堀ほり/修姓;屈、儒者/医) 1 8 5 7
君延(くんえん・辻/小宮山) → 謙亭(けんてい・小宮山こみやま、幕臣/儒者) E 1 8 9 6
軍王(ぐんおう) → 軍王(いくさのおおきみ、万葉歌人) 1 1 0 6
君夏(くんか・伊藤) → 錦里(きんり・伊藤いとう、藩士/儒者) E 1 6 9 1
君夏(くんか・植田) → 孟縉(もうしん・植田うえだ、幕臣/史家) 4 4 5 8
君華(くんか・桂山) → 彩巖(さいがん・桂山かつらやま、幕府儒官) 2 0 0 2
君華(くんか・石川) → 鴻斎(こうさい・石川いしかわ、儒者/詩/画) J 1 9 0 8
B1787 訓海(くんかい;法諱) ? - ? 1448存 室町期法隆寺の法相僧、
1447/48「太子伝玉林抄」著(:「聖徳太子伝暦」の注釈書)
君諧(くんかい・藤林) → 普山(ふざん・藤林、医者/蘭学) C 3 8 3 3
君艾(くんがい・中根) → 香亭(こうてい/きょうてい・中根、幕臣/史家) F 1 9 3 1
君艾(くんがい・福永) → 淑人(しゆじん/祥人よしと・福永、儒者) E 4 7 8 2
君恪(くんかく・薩埵) → 徳軒(とくけん・薩埵さつた、心学者) K 3 1 6 4
君恪(くんかく・徳川) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1
君赫(くんかく・楠木) → 紫石(しせき・宋そう、楠木、絵師) E 2 1 3 1
君嶽(くんがく・松下) → 烏石(うせき・松下まつした、書家) B 1 2 7 7
君嶽(くんがく・安藤/司馬) → 江漢(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学) 1 9 9 1
君嶽(くんがく・佐竹) → 義堯(よしただか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2
群鶴楼主人(ぐんかくろうしゅじん) → 高雅(たかまさ・尾高/堀口/小山、歌人) D 2 6 7 5
君観(くんかん・村田) → 春郷(はるさと・村田むらた/平、商家/歌人) G 3 6 3 7
D1761 君熙(くんき・原田はらだ、名;政春/春) 1756-1834 79 筑前怡土郡和算家;久留米藩藤田貞資・嘉言門、
豊前中津藩領代官、門弟は照山貞信はじめ多く一周忌追善の算額が太宰府に奉納された、
「算法秘解」「弧矢玄算題」「算題十五問答術解」「点竄雑解」/1794「錐術秘解」著、
[君熙(;字)の通称/号] 通称;太仲太、号;武城館
君規(くんき・中野) → 君規(きみのり・中野、藩士/詩文) M 1 6 0 6
君規(くんき・舎人) → 重巨(しげなお・舎人とねり、藩士/本草/華道) R 2 1 7 8

君紀(くんき・松村) → 元綱(もつな・松村まつむら、通詞/地理) D 4 4 1 3
 君奇(くんき・朝比奈/田井) → 元陳((もとのぶ・田井/朝比奈、藩士) D 4 4 7 4
 君輝(くんき・島津) → 久光(ひさみつ・島津、領主/藩政実権) C 3 7 0 1
 君毅(くんき・宮下) → 尚綱(しょうけい・宮下みやした、藩士/儒家) I 2 2 2 4
 君徽(くんき・住江) → 滄浪(そうろう・住江/墨江/中瀬、藩士/儒者) D 2 5 2 3
 君徽(くんき・益戸) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7
 君義(くんぎ・入江) → 東阿(とうあ・入江いりえ、暦算/軍学者) 3 1 7 0
 君義(くんぎ・石川) → 貫河(かんが・石川いしかわ、絵師) Q 1 5 0 3
 君義(くんぎ・桃/桃井) → 西河(せいか・桃井/桃/脇坂、藩儒/詩) 2 4 7 9
 君義(くんぎ・島/中島) → 玄谷(げんこく・中島/修姓;島、儒者) I 1 1 8 8 7
 君儀(くんぎ・中村) → 信斎(しんさい・中村なかむら、外科医) O 2 2 5 2
 君宜(くんぎ・安孫子) → 貽堂(いどう・安孫子あひこ、詩人) I 1 1 0 1
 軍記(ぐんき・熊谷) → 知周(ともちか・熊谷くまがい、藩士/国学者) V 3 1 0 5
 郡記(ぐんき・大松沢) → 実富(さねとみ・大松沢おまつざわ、藩士/国学) O 2 0 1 7
 群牛(ぐんぎゅう) → 六窓(ろくそう・橋庵、俳人) 5 2 9 6
 瑠瑠(くんぎよ・久保寺) → 正久(まさひさ・久保寺くぼでら、幕臣/和算家) G 4 0 6 0

D1762 君恭(くんきょう・岩下いわした、名;通靖、探春男) 1747-1821 75 肥後の儒者;草野潜溪門/詩文、
 熊本藩校時習館句読師/訓導、儒・詩文、「蔵沢居詩集」著、

[君恭(;字)の通称] 宇左衛門/吉太郎

君強(くんきょう・杉村) → 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7
 君恭(くんきょう・妹尾/雨森) → 精斎(せいさい・雨森あめのもり/妹尾、藩士/儒者) 2 4 7 6
 君教(くんきょう・中野) → 清溪(せいけい・中野なかの、藩士/漢学者) H 2 4 9 6
 薫郷(くんきょう・橋本) → 実盛(さねもり・橋本、神職/神典/書) L 2 0 4 5
 君業(くんぎょう・田中) → 華城(かじょう・田中たなか、医者/詩人) F 1 5 6 3
 君業(くんぎょう・松平) → 忠栄(ただなか・松平/桜井、藩主/詩) Q 2 6 2 7
 君饒(君曉くんぎょう・饒田) → 西疇(せいちゅう・饒田にぎた、儒者/崎門学) J 2 4 2 3
 群興(郡興ぐんきょう・畠山) → 泰全(たいぜん・畠山、実録/軍記作者) B 2 6 7 7
 君玉(くんぎよく・児島) → 雲琳(うんりん;通称・児島こじま、医者) E 1 2 1 3
 君玉(くんぎよく・熊本/熊ゆう) → 華山(かざん・熊本くまもと、儒者/詩) L 1 5 7 0
 君玉(くんぎよく・武田/龍) → 公美(きんえ・龍たつりゅう、儒者/詩歌) E 1 6 8 7
 君玉(くんぎよく・野村) → 篁園(こうえん・野村のむら、儒者/詩人) 1 9 7 8
 君玉(くんぎよく・中井) → 柚園(ゆうえん・中井なかい、儒者) 4 6 8 1
 君玉(くんぎよく・太田) → 白(はく・太田おた、蓬山/国学者) J 3 6 8 6
 郡玉山房(ぐんぎよくさんぼう) → 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3
 群玉堂(ぐんぎよくどう) → 政礼(まさのり・村井/水野、廷臣/勤王家) G 4 0 3 2
 君欽(くんきん・大森) → 快庵(かいあん・大森おおもり、儒者/詩人) H 1 5 1 2
 君錦(くんきん・清田) → 儋叟(たんそう・清田せいた/きよた、儒者/詩) I 2 6 4 9
 君錦(くんきん・松村) → 宗悦(そうえつ・松村まつむら、茶人/歌人) G 2 5 2 8
 君瑾(くんきん・平井) → 樗堂(ちようどう・平井ひらい、藩士/詩人) K 2 8 4 4
 軍九郎(ぐんくろう・小野) → 損庵(そんあん・小野おの、藩士/儒/詩文) B 2 5 4 4
 薫卿(くんけい・荒木田) → 南陵(なんりょう・荒木田あらかた、神職/詩) J 3 2 6 6
 薫契(くんけい;字) → 韶舜(しょうしゆん;法諱・薫契、天台僧) J 2 2 6 5
 君卿(くんけい・末包) → 金陵(きんりょう・末包すえかね、儒者) R 1 6 9 9
 君卿(くんけい・平沢) → 香山(こうざん・平沢ひらさわ、藩儒者) G 1 9 3 6
 君卿(くんけい・小川) → 英長(ひでなが・小川おがわ/源、藩士/歌人) I 3 7 6 6
 君敬(くんけい・中島) → 黄山(こうざん・中島なかじま、儒者/書) J 1 9 3 5
 君敬(くんけい・平井) → 澹所(たんしよ・平井ひらい、儒/藩校総督) I 2 6 3 5
 君敬(くんけい・前野) → 頤庵(いあん・前野まえの/藤塚、藩医) K 1 1 6 7
 君敬(くんけい・井上) → 夏鼎(ひろさだ・井上いのうえ、商家/歌人) L 3 7 0 8
 君馨(くんけい・大鶴) → 定香(さだか・大鶴おおつる、医者/詩人) H 2 0 8 6

- 瑠瓊(くんけい・久保寺) → 正福(まさとも・久保寺、幕臣/和算家) E 4 0 5 8
 E1763 訓芸(くんげい・きんげい?;法諱、)?- ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、
 歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]入
 [花の歌あまたよむ中に、
 ちればをしちらねばくもるいかがせむ花のうへゆく春の夜の月](檜葉;春65)
- 君厥(くんけつ・小石) → 中蔵(ちゅうぞう・小石こいし、医者) G 2 8 5 9
 君巖(くんげん・富永) → 正翼(まささげ・富永とみなが、医者/詩文) C 4 0 7 6
 君彦(くんげん・望月) → 鹿門(ろくもん・望月もちつき、幕府医官) B 5 2 1 1
 君虎(くんこ・桐山) → 知義(ともよし・桐山きりやま、医者/書家) Q 3 1 9 7
 君虎(くんこ・市川) → 行英(ゆきひで・市川いちかわ、和算家) F 4 6 4 1
 君亨(くんこう・広瀬) → 桃秋(とうしゅう・広瀬、商/俳人、淡窓父) E 3 1 9 4
 君亨(くんこう・山口) → 睦斎(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) D 3 9 1 4
 君孝(くんこう・沢田) → 鹿鳴(ろくめい・沢田さわだ、儒者) B 5 2 0 8
 君貢(くんこう・富永) → 南陔(なんがい・富永とみなが、国学/詩歌) I 3 2 6 8
 君厚(くんこう・松本) → 愚山(ぐざん・松本まつもと、儒者/詩人) 1 7 4 7
 君恒(くんこう・橋野) → 方久(まさひさ・橋野はしの、商家/儒者/歌) G 4 0 7 9
 薫行(くんこう・村山) → 素行(そこう・村山むらやま/藤原、歌人) D 2 5 7 3
 薫綱(くんこう・佐々木) → 薫綱(しげつな・佐々木ささき、藩士/国学) O 2 1 5 1
- D1763 郡高(ぐんこう・松下) ?- ? 江後期兵学者、神儒仏三教論、
 1801「神武権衡録」著
- D1769 群国(ぐんこく) ?- ? 江前期俳人;1693不角「二息」入、
 [座のしほに位牌を代限ねざる雨やどり](二息/座のしほはその場の愛敬/仏具屋に雨宿り)
- 群吾郎(ぐんごろう・賀古) → 清廉(きよかど・賀古かこ、藩士/文筆家) O 1 6 7 3
 君菜(くんさい・朝比奈) → 南山(なんざん・朝比奈あさひな、儒者/詩) J 3 2 0 2
 君菜(くんさい・朝倉) → 景衡(かげひら・朝倉あさくら、医者/和漢学) E 1 5 9 8
 君裁(くんさい・山内) → 豊熙(とよてる・山内やまのうち、藩主/教育) R 3 1 3 3
 群左衛門(ぐんざえもん・真野) → 頼恭(よりたか・真野まの、藩士/儒/狂歌) I 4 7 9 1
 群左衛門(ぐんざえもん・武田) → 信城(のぶき・武田たけだ、藩士/歌人) J 3 5 0 6
 軍三郎(ぐんざぶろう・市兼) → 静風(せいふう・市兼いちかね/源、藩士/歌) J 2 4 3 3
- D1764 君山(くんざん・大沢おおさわ、名;猶興、印牧かねまさ甚兵衛男) 1670?-1742? 加賀石川郡増泉村の儒者、
 多賀信濃家臣;家老役/大沢に改姓、1739致仕、儒者;牧迂巷・羽黒成実・伊藤由貞門、
 詩文;「君山詩草」「閼耕窠集」著、1736「加越能大路水経」編、
 1706平岩仙山「忘筌窠爨桐ほうせんかさんと集」序跋;
 友人の仙山は死を前に草稿を火中に投したので君山が諸方に残る4百余編を収集刊行、
 [君山の字/通称/別号]字;希傑/基甫、通称;忠左衛門、
 別号;四水/閼耕窠げきこうか/水南潜夫
 友人 → 仙山(せんざん・平岩/平巖/平、儒/詩人) F 2 4 4 6
- 1728 君山(くんざん・松平まつだいら、名;秀雲、千村ちむら秀信男) 1697-1783? 1709松平久忠の婿養子/24家督、
 尾張藩儒;馬廻組/1743書物奉行、書庫吏隠亭に3千7百余冊蔵書、
 1781(安永10/85歳)絵師内藤東甫(閑水)主催の金剛山長栄寺尚齒会に参加(9人);詩賦、
 藩士系譜「士林派涸そかい」編、地誌「尾張府志」/詩「弊帚集」著、
 「君山漫録」「吏隠亭漫録」「朝林」「楽府尋源」「韓人唱和」「海南紀行」「吉蘇行記」「種樹行記」著、
 「南浦游草」「濃陽行紀」、「君山先生奇談」「群芳洞文稿」外著多数、
 [松平君山の幼名/字/通称/別号]幼名;弥之助/太郎助、字;士竜/子竜、通称;太郎左衛門、
 別号;龍吟子/富春山人/吏隠亭/群芳洞/壺簪窩こうしんか主人、法号;詮栄院
- D1765 君山(くんざん・小野おの、名;明/字;子彝)?-? 江中期江戸の儒者;片山兼山門、書/篆刻;印刻、
 1747「君山印函」、「君山印譜」「古今印典」著、
 [君山の通称/別号]通称;五郎、別号;(剃髪後)善庵/蓮花道人
- B1722 君山(くんざん・唐橋からし、名;世済せいさい/剛克、字;美卿、秀成男) 1736-1800? 江戸の儒医;父門、
 儒詩文;高野蘭亭・大内熊耳・服部南郭門、1784豊後岡藩侍医/87藩医学教授、

岡城西大勝院に円通閣創建;詩文書画指導、地誌局開設に参画、
 地誌;「豊後風土記解」「豊後国誌」「豊州志」「箋积豊後風土記」著、
 狂詩歌文;1770「娛息齋詩文集」74「諺鏡」79「飲仙物語」「浮世草」「諺合鏡」、「魚籃春遊記」入、
 [君山の別号]別号(狂名);娛息齋延命/五息齋延命/五息齋園蓑/闇雲先生/小棹こうめ散人

B1721 君山(くんざん・深沢ふかざわ、名;薫、茂英男/喬山の孫)1741-1809⁶⁹ 播磨三日月藩士;用人/家老、
 藩政尽力;1796藩校広業館創設;都講、漢学/国学に精通、地理/天文/武道/茶/俳諧に通ず、
 1773「類聚冠辞略解」75「万葉摘芳」89「行客袖珍」96「国風発蒙」著、
 「君山詩文集」「君山和歌集」著、
 [君山の字/通称/別号]字;南公/南山、通称:空/十太夫、別号;東阿

D1766 君山(くんざん・宮本みやもと/修姓;宮、名;政瓊/瓊、星溪男)?-1827 備中倉敷の絵師/1801頃大阪住、
 1805「新書画展観款録」編/07「漢画独稽古」16「夷曲梅のもと集」、「狂歌百富士三郎」著、
 [君山の字/別号]字;伯鳳、別号;峨洋堂主人、峨洋堂宮本屋俊蔵との関係?

E1727 薫山(くんざん;法諱・関せき、)1814-89⁷⁶ 上野利根郡の但馬院住職、国学・歌;橋本直香ただか門、
 維新後;大講義

- | | | | |
|--------------------------|---|----------------------------|-----------|
| 君山(くんざん・功刀) | → | 君章(くんしょう・功刀くのぎ、藩士/詩人) | B 1 7 8 8 |
| 君山(くんざん・魏/鉅鹿) | → | 皓(皓こう・魏ぎ・鉅鹿おおが、明楽みながく) | H 1 9 1 1 |
| 君山(くんざん・山崎) | → | 石燕(せきえん・山崎やまさき、儒者/絵師) | J 2 4 9 4 |
| 君山(くんざん・中村) | → | 文輔(ふみすけ・中村なかむら、藩儒/故実) | I 3 8 5 4 |
| 君山(くんざん・明星) | → | 延貞(のぶさだ・明星あかばし、商家/歌人) | H 3 5 1 1 |
| 君山(くんざん・曾根) | → | 貞幹(ていかん・曾根そね、翻訳文筆家) | 3 0 4 7 |
| 君山(くんざん・吉川) | → | 弘道(ひろみち・吉川よしかわ、絵師) | H 3 7 3 5 |
| 君山(くんざん・小永井) | → | 小舟(しょうしゅう・小永井こながい/平野、幕臣/儒) | S 2 2 9 5 |
| 薫山(くんざん・小野) | → | 職愨(もとよし・小野おの、本草家) | E 4 4 8 0 |
| 薫山(くんざん・平久間) | → | 盛章(もりあき・平久間ひらくま、狂歌/国学) | L 4 4 1 4 |
| 郡山(ぐんざん) | → | 尺庵(せきりゅう・吉沢、国学/俳人) | D 2 4 9 6 |
| 郡山散人(ぐんざんさんじん/こおりやまさんじん) | → | 淇園(きえん・柳沢、儒詩/画) | 1 6 0 3 |
| 君山人(くんざんじん) | → | 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) | C 3 0 5 1 |
| 君山党陰(くんざんとういん) | → | 綱徳(つなりの・河原、藩家老/日記) | B 2 9 2 0 |
| 君山道人(くんざんどうじん) | → | 貞幹(ていかん・曾根そね、翻訳文筆家) | 3 0 4 7 |
| 君之(くんし/きみゆき・水本) | → | 成美(なりよし・水本みずもと、儒者) | I 3 2 4 1 |
| 君錫(くんし・宋/楠本) | → | 紫山(しざん・宋そう、楠本/南、絵師) | D 2 1 7 3 |
| 君錫(くんし・井川) | → | 鳴門(めいもん・井川いかわ/橋、書家/絵師) | 4 3 4 0 |
| 訓之(くんし・羽倉はくら/細井) | → | 算木有政(さんぎのありまさ、国学/狂歌) | F 2 0 7 2 |
| 薫子(くんし・若江/菅原) | → | 薫子(におこ・若江わかえ、和漢学/歌) | 3 3 1 2 |
| 薫子(くんし・近衛) | → | 薫子(のぶこ・近衛、経熙つねひろ室、日記) | B 3 5 3 9 |
| 群司(ぐんし・武井) | → | 淡山(たんざん・武井たけい、藩士/儒者) | I 2 6 2 2 |
| 群次(ぐんじ・小林) | → | 忠明(ただあき・小林こばやし、陪臣/歌人) | X 2 6 0 0 |
| 郡司(ぐんじ・栗田) | → | 知周(ともかね・栗田あわた、神職/歌人) | P 3 1 3 6 |
| 軍司(ぐんじ・大江) | → | 春塘(しゅんとう・大江おおえ、藩士/蘭医) | L 2 1 5 6 |
| 軍治(ぐんじ・有井) | → | 浮風(ふふう・有井ありい、俳人) | D 3 8 6 8 |
| 軍治(ぐんじ・玉虫) | → | 尚茂(ひさしげ・玉虫たまむし、藩士/兵学) | B 3 7 1 2 |
| 軍治(軍次ぐんじ・村瀬) | → | 大式(だいに・山県、医者/漢学/尊王論) | C 2 6 0 3 |
| 軍治(ぐんじ・能勢) | → | 明陳(あきのぶ・能勢のせ、藩士/儒者) | I 1 0 2 3 |
| 軍次(ぐんじ・沢村) | → | 之憲(ゆきのり・沢村さわむら/平、藩士/歌) | G 4 6 9 0 |
| 軍次(郡二ぐんじ・飯田) | → | 昌秀(まさひで・飯田/山本、国学者) | G 4 0 7 6 |
| 君子軒(くんしけん) | → | 南山(なんざん・内田うちだ、医者/儒/詩) | J 3 2 0 5 |
| 君実(くんじつ・和智わち) | → | 東郊(とうこう・和智わち、儒者/詩) | D 3 1 7 5 |
| 君実(くんじつ/きみざね?・熊坂) | → | 磐谷(ばんこく・熊坂/熊阪くまさか、儒者) | H 3 6 6 3 |
| 君実(くんじつ・佐野) | → | 西山(ゆうざん・佐野さの/中井、藩儒) | B 4 6 9 4 |
| 君実(くんじつ・天野) | → | 謙吉(けんきち・天野あまの、藩士/儒詩) | I 1 8 4 0 |

君子亭(くんしてい) → 広沢(こうたく・細井ほせい/辻、儒/書家) 1914
 君子内親王(くんしなしいんのう) → 君子内親王(きみこないしんのう、宇多天皇皇女/女三のみこ) F1660
 君綽(くんしゃく・堀) → 勝名(かつな・堀ほり、家老;藩政改革/歌) N1561
 君綽(くんしゃく・松田) → 棟園(ていえん・松田まつだ、藩儒) 3035
 君綽(くんしゃく・桃井/桃) → 筋山(せつざん・桃井/桃もも、藩儒和学) E2439
 君綽(くんしゃく・北村) → 国雅(くにまさ・北村きたむら、国学/歌人) E1713
 君錫(くんしゃく・河村) → 岷雪(みんせつ・河村かわむら、絵師) G4183
 君錫(くんしゃく・伊藤/江村) → 北海(ほっかい・江村えむら/伊藤、儒者/詩) 3970
 君手(くんじゅ・和珥部) → 君手(きみて・和珥部[和邇部]臣むにべのおみ、廷臣) G1624
 君樹(くんじゅ・山路) → 主住(ぬしずみ・山路、幕臣/天文曆算) 3407
 君受(くんじゅ・多賀たが) → 一蝶(いちてつ・初世いちちゅう・英はなぶさ、絵師) C1108
 君寿(くんじゅ・杉田/加藤) → 肩吾(けんご・加藤かとう、藩医者/魯語) I1859
 群樹(ぐんじゅ・木田余) → 群樹(むらき・木田余きだまり/源、藩士/歌) D4273
 君舟(くんしゅう・生山) → 正方(まさかた・生山いくやま/うぶやま/藤原、神職/国学) N4051
 君習(くんしゅう・江沢) → 講修(ときなが・江沢、国学/詩歌) J3160
 君修(くんしゅう・山崎) → 範古(のりひさ・山崎、藩家老/系譜作成) F3551
 君修(くんしゅう・狩野) → 間斎(かんさい・狩野かのう、儒者) Q1560
 君修(くんしゅう・御粥) → 安本(やすもと・御粥おかゆ、和算家) D4527
 君脩(くんしゅう・松崎) → 觀海(かんかい・松崎まつさき、藩士/儒者) 1546
 君聚(くんしゅう・駒井) → 乗邨(のりむら・駒井、藩士/国学/隨筆) F3595
 君柔(くんじゅう・水野/京極) → 高明((たかあきら・京極、幕臣/詩人) L2650
 君柔(くんじゅう・森田) → 甫三(ふさん・森田もりた、医者/詩) E3916
 訓重(くんじゅう・木口) → 訓重(のりしげ・木口きぐち/垣屋、国学/神職) I3507
 君肅(くんじゅう・山内) → 豊雍(とよか・山内やまのうち、藩主/歌) R3126
 薫叔(くんじゅう・村尾) → 元融(げんゆう・村尾むらお、医/儒/国学者) D1817
 君潤(くんじゅん・河原) → 沢(たく・河原、儒者/晰本作者) E2616
 君潤(くんじゅん・川田) → 雄琴(ゆうきん・川田、藩儒/陽明・朱子学) B4626
 君緒(くんじょ・加藤) → 景纘(かげよし・加藤かとう、儒者/詩画) L1550
 君恕(くんじょ・本間) → 忠(ちゅう・本間、儒者) F2870
 君恕(くんじょ・木村) → 蓬萊(ほうらい・木村きむら、儒者/詩人) C3966
 君恕(くんじょ・梅津) → 白巖(はくがん・梅津うめづ、儒者) C3689
 群女(ぐんじょ・並井) → 群女(むらじょ・並井なみい、俳人) 4216

B1788 君章(くんしょう/きみあき・功刀くのぎ、字;子合、千右衛門男)?-1759 彦根藩士/1726騎馬徒/門番頭、詩文/絵、高野蘭亭・沢村琴所・野村公台と交友、「井伊年譜」「井家故事」著、詩;菴草廬集入、[君章の通称/号]通称;代之介よのすけ/助七郎/庄左衛門、号;君山

君章(くんしょう・岡/岡田) → 南山(なんざん・岡田、儒者) J3208
 君章(くんしょう・吉村) → 光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画) E4102
 君章(くんしょう・越智) → 鳳台(ほうだい・越智おち、藩士/兵法家) C3922
 君章(くんしょう・井上) → 峨山(がざん・井上いのうえ、藩士/儒者) H1547
 君章(くんしょう・香川) → 景達(かげたう・香川かがわ、藩士/国学者) U1511
 君升(くんしょう・岡田) → 確堂(かくどう・岡田おかだ、藩士/儒者) K1532
 君尚(くんしょう・佐藤) → 寛雄(ひろお・佐藤さとう、神職/地誌家) F3759
 君璋(くんしょう・川上) → 東山(とうざん・川上、儒詩/史学) E3157
 君祥(くんしょう・水山/生駒/土師) → 熊文(くまぶん・生駒/土師はじ、国学) D1743
 君祥(くんしょう・河村) → 竹溪(ちくけい・河村かわむら、儒者) C2891
 瑠璋(るしょう・古川) → 氏清(うじきよ・古川、幕臣/和算家) B1283
 勲章(くんしょう・中条) → 康永(やすなが・中条ちゅうじょう/分部、藩士;城代) C4541
 君常(くんじょう・関) → 讚蔵(さんざう・関せき、藩士/砲術家) M2056

E1715 群松(ぐんしょう・小島こじま、号;適宜亭)?-? 武蔵入間郡の国学者;井上淑蔭よしかげ(1804-86)門
 薫松軒(くんしょうけん) → 大浪(たいろう・石川、幕臣/絵師) L2637

君子楼(くんしろう) → 吉輔(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) D 4 7 8 0
 軍次郎(ぐんじろう・松平) → 康任(やすとう・松平、藩主/万葉研究) C 4 5 1 6
 君深(くんしん・河村) → 秀根(ひでね・河村かわむら、藩士/国学者) D 3 7 5 4
 群人(ぐんじん・高木) → 竹妓(ちくぎ・高木たかぎ、俳人) C 2 8 8 2
 薫翠(くんすい・菊池) → 薫(かおる・菊池きくち、国学/歌人) U 1 5 4 9
 君瑞(くんずい・竹俣) → 当綱(まさつな・竹俣たけのまた、藩士/藩政) D 4 0 9 8
 君瑞(くんずい・越智/曲直瀬まなせ) → 雲夢(うんむ・越智、幕府医/儒者) E 1 2 0 6
 君瑞(くんずい・武雄) → 逍遥(しょうよう・武雄たけお、儒者) B 2 2 8 6
 郡助(ぐんすけ・向井) → 履視(りし・向井むかい、藩士/俳人) B 4 9 1 5

B1723 君清(くんせい・山本やまもと、名; 纒)?-? 江後期京の医者: 1801刊「痔漏口訣」著、
 [君清(;字)の通称/号]通称; 静達、号; 穀庵

君正(くんせい・佐藤) → 圭陰(桂陰けいいん・佐藤さとう、医/詩人) F 1 8 2 4
 君成(くんせい・有馬) → 頼永(よりとお・有馬ありま、藩主/詩文) J 4 7 1 3
 君成(くんせい・藤沢) → 南岳(なんがく・藤沢、藩士/儒者/教育) J 3 2 9 6
 君静(くんせい・西原) → 晃樹(あさき・西原、藩士/国学者) 1 0 4 7
 君哲(くんせい・源) → 世昭(せいしょう・源みなもと、儒者/詩人) I 2 4 7 7
 薫世(くんせい・藤川) → 貞賢(さだかた・藤川ふじかわ、藩士/歌人) H 2 0 9 8
 君石(くんせき・生駒) → 元珉(げんみん・生駒いこま、医者) M 1 8 4 6
 君積(くんせき・本多) → 忠升(ただたか・本多ほんだ、藩主/儒/詩歌) F 2 6 2 3
 君績(くんせき・柘植) → 葛城(かつじょう・柘植つげ、医者/詩人) N 1 5 4 5
 君績(くんせき・村瀬) → 栲亭(こうてい・村瀬むらせ、儒者) 1 9 1 5
 君錫(くんせき・河村) → 岷雪(みんせつ・河村かわむら、絵師) G 4 1 8 3
 君錫(くんせき・伊藤/江村) → 北海(ほっかい・江村えむら/伊藤、儒者/詩) 3 9 7 0
 君節(くんせつ・久保) → 筑水(ちくすい・久保くぼ、漢学者/講説業) D 2 8 2 5
 君節(くんせつ・桜井) → 竜淵(りゅうえん・桜井さくらい、儒者/詩歌) D 4 9 0 2
 君川(くんせん・奥田) → 常雄(つねかつ・奥田/橘、藩士/国学者) B 2 9 9 7
 君潜(くんせん・石川) → 彦岳(げんがく・石川いしかわ、藩士/儒者) E 1 8 9 2
 君選(くんせん・増山) → 正賢(まさかた・増山ましま、藩主/書画) B 4 0 9 0
 薫泉(くんせん・木俣) → 周平(かねひら・木俣きたまた/正木、国学/歌) U 1 5 4 5
 君素(くんそ・高野) → 春華(しゅんか・高野、藩士/儒者/詩人) J 2 1 2 8
 軍曹(ぐんそう・森脇) → 軍蔵(ぐんぞう・森脇もりわき、神道家/歌) B 1 7 1 3

B1713 軍蔵(ぐんぞう・森脇もりわき、名; 惟右これすけ、三久みつひさ男/本姓平) 1700-7879 周防岩国神道家; 家学父門、
 1714岩国藩主に神道講義(15歳)、歌学; 香川宣阿/景新門・連歌; 里村家門、神道; 白川家門、
 「大祓話訓」「神国立教論」「神道学語」「世記要語鈔」「神道五帖」「梅蔭齋歌集」著、
 養嗣子; 筏 惟良これよし、井上長盈の師、

[軍蔵(;通称)の別通称/号]別通称; 軍曹、号; 梅蔭齋/竹隣/笠庵

軍三(ぐんぞう・秋良) → 貞温(さだあつ・秋良あきら、藩士/国事) H 2 0 7 2
 軍曹(ぐんぞう郡三・森脇) → 惟良(これよし・森脇もりわき/筏、軍蔵惟右養子/神道/歌) R 1 9 2 2
 軍曹(軍蔵ぐんぞう・森脇) → 惟久(これひさ・森脇/吉川、惟良養子/神道/歌) R 1 9 2 3
 軍蔵(ぐんぞう・堀内) → 之晴(これはる・堀内ほりうち、藩士/国学者) R 1 9 2 7
 郡蔵(ぐんぞう・白石) → 道賢(どうけん・白石、和算家) D 3 1 5 7
 君足(くんそく・若桜部) → 君足(きみたり・若桜部わかさくらべ朝臣、万葉歌人) B 1 6 8 4
 君則(くんそく・鈴木) → 順亭(じゅんてい・鈴木、儒/医/国学) K 2 1 3 1
 君則(くんそく・谷田貝/森) → 蘭沢(らんたく・森/杜もり/谷田貝、藩儒) C 4 8 9 5
 君測(くんそく・諸葛) → 琴台(きんだい・諸葛もろくず、儒者/度量学) I 1 6 1 3
 軍太(ぐんた・長尾) → 景寛(かげひろ・長尾まななお、歌学/藩士) V 1 5 2 5
 君沢(くんとく・佐野) → 東洲(とうしゅう・佐野さの、書家) E 3 1 9 6
 君扱(くんとく・吉村) → 翠山(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者) 2 3 6 2
 君達(くんだつ・山崎) → 玄東(げんとう・山崎やまざき、蘭学/蘭医) L 1 8 8 4
 君達(くんだつ・稲葉) → 通邦(みちくに・稲葉、藩士/礼法/故実家) B 4 1 4 2

- 郡太夫(ぐんだゆう・岡井) → 嵯州(けんしゅう・岡井おかい、藩士/儒者) C 1 8 0 5
郡太夫(ぐんだゆう・岡井) → 赤城(せきじょう・岡井、嵯州男/藩儒/詩) D 2 4 5 4
郡太夫(ぐんだゆう・岡井) → 文皮(ぶんび・岡井/門馬、赤城養子/藩儒) G 3 8 3 5
郡太夫(ぐんだゆう・井本) → 常蔭(つねかげ・井本いもと、藩士/国学/歌) F 2 9 1 8
薫太郎(ぐんたろう・今井/大国) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7
軍太郎(ぐんたろう・木村) → 重周(しげちか・木村きむら、藩士/蘭学者) R 2 1 4 4
C1707 郡智(ぐんち・三滝みたき、通称;四郎右[左]衛門)?-? 江前期和算家:関孝和門、1674刊「発微算法」校
C1714 君竹(くんちく、常筭亭じょうじゅんてい)?-? 晰家:
1770「立春晰大集りつしゅんはなしおおよせ」蘭庭と共編/画;春朝斎
C1715 君仲(くんちゅう・桑原くわばら、通称;駒次郎/勇助)?-? 江中期1741-44頃江戸麹町の湯屋、
将棋:9世宗桂門/4段、1759伊藤看寿との棋譜現存、1836「将碁玉図」49「将碁極妙」著
君冑(くんちゅう・田中/鎬木) → 梅溪(ばいけい・鎬木/田中、絵師) B 3 6 0 3
君仲(くんちゅう・金子) → 鶴村(かくそん・金子かねこ、漢学/藩儒) H 1 5 3 3
君籌(くんちゅう・山内) → 豊策(とよかぜ・山内やまのうち、藩主/歌人) R 3 1 0 9
君長(くんちよう・関) → 松窓(しょうそう・関せき、儒者/詩人) T 2 2 9 8
君徴(くんちよう・長久保ながくぼ) → 藤巷(とうこう・長久保、儒者) 3 1 9 6
訓昶(くんちよう・西尾) → 訓昶(のりひさ・西尾にしお、藩士、国学者) J 3 5 4 8
君鎮(くんちん・岸) → 岱(たい・岸さし、岸岱、絵師) 2 6 0 0
君貞(くんてい・武村) → 南窓(なんそう・武村たけむら、書家) J 3 2 2 4
君鼎(くんてい・中村) → 竜庵(りゅうあん・中村なかむら、医者) C 4 9 7 0
君悌(くんてい・伊沢) → 蘭軒(らんせん・伊沢いさわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3
薫庭(くんてい・青木) → 秀枝(ほつえ・青木あおき/丹治比、料理/尊攘/歌) G 3 9 1 3
君貼(くんてん・青木) → 典則(つねのり・青木あおき、里正/国学/画) F 2 9 1 1
君度(くんど・中神) → 守筋(もりとき・中神ながみ、幕臣/書編纂) F 4 4 9 0
君韜(くんとう・諸葛) → 帰春(きしゅん・諸葛もろくず、藩士/儒者) I 1 6 6 0
訓棟(くんとう・西岡) → 訓棟(のりたか・西岡/谷/秦、国学/歌) H 3 5 8 0
C1716 薫動(くんどう) ? - ? 江中期1751-64頃上州強戸村曹洞宗瑞光寺住職、
新田秩父34番観音札所を設定、「新田秩父順礼詠歌記」著
君道(くんどう・中台) → 元(はじめ・中台なかだい、藩士/儒者) E 3 6 4 3
君洞(くんどう・古屋) → 眞章(まなか・古屋ふるや、神職/国学) H 2 0 1 8
瑠璋(るぢょう・古川) → 氏一(うじかず・古川ふるかわ、和算家) B 1 2 8 2
C1717 君徳(くんとく・小出こいで、名;竜、字;立圭/吉員)?-? 1830-44頃備後品治郡の医者;恵美三白門、
大阪で開業、十余名の屍体解剖;人体各部の位置形状を詳述、
1836「導竅私録」39「導竅私録補」、「薇山手録」著、
[君徳(;通称)の別通称/号]別通称;隆逸、号;薇山
君徳(くんとく/きんり・有馬) → 誉純(なすみ・有馬、藩主/文筆) G 3 2 6 3
君徳(くんとく・青木) → 芳斎(ほうさい・青木/湯浅、蘭方医者) 3 9 8 5
君独(くんどく・伊藤) → 慎蔵(しんぞう・伊藤いとう、蘭学者) P 2 2 2 5
君寧(くんねい・勝田) → 義安(よしやす・勝田かつた、弓術家) H 4 7 7 8
郡之丞(ぐんのじょう・善波) → 明德(あきのり・善波よしなみ、藩士/歌) D 1 0 7 9
郡之進(ぐんのしん・石井) → 雅穎(まさかひ・石井/清原、和算家) B 4 0 6 5
薫梅(くんばい) → 久米子(くめこ・土井どい、藩主妻/歌人) D 1 7 7 6
君璞(くんはく・月形) → 鷗窠(しゅうか・月形つきがた、藩士/儒者) F 2 2 7 2
軍八(ぐんぱち・夏目) → 定房(さだふさ・夏目、藩士/軍記作者) J 2 0 5 8
君美(くんび/きみよし?・熊坂) → 磐谷(ばんこく・熊坂/熊坂くまさか、儒者) H 3 6 6 3
君美(くんび/きみよし?・田中) → 芹坡(きんば・田中たなか、儒者/藩士) J 1 6 0 7
君美(くんび・天野) → 謙吉(けんきち・天野あまの、藩士/儒詩) I 1 8 4 0
君美(くんび・恵美) → 三圭(さんけい・恵美えみ、藩医者) M 2 0 0 7
君美(くんび・岡島) → 竜湖(りゅうこ・岡島おかじま/谷田部/吉成、儒者) D 4 9 6 8
君美(くんび・新井) → 白石(はくせき・新井あらい、藩士/幕臣/儒者) 3 6 1 0

君美(くんび・片桐) → 忠成(ただなり・片桐かたぎり、藩士/記録) Q 2 6 3 6
 君美(くんび・宇賀/中根) → 東平(とうへい・中根/宇賀、藩士/儒者) H 3 1 0 5
 君微(くんび・高橋) → 松園(しょうえん・高橋たかはし、商家/儒詩) H 2 2 3 1
 君豹(くんひょう・垣内) → 己山(きざん・垣内かきうち、医者/儒/詩) K 1 6 6 1
 君豹(くんひょう・山田) → 月洲(げっしゅう・山田、藩士/儒者/詩) E 1 8 8 1
 君岷(くんびん・榎田) → 北岸(ほくがん・榎田/平、儒医/詩人/花) C 3 9 9 8
 君孚(くんぷ・東) → 恒軒(こうけん・東ひがし、儒者) G 1 9 3 0
 訓夫(くんぷ・慶徳) → 訓夫(のりお・慶徳けいとく/度会/村上、神職/歌) I 3 5 3 5
 君風(くんふう・湯川) → 寔洞(げいどう・湯川ゆかわ、儒者) E 1 8 9 3
 君風(郡風くんふう・神山) → 郡廉(くにきよ・神山こうやま、藩士/記録) C 1 7 7 3

C1700 君平(くんぺい・蒲生がもう、名;秀実/夷吾、福田又右衛門正栄男)1768-1813⁴⁶ 下野宇都宮の油商の生、
 国史;鈴木石橋(之徳)門/儒者・林門、折衷学/尊攘派、蒲生に改姓、
 「山陵志」「山陵考」「山陵古制在所」「貨財志」「経域志」「刑志」「文献志」「水利志」「姓族志」著、
 「礼儀志」「詩集」/1807「不恤緯ふじゅつ」著、
 [君平の別字/通称/号]別字;君蔵、通称;伊三郎、号;修静/修静庵、法号;修静院

君平(くんぺい・団/松浦) → 東溪(東溪とうけい・松浦、詩/記録蒐集) D 3 1 1 2
 君平(くんぺい・桃井) → 翠庵(すいあん・桃井/桃/坂根、藩儒/詩) 2 3 2 0
 君平(くんぺい・劉) → 石秋(石舟せきしゅう・劉りゅう/合谷、儒者) D 2 4 5 2
 君秉(くんぺい・菌田) → 一斎(いっさい・菌田そのだ、禰宜/儒詩) E 1 1 1 8
 君秉(くんぺい・高階) → 暘谷(ようこく・高階/高/渡辺、詩人) 4 7 8 2
 薫平(くんぺい・後藤) → 柏園(はくえん・後藤ごとう、豪農/儒者) C 3 6 6 7
 郡平(ぐんぺい・南条) → 信忠(のぶただ・南条なんじょう、藩士/記録) B 3 5 8 5
 郡平(ぐんぺい・穎川/葉) → 雅範(まさのり・穎川えがわ/葉/盧、通事) G 4 0 2 7
 君璧(くんぺき・鈴木) → 宜山(ぎざん・鈴木すずき、藩士/儒・医者) I 1 6 5 9
 君浦(くんぼ・宮内) → 嘉雄(よしお・宮内みやうち/吉川、和漢学/詩) P 4 7 3 6
 君方(くんぼう・佐瀬) → 主計(かづえ・佐瀬させ/させ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9
 君朋(くんぼう・関/川越) → 衡山(こうざん・川越かわごえ/関、医者) J 1 9 2 7
 君朋(くんぼう・佐々木) → 景欽(かげよし・佐々木ささき/香川、歌人) U 1 5 6 9
 君鳳(くんぼう・劉/合谷ごうや) → 石秋(石舟せきしゅう・劉りゅう、商家/儒者) D 2 4 5 2
 君鳳(くんぼう・奥山) → 榕斎(ようさい・奥山/糸井、藩士/儒者) 4 7 9 4
 君懋(くんぼう・木口) → 皜斎(こうさい・木口きぐち、藩士/儒者) I 1 9 9 8
 君茅(くんぼう・木原) → 桑宅(そうたく・木原さきはら、儒者/藩士) K 2 5 3 7
 群芳洞(ぐんぼうどう) → 君山(くんざん・松平まつだいら、藩士/儒者) 1 7 2 8
 群馬亭(ぐんまてい) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2
 君民(くんみん・磐瀬) → 玄策(げんさく・磐瀬いわせ、医者) J 1 8 1 3
 君岷(くんみん・榎田) → 北岸(ほくがん・榎田/平、儒医/詩人/花) C 3 9 9 8
 君明(くんめい・佐々原) → 梅操(ばいそう・佐々原ささはら、儒者) B 3 6 7 5
 君明(くんめい・高成田) → 琴台(きんだい・高成田たかなりた、藩士/経学) R 1 6 3 7
 君明(くんめい・太田) → 熊山(ゆうざん・太田おた、藩儒/詩人) C 4 6 0 0
 君鳴(くんめい・小野寺) → 鳳谷(ほうこく・小野寺、漢学/海防/詩) 3 9 7 6
 君模(くんも・藤井/上領) → 頼軌(よりのり・上領かみりょう/藤井、藩士/詩) J 4 7 4 7
 君弥(くんや→きんや・恵川) → 景雄(かげお・恵川えがわ、藩士/和算) K 1 5 8 1
 君雄(くんゆう・小原) → 君雄(きみお・小原おはら、藩士/国学/歌) B 1 6 8 1
 君猶(くんゆう・皆川) → 篁斎(こうさい・皆川みながわ、儒者) B 1 9 1 6
 君裕(くんゆう・山村) → 蘇門(そもん・山村良由たかよし、家老/儒詩) E 2 5 4 3
 君裕(くんゆう・山田/津阪) → 東陽(とうよう・津阪/菅原/山田、儒者) H 3 1 8 2
 君揖(くんゆう・恒川) → 樸巖(ぼくがん・恒川つねかわ、藩士/儒者) D 3 9 0 0
 君友(くんゆう・中西) → 鷹山(ようざん・中西なかにし、医者/古医方) B 4 7 0 4
 君預(くんよ・神代) → 名臣(なきみ・神代かみしろ、医/国学者) D 1 0 3 0
 君誉(くんよ・萱野) → 錢塘(せんとう・萱野かやの、藩士/儒者/詩) M 2 4 9 9

熏誉(くんよ;法名・心蓮社)→寂仙(じゃくせん;法諱・桂岳;字、浄土僧)W 2 1 0 3
 君用(くんよう・馬島) → 西山(せいざん;号・馬島まじま、詩人) I 2 4 4 6
 君翼(くんよく・堅田) → 絨造(じゅうぞう・堅田かただ、医者/本草家)X 2 1 9 0
 君翼(くんよく・篠野) → 一方(いっぽう/かずまさ・篠野ささの、医/狂歌詩)H 1 1 9 2
 群楽堂(ぐんらくどう・黒田)→ 長溥(ながひろ・黒田、藩主/連歌) F 3 2 5 9
 君履(くんり・久保寺) → 正福(まさとみ・久保寺、幕臣/和算家) E 4 0 5 8
 君立(くんりつ・武元) → 北林(ほくりん・武元/明石、庄屋/儒者) E 3 9 0 8
 君立(くんりつ・川島) → 蘭洲(らんしゅう・川島かわしま、農業/書家) C 4 8 6 4
 君栗(くんりつ・下郷) → 亀洞(きどう・千代倉/下郷、商業/俳人)B 1 6 5 7
 君栗(くんりつ・河村) → 秀穎(ひでかひ・河村かわむら、藩士/国学者)C 3 7 8 9
 君栗(くんりつ・森本) → 沙鷗(さおう・森本/平、酒造業/俳人) B 2 0 2 3
 君栗(くんりつ・堀内) → 素堂(そどう・堀内ほりのうち、藩医/蘭医/儒)K 2 5 2 0
 君栗(くんりつ・今) → 幹斎(かんさい・今こん、藩侍医/詩文) V 1 5 5 2
 君律(くんりつ・河村) → 秀根(ひでね・河村かわむら、藩士/国学者) D 3 7 5 4
 瑠瑠(くんにゅう・本間) → 季隆(すえたか・本間ほんま、和算家) F 2 3 4 9
 君竜(くんにゅう・水谷) → 雄琴(ゆうきん・水谷/水之谷みずのや、源、易占)B 4 6 2 8

D1767 薰陵(くんにりょう・尾池おいけ/初姓;谷口、名;正常/字;子習)1733-8452 讃岐大野原村の医者、
 尾池恭庵の養子、1781丸亀藩主の侍医、尾池桐陽とうようの養父、
 「医方便蒙」「古方要方」「脚気論治」著、「素靈八十一難正語」編

君亮(くんにりょう・中村/西川)→ 藁園(こうえん・西川にしかわ、医者/詩) H 1 9 7 0
 君亮(くんにりょう・石原) → 陳水(ちんすい、石原いしはら、儒者) K 2 8 8 4
 君量(くんにりょう・原) → 脩斎(しゅうさい・原はら、儒者/詩人) X 2 1 3 2
 君倫(くんにりん・池田) → 冠山(かんざん・松平、藩主/和漢学/文筆)D 1 5 8 0
 君林舎(くんにりんしゃ) → 素毛(そもう・加藤かとう、遣米使に随行) K 2 5 4 5
 君嶺(くんにれい・伊藤) → 栄吉(えいきち・伊藤、儒者/詩人) B 1 3 4 0
 君齡(くんにれい・加古) → 角洲(かくしゅう・加古かこ、医者) J 1 5 9 7
 君烈(くんにれつ・生駒) → 柳亭(りゅうてい・生駒いこま、藩士/儒者) F 4 9 2 5
 訓練(くんにれん・中山) → 和清(かずきよ・中山なかやま、藩士/兵学者)M 1 5 1 7
 郡廉(ぐんれん) → 郡廉(くにきよ・神山こうやま、和漢学) C 1 7 7 3
 君和(くんわ・朝夷/井上)→ 厚生(あつなり・朝夷あさいな、藩士/文筆) E 1 0 7 1